

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

大項目 1 教育内容及び教育の成果等	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	1-01	DP・CPに基づく教育活動の実質化、TA等の充実、大学院分野横断プログラム、早期履修制度の導入拡大、法曹コース運営、アクティブ・ラーニング推進、全学共通教育プログラム	A	A
	1-02	新英語教育プログラム開発、英語による授業科目の開講・検証、英語教育の改善	B	
	1-03	現場体験型インターンシップの質の向上、社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育の提供	B	
	1-04	グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)の実施、2大学1高専の連携	B	
	1-05	ルーブリック評価の導入(令和元年度に達成済)	-	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 1】年度評価

評価素案

評定	評定説明
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな大学院分野横断プログラムとして、「都市・高齢者」をテーマ候補に具体的な検討を行い、「超高齢社会学際プログラム」の開講を決定した。 学部生による大学院授業科目の早期履修制度を導入する研究科を拡大し、多くの履修学生が都立大大学院に進学した。 教育に貢献している教員に対して、学長表彰制度(ベスト・ティーチング・アワード)による表彰を行い、教育の質の向上に向けたインセンティブを与えた。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> TA従事者に対するアンケートについては、今後、アンケート回答者の割合を増やし、検証結果をより強固なものにすることを期待する。 コロナ禍での外部英語試験の中止はやむをえない面もあるが、学生の英語能力の把握・向上を図るためにも、オンラインでの実施も検討されたい。

参考意見(案)

<ul style="list-style-type: none"> ベスト・ティーチング・アワードは、教員の励みとなる良い取組である。一方、学生のアンケート評価等による選出等、評価の公平性が図られているのか気になる点がある。申請制度であるため、手を挙げない教員の活動も評価できるシステムであるといふと考える。 GCPについて、第8回は結果的に中止となったが、当初、都立大生の参加はリーダー2名のみであった。今後、都立大生が積極的に参画することを期待する。

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
2	◎ コロナ禍の発生までは順調にKPIの達成に向かっていくことを評価したい。またコロナ禍への迅速な対応も評価できる。
2	◎ 新たな大学院分野横断プログラムの検討、早期履修制度の導入部局の拡大、法曹コースの運営など、学際的な大学院教育プログラムの拡充とともに、学士課程教育との接続を深め、大学院教育の充実を図っている。 ◇ 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている。全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。 ▲ 新型コロナウイルス感染防止のため外部英語試験の中止はやむをえない面もあるが、オンライン実施を検討することもできたのではないかと。英語クラスの編成にはあまり支障はなかったかもしれないが、大学にとっても学生個人にとっても経年的な学習成果のデータとして取得することは有益であろう。
2	◎ TA制度について、オンライン形式の授業実施により、配置数は減ったものの、オンライン形式の授業の補助等に活用するためのTA予算を追加配布する等、コロナ禍において、円滑な授業実施と、より多くの学生にTA等として従事する機会の創出に努力した点が評価できる。 ◎ 新たな大学院分野横断プログラムとして、「都市・高齢者」をテーマ候補に具体的な検討を開始した点が評価できる。担当教員によるプロモーション動画の作成・公開により、学生への興味喚起も行われている。 ◎ 学長表彰制度(ベスト・ティーチング・アワード)を授与し、教育に貢献している教員に対するインセンティブを与え、教育改善が推進されている点が評価できる。FD関連セミナーとして成果発表会を開催し、取組の成果を学内で共有し、教育の充実・改善を推進している点も評価できる。
3	
2	◎ 大学院分野横断プログラムは、平成30(2018)年度に2プログラムを開講したことは、時代のニーズにあい、かつ分野横断でこそ取り組めるテーマであり評価できる。 ◎ 連携大学院協定による幅広い教育が実践されている。 ◇ ベスト・ティーチング・アワードは、教員の励みになってとても良い取り組みである。一方、明記されていないが、学生のアンケート評価などによるなど評価の公平性が図られているのか気になった。申請制度のようなので、手を挙げない教員の寄与も評価できるシステムであるといふと考えた。
2	◎ 「早期履修制度」の拡充 ◇ (コロナ感染対策下ではあるが)語学力向上への取組み(WEB活用など) ◇ GCPへの都立大のより積極的な参画(リーダー2名のみは寂しい)
2	◎ DPの学修成果の記載やカリキュラム・マップを見直し、体系的なカリキュラム編成を可視化し、定着させた。 ◎ 大学院分野横断プログラムとして「超高齢社会学際プログラム」が設置された。 ◎ 学部生による大学院授業科目の早期履修制度を導入する研究科が拡大し、多くの履修生が大学院に進学した。 ◇ TA従事者に対するアンケートにより、TA制度が概ね有効に機能していることが確認された点とあるが、アンケート回答者の割合(110/423)を増やし、検証結果をより強固にする。

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目1】見込評価																					
評価素案	委員別評定等																				
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> TA等の充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修制度の拡充等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業におけるTA等の配置について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により人数が令和元年度比で半数程度に留まっている。コロナ禍の収束後も見据え、配置人数の拡充に向けた取組の推進を期待する。 1年次生の外部英語試験受験率について、100%を目指して取り組んでいただきたい。 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている中で、全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。 </td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明	(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> TA等の充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修制度の拡充等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業におけるTA等の配置について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により人数が令和元年度比で半数程度に留まっている。コロナ禍の収束後も見据え、配置人数の拡充に向けた取組の推進を期待する。 1年次生の外部英語試験受験率について、100%を目指して取り組んでいただきたい。 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている中で、全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。 	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 設定したKPIの達成に確実に向かっていることは評価でき、コロナ禍の影響もあるが早急な対応策を講じたことで見込みも立ちそうである。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている。全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 大学院分野横断プログラムとして、令和3年度に新プログラムが1つ開講される予定である点が評価できる。都市における超高齢社会の課題に対して、社会福祉学、建築学、都市政策科学、作業療法科学の4学域が連携したカリキュラム構築により、都立大学の特色や強みを生かした取組みが期待される。 ◇ 授業におけるTA等を年間延べ1,000人以上配置することを目標としている中、令和元年度には944人まで人数を拡大してきた。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により人数が半数程度にとどまったが、オンライン授業のサポート、コロナ後を見据えた配置への取組等、今後の取組が期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 教育の質の改善に貢献した取組みについて「ベスト・ティーチング・アワード」で表彰し、教育改善推進の一助となっている。 ◇ データサイエンス・AI等に関する新たな副専攻プログラムを導入するということで、社会の要請に対応している。 ◇ 全学共通教育プログラムとして、学生が多様な科目を分離の枠を超えて主体的に履修する仕組みを検討している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 2プログラムの実績にもとづき令和3(2021)年度には新プログラム1つを開講する点、期待できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ (ポストコロナにおける)TAの拡充 ◇ 1年次のTOEIC受験率の100%化に取り組んでいただきたい ◇ GCPへの都立大のより積極的な参画(リーダー2名のみは寂しい)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ TAの充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修などが順調に進められている。 ◎ 適切な成績評価方法を導入し、学生の質保証を充実させた。 ◎ 法人や2大学1高専の教職員間における情報共有・意見交換の場を継続して設けることにより、新たな連携の在り方について検討する場が用意された。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	2	◎ 設定したKPIの達成に確実に向かっていることは評価でき、コロナ禍の影響もあるが早急な対応策を講じたことで見込みも立ちそうである。	2	◇ 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている。全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。	2	◎ 大学院分野横断プログラムとして、令和3年度に新プログラムが1つ開講される予定である点が評価できる。都市における超高齢社会の課題に対して、社会福祉学、建築学、都市政策科学、作業療法科学の4学域が連携したカリキュラム構築により、都立大学の特色や強みを生かした取組みが期待される。 ◇ 授業におけるTA等を年間延べ1,000人以上配置することを目標としている中、令和元年度には944人まで人数を拡大してきた。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により人数が半数程度にとどまったが、オンライン授業のサポート、コロナ後を見据えた配置への取組等、今後の取組が期待される。	3	◎ 教育の質の改善に貢献した取組みについて「ベスト・ティーチング・アワード」で表彰し、教育改善推進の一助となっている。 ◇ データサイエンス・AI等に関する新たな副専攻プログラムを導入するということで、社会の要請に対応している。 ◇ 全学共通教育プログラムとして、学生が多様な科目を分離の枠を超えて主体的に履修する仕組みを検討している。	3	◎ 2プログラムの実績にもとづき令和3(2021)年度には新プログラム1つを開講する点、期待できる。	2	◇ (ポストコロナにおける)TAの拡充 ◇ 1年次のTOEIC受験率の100%化に取り組んでいただきたい ◇ GCPへの都立大のより積極的な参画(リーダー2名のみは寂しい)	2	◎ TAの充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修などが順調に進められている。 ◎ 適切な成績評価方法を導入し、学生の質保証を充実させた。 ◎ 法人や2大学1高専の教職員間における情報共有・意見交換の場を継続して設けることにより、新たな連携の在り方について検討する場が用意された。
評定	評定説明																				
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> TA等の充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修制度の拡充等、教育の質の向上に向けた取組が着実に進んでいる。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業におけるTA等の配置について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により人数が令和元年度比で半数程度に留まっている。コロナ禍の収束後も見据え、配置人数の拡充に向けた取組の推進を期待する。 1年次生の外部英語試験受験率について、100%を目指して取り組んでいただきたい。 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている中で、全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。 																				
評定	評定説明（コメント）																				
2	◎ 設定したKPIの達成に確実に向かっていることは評価でき、コロナ禍の影響もあるが早急な対応策を講じたことで見込みも立ちそうである。																				
2	◇ 近年、文理に捉われない幅広い教育の重要性について学士課程、大学院課程ともに注目されている。全学共通教育プログラムの改革が進展し、多くの学生が実質的にこうした教育を受けられるような工夫が講じられることを期待する。																				
2	◎ 大学院分野横断プログラムとして、令和3年度に新プログラムが1つ開講される予定である点が評価できる。都市における超高齢社会の課題に対して、社会福祉学、建築学、都市政策科学、作業療法科学の4学域が連携したカリキュラム構築により、都立大学の特色や強みを生かした取組みが期待される。 ◇ 授業におけるTA等を年間延べ1,000人以上配置することを目標としている中、令和元年度には944人まで人数を拡大してきた。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により人数が半数程度にとどまったが、オンライン授業のサポート、コロナ後を見据えた配置への取組等、今後の取組が期待される。																				
3	◎ 教育の質の改善に貢献した取組みについて「ベスト・ティーチング・アワード」で表彰し、教育改善推進の一助となっている。 ◇ データサイエンス・AI等に関する新たな副専攻プログラムを導入するということで、社会の要請に対応している。 ◇ 全学共通教育プログラムとして、学生が多様な科目を分離の枠を超えて主体的に履修する仕組みを検討している。																				
3	◎ 2プログラムの実績にもとづき令和3(2021)年度には新プログラム1つを開講する点、期待できる。																				
2	◇ (ポストコロナにおける)TAの拡充 ◇ 1年次のTOEIC受験率の100%化に取り組んでいただきたい ◇ GCPへの都立大のより積極的な参画(リーダー2名のみは寂しい)																				
2	◎ TAの充実、大学院分野横断プログラムの設置、学部生による大学院授業科目の早期履修などが順調に進められている。 ◎ 適切な成績評価方法を導入し、学生の質保証を充実させた。 ◎ 法人や2大学1高専の教職員間における情報共有・意見交換の場を継続して設けることにより、新たな連携の在り方について検討する場が用意された。																				
参考意見（案）																					
<ul style="list-style-type: none"> データサイエンス・AI等に関する新たな副専攻プログラムの導入を予定していることについて、society5.0社会の実現に向けた社会的要請に対応しており、今後成果があがることを期待する。 																					

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 2 教育の実施体制等 【教育改革を推進する取組の強化】	小項目	主な取組	自己評価	
	1-06	データ分析に基づく教育改善に向けた取組、アセスメント・ポリシーの策定、博士後期課程の活性化に向けたキャリア形成に係る新規科目の開講	年度	見込
			A	S

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目2】年度評価

評価素案

評定	評定説明
(2)	◎優れた点・特色ある点 ・ ディプロマ・ポリシーを検証して、教育改善につなげるためのアセスメント・ポリシーを策定、公開した。 ・ 教学IRの更なる充実を図るとともに、各部署のニーズに応じた分析が活発に行われ、全学的な教育改革に反映されている。 ・ 博士後期課程の活性化に向け、知的財産関係に精通した講師による授業を開講し、キャリア開発プログラムの更なる充実を図った。
	◇更なる充実が期待される点 ・ アセスメント・ポリシーについて、今後、獲得すべき学修成果の達成状況等の把握・測定結果を教育改善に活用することに加え、学生が自身の習得状況を確認し、成長を実感できる等、主体的な学びにつながるような取組の充実を期待する。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
2	◇ 教学IRについては、各部署からのニーズに応じた分析が活発に行われている。令和2年度はアドミッションの観点からの分析が主であったようだが、アセスメント・ポリシーも策定したのであるから、将来的には学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が一層促されることを期待する。ただし、アセスメントに関する負担が過剰となって日常的な教育活動に負の影響が生じないように留意されたい。
2	◎ 機関(大学全体)レベル、教育課程(学部・学科)レベル、科目(授業)レベルの3段階でアセスメント・ポリシーを策定した点が評価できる。今後、獲得すべき学修成果の達成状況等の把握・測定結果を教育改善に活用することに加え、学生が自身の習得状況を確認し、成長を実感したり、主体的な学びにつながるような取組の充実が期待される。
3	◎ ディプロマ・ポリシーを検証して、教育改善につなげるためのアセスメント・ポリシーを策定、公開した。
2	◎ 博士研究員制度と並行し、大学院キャリア科目を複数開講している点が評価できる。博士取得者のキャリアには課題が多いので、こうした取り組みで博士取得を生かしたキャリアにつながる支援は重要である。知財マネジメントの開講も時代のニーズにあっている。
1	◎ 「博士後期課程」活性化への取組み
1	◎ 教学IR データのさらなる充実を図るとともに、各部署のニーズに合わせた分析が行われ、全学的な教育改革に反映されている。 ◎ 知的財産関係に精通した講師による授業を開講し、博士後期課程学生のキャリア開発プログラムのさらなる充実を図った。

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目2】見込評価

評価素案	評定	評定説明
(1)		<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に教学IRシステムが稼働し、各委員会や部局等からの分析に対応し、教学IRデータの活用による教育改革が推進されている。分析結果は全学的な取組にも活用されており、教学マネジメントサイクルが有効に機能している。 博士研究員制度の導入による研究支援、キャリア開発プログラムの充実等により、大学院博士後期課程の活性化に向けた取組が精力的に行われ、大学院博士後期課程の定員が充足されている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 教学IRの活用について、アセスメント・ポリシーを策定したことも踏まえ、将来的には学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が一層促されることを期待する。

参考意見（案）
<ul style="list-style-type: none"> 教学IRやアセスメント・ポリシーがより一層有効活用されることを期待するが、ただし、アセスメントに関する負担が過剰となって日常的な教育活動に負の影響が生じないように留意されたい。

委員別評定等	評定	評定説明（コメント）
	2	◎ 教学IR、教学マネジメント、博士課程充足率向上などの計画が順調に遂行されていることを評価する。
	1	◇ 教学IRのデータが蓄積されるとともに学内の部局等からの分析依頼も行われ、データが有効に活用されている。将来的には学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が一層促されることを期待する。ただし、アセスメントに関する負担が過剰となって日常的な教育活動に負の影響が生じないように留意されたい。
	1	◎ 博士研究員制度の運用開始、大学院キャリア科目の開講により、博士後期課程の活性化に向けた取組の充実を図っている点が評価できる。キャリア科目の開講を計画するなど、更なる充実も期待できる。 ◎ 平成29年に教学IR推進室の設置、教学IRシステムの稼働が行われ、各委員会や部局等からの分析に対応し、教学IRデータ分析の活用による教育改革が推進されている点が評価できる。分析結果は分析依頼元部局や委員会のみならず、教学IR委員会にも報告され、全学的な取組にも活用されており、教学マネジメントサイクルが展開されている。
	1	◎ 教学IRによる、データ分析に基づく教育改善に向けた取組みについて、進展した。
	2	
	1	◎ 「博士後期課程」活性化への取組み継続
	1	◎ 教学IRシステムを十分に機能させ、教学マネジメントの強化がなされた。 ◎ 博士研究員制度の導入による研究支援や、キャリア開発プログラムを充実させ、大学院博士後期課程の活性化に向けて精力的に取り組むことにより、大学院博士後期課程の定員が充足されている。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 3
教育の実施体制等
【学習支援環境の整備、教育の質の改善】

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
1-07	キャンパス学修環境の整備・拡充、	S	B
1-08	FD 関連セミナーの拡充	A	
1-09	四半期授業及び科目ナンバリングの導入	B	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目3】年度評価

評価素案

評定	評定説明
(2)	◎ 優れた点・特色ある点 ・ コロナ禍において、オンライン授業を滞りなく進めることができるよう、eラーニングシステム kibako のサーバーを増強することで、令和元年度と比較して3～4倍の利用実績となる中、停止することなく安定的に稼働させた。 ・ 郵送による図書貸出及び複写サービスを新設し、コロナ禍における学生や教員の教育研究活動の支援の充実を図った。 ・ FD 関連セミナーをオンライン形式で実施したことにより、非常勤講師も含めて参加者数が大幅に増大した。また、セミナーにおいて、初めて学生による発表を取り入れるとともに、学生からの意見を聞く機会を設ける等、FD活動に関する様々な工夫がなされた。

参考意見（案）

--

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
3	◎ コロナ感染症に対応してネットワーク環境強化・システム改善を行ったことは当然とも言えるが、その緊急対応努力は評価したい。
2	◎ FD 関連セミナーをオンライン形式で実施したことにより、非常勤講師も含めて参加者数が大幅に増大した。
1	◎ コロナ禍において、オンラインによる授業が滞りなく進めることができるよう、eラーニングシステム kibako のサーバー増強作業を行い、令和元年度と比較して3～4倍の利用実績となる中、停止することなく安定的に稼働させた点が評価できる。 ◎ また、郵送による図書貸出及び複写サービスを立ち上げ、貸出冊数に制限を設けない、送料は大学が負担する、延滞等に係るペナルティは免除する等の利便性を図り、学生や教員の授業や研究活動の支援の充実を図った点が評価できる。 ◎ 数多くのFD関連セミナーをオンラインで開催するとともに、録画配信する取組などにより、多くの参加を得ている点が評価できる。参加教員数は944名となり、過去5年間の平均209名の約4.5倍にのぼる。これまで参加しづらかった非常勤講師の参加を得られたり、内容についても、初めて学生による発表を取り入れるなどの工夫も行われている。コロナ後も今回の取組で得られた工夫や効果を有効に活用し、取組が発展することが期待される。
2	◎ FD 関連セミナーをオンライン形式で開催することにより、特に非常勤講師の参加者が著しく増加した。
3	◎ FD 関連セミナーのオンライン化により、4.5倍の参加者を得たことは、新たな教育の方向につながり素晴らしい。受講したフィードバックなどもあわせているしくみも工夫されたい。
2	◎ (コロナ感染対策下での) kibaco 改善、図書郵送サービス新設など
2	◎ eラーニングシステム kibaco の改善を行い、利用実績が大幅に増加した。 ◎ コロナ禍においても、FD 活動を効果的に実施した。 ◎ 教員のFD活動に対して学生からの意見を聞く機会を設けた。

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目3】見込評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> FD活動について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、FD 関連セミナーのオンライン開催、学生の発表機会や座談会の設定等の工夫により、活動が順調に活性化している。 コロナ禍にあっても、eラーニングシステムの改善や図書の郵送貸出等の遠隔サービスに取り組んだことにより、学生の学びの継続を支援できたことはもとより、新たなリモート型学習環境の整備が進んだ。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> FD 関連セミナーについては、コロナ禍における実施方法・内容上の様々な工夫を今後も活かし、参加規模・内容ともに拡充されていくことを期待する。 eラーニングシステム等は、今後、対面を中心とする授業形態に戻ったとしても、有効に活用され、学修の更なる充実が図られることを期待する。

参考意見（案）

--

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
3	
3	◇ コロナ禍にあつて、eラーニングシステムの改善や図書館の郵送貸出等の遠隔サービスにより、学修面にも大きな支障はなく学びを継続できたと考えられる。eラーニングシステムなどは今後対面授業に戻っても有効に活用され、学修を充実させていくことが期待される。
3	◎ FD活動について、コロナ禍にありながら、オンライン開催などにより活性化しており、引き続き、活動の充実が期待される。
3	
3	
2	◎ 新たなリモート型学習支援の取組み
2	◎ 教員のFD活動に対して学生からの意見を聞く機会を設けた。 ◎ 科目ナンバリング制度を導入し、その効果を検証した。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

大項目 4 学生への支援	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
			1-10	ボランティアプログラムの拡充、ボランティアに対する学内意識情勢と活動への支援
1-11	課外活動支援制度による課外活動への支援、顧問の制度化へ向けた取組	B		
1-12	学生への総合的な健康支援	B		
1-13	学生への経済支援	B		
1-14	支援を必要とする学生に対する支援、多様性を踏まえた構成員に対する支援策の検討及び実施、セクシュアル・マイノリティへの理解啓発の促進	B		
1-15	OBOG ネットワーク拡大及び OBOG 参加行事の改善、既存のキャリア支援事業の拡充によるキャリア形成支援の強化、大学院生や外国人留学生へのキャリア支援強化	A		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 4】年度評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、オンラインツールの活用等により、活動継続の支援及び新たな活動機会の創出に取り組んだ。 都立大独自の授業料減免制度及び令和2年度に開始した国の修学支援制度を通じて、学生に対する経済的支援を適切に実施し、授業料減免学生数は令和元年度に比べて大幅に増加した。 キャリア支援行事及びキャリア相談のオンライン形式の実施、臨時の就職相談員増員等により、コロナ禍でも適切なキャリア・就職支援を行った。また、OBOG ネットワークの登録者数は、令和元年度比で 103 名増の 1,016 名となった。

参考意見（案）

--

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
3	◎ 新型コロナウイルス感染症のためにキャンパスにおける学生支援が十分に行えなかったのはやむをえない。
3	◎ 臨時の就職相談員を増やして学生のキャリア相談を増大し、さらに OBOG ネットワークの仲介業務を担うことによってネットワーク登録者数が増加した。
2	<p>◎ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ボランティア活動先のイベント等が中止となる中、オンラインツール等を活用した新しい活動機会の創出に取り組んだ点が評価できる。学生がより主体的に取り組み、自ら活動を作り出す段階へとステップを踏むなど、活動が発展している。</p> <p>◎ 経済的に困窮する学生に対して、都立大独自の授業料減免制度を設けて、学生に対する経済的支援の充実を図っている点が評価できる。令和2年度の授業料減免学生数(延べ)は学部において 1199 人にのぼり、前年の 691 人の 1.7 倍となっている。</p> <p>◎ コロナ禍にありながら、OBOG ネットワークの新規登録者数は増加しており、就職活動で OBOG ネットワークを利用したことがある学生が新たに登録者となる好循環ができてきている点が評価できる。コロナ禍でも OBOG 訪問に関する相談等をキャリア相談の中でオンラインにて受け付ける仕組みを構築する等、好循環が途切れないための取組が推進されている。</p> <p>◎ キャリア支援行事及びキャリア相談についても、全てオンライン等の非対面方式で継続し、滞ることなく就職支援が行われている。参加した学生も満足度も高い。</p> <p>◎ 大学院生に対するキャリア形成支援について、民間企業研究職とのマッチング機会の提供、研究インターンシップの調整・実施などにより、取組の充実が図られている点が評価できる。</p>
3	
3	<p>◎ オンラインにより工夫したボランティア教育、とくに学生コーディネーターの企画による相談室は意義がある。</p> <p>◎ OBOG 訪問のオンライン化による再開は重要</p>
3	<p>◎ (コロナ感染対策下での)オンライン型ランチタイムカフェの実績を評価</p> <p>◇ コロナ対応したボランティアプログラムの充実</p>
3	<p>◎ コロナ禍に対応し、オンラインツールの利用などによるプログラムを提供することで、ボランティア活動の継続を支援した。</p> <p>◎ 授業料減免制度の十分な周知を行い、授業料減免学生数が昨年度より大きく増加した(691→1190, 834→881)。</p>

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目4] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に対する学生の意識醸成及び学生のボランティア活動の支援に関する取組が活発に行われている。また、コロナ禍でも活動を停滞させないような仕組みが整備されている。 ノートテイク講習会及び手話講習会を継続的に実施する等、支援を要する学生を支援するためのスキル向上及び体制整備が着実に進んでいる。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生への支援については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた取組項目が多い中、様々な努力、工夫により、安全・安心に配慮しながら取組が継続されている。コロナ禍の収束後を見据え、参加者数等が減少している取組項目については、どのように回復、発展させていくのか、引き続き検討されることを期待する。 学生の定期健康診断受診率は、目標である90%はもとより、100%の達成を意識して、今後の取組強化を期待する。 OBOG ネットワークについて、登録者数の増加が続いているものの、毎年度の新規登録者数が、都立大の卒業・修了者数と比較すると十分でない。今後、同窓会等との連携も強めながら、ネットワークの機能がより活発になることが望まれる。 	3	
		3	
		3	◇ 学生への支援については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたものが多い中、様々な努力、工夫により、安全・安心に配慮しながら取組が継続されている点の評価できる。コロナ後を見据え、参加者数等が減少しているものについては、どのように回復、発展させていくのか、引き続き、検討されることが期待される。
		2	◎ 大学生の時代にボランティア活動の経験が出来るように学内意識を醸成する取組が盛んであり、また活動も盛んである。 ◎ 支援を要する学生を支援するためのスキル向上研修会(ノートテイク講習会、手話講習会)を継続している。 ◎ 大学院生(博士後期課程)や外国人留学生へのキャリア支援を継続している。 ◇ OBOG ネットワーク登録者数が徐々に増加し、OBOG へのキャリア相談、就職相談が活発になるのは望ましい。同窓会組織との連携も強めて、より活発になることが望まれる。
		2	◇ OBOG ネットワークは、登録者数を増加させるとともに、既存の登録者に対して、更新や現状が確認できない情報を整理することで、学生にとって真に有効な情報とする。とある点、アクセスの低い登録者へのアプローチは大変重要で意義あるものである。ぜひさらに有効な情報を把握し、改善策につなげてほしい。
		3	◇ 健診受診率100%をめざす取組みに期待
3	◎ 学生のボランティア活動を支援する体制を整備し、コロナ禍でも活動を停滞させないような仕組みを用意した。 ◇ OBOG ネットワークの整備が進んでいるが、各年度ごとの新規登録者数(100名前後)が卒業生数(2千数百名)に比べてかなり少ない。		
<p>参考意見（案）</p>			

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

大項目 5 入学者選抜	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	1-16	大学入学者選抜改革への対応及び質の高い学生の安定的確保、インターネット出願の実施	B	A
	1-17	大学入学者選抜改革等に対応した大学説明会の実施、志願者獲得のための情報提供	B	
1-18	高大連携事業の推進	B		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目5】年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・多様な選抜による募集人員の割合が順調に増加し、全体の30.1%まで拡充した。 ・WEB 大学説明会を開催し、6万件を超える延べ閲覧数を得た。 (注) 多様な選抜による募集人員の割合(R3年度入試)委員別評価作業用の報告書では27.6%と記載→その後報告書修正が入り、30.1%に修正(中期計画の目標数値は【30%】)	2	◎ コロナ禍にも関わらず、計画にある多様な入試選抜による学生募集が進められていることは評価できる。
		3	
		3	◎ WEB 大学説明会を開催し、6万件を超える閲覧数を得ている点が評価できる。進学ガイダンスもオンラインで実施されている。コロナ禍ではあるが、一般選抜入試、多様な選抜入試とも十分な志願者数を得ている。
		3	◇ 教学 IR を活用して、これまでの入試結果等を分析して、新たな入試制度の検討や、既存の入試制度の見直しを行っている。
		3	
		2	
		3	◎ 一般選抜以外の、多様な選抜による募集人員の割合が順調に増加し、全体の27.6%まで拡充した。
参考意見(案) <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>			

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目5] 見込評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッション・センターを設置し、大学入学選抜改革への対応を着実に推進するとともに、多様な選抜による募集人員の割合が令和3年度入試において30.1%となり、目標に達している。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教学IRを活用した入試結果等の分析による新たな入試制度の検討や既存の入試制度の見直しについて、更なる充実を期待する。 ・ 都立高校との連携をより積極的に進めることを期待する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(注) 多様な選抜による募集人員の割合(R3年度入試)委員別評価作業用の報告書では27.6%と記載 →その後報告書修正が入り、30.1%に修正 (中期計画の目標数値は【30%】)</p> </div> </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p>	評定	評定説明	(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッション・センターを設置し、大学入学選抜改革への対応を着実に推進するとともに、多様な選抜による募集人員の割合が令和3年度入試において30.1%となり、目標に達している。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教学IRを活用した入試結果等の分析による新たな入試制度の検討や既存の入試制度の見直しについて、更なる充実を期待する。 ・ 都立高校との連携をより積極的に進めることを期待する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(注) 多様な選抜による募集人員の割合(R3年度入試)委員別評価作業用の報告書では27.6%と記載 →その後報告書修正が入り、30.1%に修正 (中期計画の目標数値は【30%】)</p> </div>	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ おおむね順調に多様な入試による入学者がKPIに近づいていることは評価できるが、都立高校との連携をより積極的に進めることはできないか。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 令和3年度入試において、AO入試等の多様な募集人員が27.6%にまで拡充されたことにより、かなりの程度目標値に近づき達成見込みが出てきた。引き続き、調整を期待したい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ アドミッション・センターを設置し、AO入試等の多様な選抜の推進が行われてきた点などが評価できる。コロナ禍でオンラインによる取組も推進されている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 入試制度の充実により、一般選抜以外の多様な選抜による募集人員の割合が順調に増加している(2017年度20.5%→2021年度→27.6%)。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	2	◎ おおむね順調に多様な入試による入学者がKPIに近づいていることは評価できるが、都立高校との連携をより積極的に進めることはできないか。	2	◇ 令和3年度入試において、AO入試等の多様な募集人員が27.6%にまで拡充されたことにより、かなりの程度目標値に近づき達成見込みが出てきた。引き続き、調整を期待したい。	2	◎ アドミッション・センターを設置し、AO入試等の多様な選抜の推進が行われてきた点などが評価できる。コロナ禍でオンラインによる取組も推進されている。	3		3		3		3	◎ 入試制度の充実により、一般選抜以外の多様な選抜による募集人員の割合が順調に増加している(2017年度20.5%→2021年度→27.6%)。
評定	評定説明																				
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッション・センターを設置し、大学入学選抜改革への対応を着実に推進するとともに、多様な選抜による募集人員の割合が令和3年度入試において30.1%となり、目標に達している。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教学IRを活用した入試結果等の分析による新たな入試制度の検討や既存の入試制度の見直しについて、更なる充実を期待する。 ・ 都立高校との連携をより積極的に進めることを期待する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(注) 多様な選抜による募集人員の割合(R3年度入試)委員別評価作業用の報告書では27.6%と記載 →その後報告書修正が入り、30.1%に修正 (中期計画の目標数値は【30%】)</p> </div>																				
評定	評定説明（コメント）																				
2	◎ おおむね順調に多様な入試による入学者がKPIに近づいていることは評価できるが、都立高校との連携をより積極的に進めることはできないか。																				
2	◇ 令和3年度入試において、AO入試等の多様な募集人員が27.6%にまで拡充されたことにより、かなりの程度目標値に近づき達成見込みが出てきた。引き続き、調整を期待したい。																				
2	◎ アドミッション・センターを設置し、AO入試等の多様な選抜の推進が行われてきた点などが評価できる。コロナ禍でオンラインによる取組も推進されている。																				
3																					
3																					
3																					
3	◎ 入試制度の充実により、一般選抜以外の多様な選抜による募集人員の割合が順調に増加している(2017年度20.5%→2021年度→27.6%)。																				

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

大項目 6 研究水準及び研究の成果等	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
			1-19	高いレベルにある基礎研究力の維持・強化に向けた取組、学術情報基盤及び研究基盤の整備・充実
1-20	大都市課題解決に資する分野横断的・学際的な大型プロジェクトの発展に向けた取組	A		
1-21	研究センターに対する積極的な支援による外部資金獲得、研究センターの質の向上に向けた取組	B		
1-22	国内外への効果的な研究広報活動の推進、オープンユニバーシティ講座における学術研究成果の発信、高校生向け講座の開設に向けた検討	B		

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 6] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> EurekAlert!を活用し、海外に向けて積極的に研究広報を行うことで、都立大の優れた研究成果が国際的な注目を浴び、学術研究の発展に寄与した。 オープンユニバーシティ講座における学術研究成果の発信に向けた取組について、テーマ設定等を工夫するとともに、オンラインで開催した結果、首都圏以外からの受講、高校生の受講が増えるなど、社会に向けて広く都立大の最先端の研究成果が発信された。 都立大にローカル 5G環境を新たに整備するとともに、それを活用した研究支援制度を構築し、挑戦型研究2課題、社会実装型研究1課題を採択した。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の研究センターの外部資金獲得額は、令和元年度に大きく落ち込んだ金額の水準から横ばいのままである。目標の達成に向けた取組強化が望まれる。

参考意見

--

委員別評定等

評定	評定説明 (コメント)
3	
2	◎ EurekAlert!を活用して、国際的に研究成果を発信する取組を組織的に行っている。これによって、優れた研究成果が国際的な注目を浴びるところとなり、大学の広報活動という狭い意味だけでなく学術研究の発展に寄与するという点で意義深い。また、オンラインでの開講ということもあるが、一般、高校生問わず、各種の講座が開講され社会に向けて広く研究成果が発信されていることも評価できる。
1	◎ 研究センター等に対し、外部資金獲得のための積極的な支援を行ったことにより、平成 26～28 年度平均獲得額対比で外部資金獲得額 124%を達成している点が評価できる。引き続き、中期計画の 150%以上を目指した支援の充実が期待される。 ◎ EurekAlert!を活用し、海外に向けて積極的に研究広報を行う中、令和2年度は、16 報の研究論文の投稿、平均 17,000 ページビューを達成している。日本国内の大学で唯一、年間閲覧数 10 位以内(第9位)にランクインする論文もあり、都立大の研究力を国際的に発信できた点が評価できる。 ◎ 研究センター紹介シリーズ、プレミアム講座、新春スペシャル講座など、都立大の最先端の研究成果を社会に発信するための取組について、社会的関心の高いテーマを設定する等の工夫を行っている点が評価できる。オンライン開催によって、首都圏以外からの受講、高校生の受講が増えるなど、受講者拡大や学生確保のためのPRにつながっている。
3	
3	◎ 国際シンポジウムの開催、産学公民のニューノーマルなど、公立大学らしい国際化が評価できる。
3	◎ EurekAlert!の活用による積極的な情報発信
3	◎ 分野横断的・学際的な大型プロジェクトの発展に向け、特任助教、ポストドクター等の研究員の雇用費用を支援することで、都立大の優れた研究資源として国際的研究拠点の形成の支援を行った。 ◎ 都立大のローカル 5G 環境を新たに構築し、それを活用した研究の公募を行い、東京都立大学ローカル 5G 環境活用研究支援審査・評価委員会を設置し、プロジェクトの採択を行った。 ◎ 国際的に注目度の高い研究論文が発表されている。 ◇ 外部資金獲得額は、令和元(2019)年度での低下から横ばいのままである。

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目6] 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際共著論文の割合は、中期計画の目標である33%以上を継続的に達成しており、また、トップ10%論文の割合についても、10%以上の目標達成に向けて着実に実績を伸ばしている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究センターの外部資金獲得額を平成26～28年度の平均獲得額比で150%以上に増加させる目標の達成に向け、より一層の取組を期待する。

参考意見（案）	
	<ul style="list-style-type: none"> 研究センターの外部資金獲得額を平成26～28年度平均獲得額対比で150%以上に増加させるという計画は、年度によって達成される場合とそうでない場合があり、令和元年度以降は実績が低下傾向である。その要因も分析されているが、そもそも、こうした計画自体が妥当であったのかを検討してみてはいかが。

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
2	◎ KPI を達成する年度が多くみられ、計画を達成する見込みが立っていることは評価できる。
3	▲ 概ね中期計画は達成されそうであるが、研究センターの外部資金獲得額を平成26～28年度平均獲得額対比で150%以上に増加させるという計画は年度によって達成される場合とそうでない場合があり、令和元年度以降は低下傾向である。その要因も分析されているが、そもそも、こうした計画自体が妥当であったのか検討することも一案であろう。
2	◎ 国際共著論文の割合は、中期計画目標の33%以上を継続して維持している。また、トップ10%論文の割合も過去5か年平均が目標の10%以上を越えている。引き続き、傾斜的研究費の学長裁量枠による各採択事業の支援の充実等により、充実した研究の実施が期待される。 ◎ 閲覧数のEurekAlert!での研究成果の発信等、国内外への積極的な研究成果の発信の推進も評価できる。
2	◎ 高い研究水準を維持するため、意欲的な目標設定を掲げて取り組んでいる(国際共同研究支援の推進、トップ10%論文割合増加に向けた取組、国際共著論文割合33%以上維持に向けた取組)。 ◇ 戦略的な研究分野の育成、支援のためにも、研究センターの質・量共の向上を目指しており、また外部資金獲得に向けた支援も盛んである。
3	
3	
3	◎ 「トップ10%論文の割合10%以上及び国際共著論文の割合33%以上」の目標に向けて確実に実績を伸ばしている。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 7
研究実施体制等

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
1-23	総合研究推進機構における組織的かつ戦略的な研究支援事業の実施	S	B
1-24	研究センターの質の向上に向けた取組、プロジェクトマネジメントスキル向上に向けた取組、将来を担う若手研究者の支援・育成の推進	B	
1-25	海外の有力な研究者等との連携強化に向けた取組、トップ研究者を招へいするための仕組みや研究環境等の整備	B	
1-26	若手研究者海外派遣制度の運用、	B	
1-27	国際カンファレンス等での広報活動	A	
1-28	科研費新規採択率 30%達成に向けた取組、国の大型研究プロジェクト獲得に向けた取組	A	
1-29	研究施設・設備の共用化等に向けた取組、高度通信社会における課題解決型研究等のためのローカル5G 環境等の整備	A	
1-30	研究センターに所属する外国人研究者比率向上に向けた取組、有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組	B	

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 7] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> URA を中心とした研究支援体制を強化し、文部科学省の補助事業である「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロウシップ創設事業」の他、資金配分機関の公募事業等に多数採択された。 国際共同研究プロジェクトを12件、国際共同研究契約を3件締結し、国外の大学や研究機関との連携を強化した。 科研費の令和2年度の新規採択率(挑戦的研究(開拓・萌芽)を除く)は 32.7%となり、令和元年度の大幅な改善状態を引き続き維持した。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究センターの外国人研究者比率は、令和元年度の 19.2%から、令和2年度は 20.9%へと向上しているが、中期計画の目標である 30%の達成に向け、更なる取組を期待する。

参考意見(案)

<ul style="list-style-type: none"> 全学の女性教員比率は、目標である 20%に到達し、それを維持しているものの、ここ数年は比率にほとんど変化がみられない。各種の取組はなされているが、女性教員確保という結果には十分結びついていないように見受けられる。今後、実効性を意識した取組の推進が望まれる。

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
2	◎ 文部科学省の補助金に採択されたことによって、年間 15 名の博士後期課程学生への経済支援が可能になり、研究者育成を強化することにつながった。また、URA の人員を増強することを通じて、組織的・戦略的に公募事業の申請支援体制を強化し、多数の公募採択を実現した。 ▲ 全学の女性教員比率に関して、目標値 20%は達成しているが、ここ数年比率にほとんど変化がみられない。各種の取組はなされているが、女性教員確保という結果には十分結びついていないように見受けられる。
2	◎ 総合研究推進機構の設置、URAを中心とした研究支援体制の強化により、資金配分機関の各種公募事業等に採択されるなどの成果を上げている点が評価できる。 ◎ URAと事務職員が協働で研究プロジェクトマネジメントスキル向上を目的とした合同勉強会を開催したり、他大学の動向や事例の調査・研修を通じて、研究プロジェクト運営の効率化が図られている。 ◎ コロナ禍ではあるが、国際共同研究プロジェクトを 12 件(令和元年度の8件よりも4件増)、国際共同研究契約を3件締結し(昨年度と同数)、国外の大学が研究機関との連携が推進されている点が評価できる。 ◎ 科研費新規採択率は 31.9%であり、令和元年度に引き続き、中期計画の目標 30%以上を達成している点が評価できる。
3	◎ 国際共同研究プロジェクトが 12 件となり、国外の大学、研究機関との連携が強化されている。
2	◎ 国際シンポジウムの開催、産学公民のニューノーマルなど、公立大学らしい国際化が評価できる。
2	◎ URA の活用による外部資金獲得支援の取組を高く評価したい ◇ 国際共同研究の採択増
2	◎ URA を中心とした研究支援体制を強化し、文部科学省の補助事業である「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロウシップ創設事業」の他、JST、JSPS、NEDO、AMED 等の各種公募事業等に採択された。 ◎ 国際共同研究プロジェクトを12件、国際共同研究契約を3件締結し、国外の大学や研究機関との連携を強化することができた。 ◎ 科研費の令和 2(2020)年度の新規採択率(挑戦的研究(開拓・萌芽)を除く)は 31.9%となり、令和元(2019)年度の大幅な改善状態を引き続き維持した。 ◎ 女性教員比率は昨年度に中期計画の目標を上回る 20.5%に達し、それを維持している。 ◇ 研究センターの外国人研究者比率は、令和元年度の 19.2%から、20.9%へと向上しているが、中期計画の目標(30%)に向け、更なる取組を期待する。

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目7】見込評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ URA を中心とした研究支援体制が強化され、各種公募事業等の採択増に繋がっている。 ・ 中期計画における、国際共同研究プロジェクト及び国際共同研究契約数に関する目標や科研費新規採択率に関する目標の達成が可能な見込である。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の大型プロジェクトとして 12 件以上の採択を目指す目標が達成できるよう、更なる取組の推進を期待する。 ・ 研究センターの外国人研究者比率は、令和2年度時点で 20.9%まで向上しているが、中期計画の目標 30%の達成に向け、更なる取組を期待する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ URA 人材は、外部資金の獲得強化だけでなく、研究活動のマネジメント強化の面でも貢献が期待できるので、幅広い人材活用を検討されたい。 	評定	評定説明	(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ URA を中心とした研究支援体制が強化され、各種公募事業等の採択増に繋がっている。 ・ 中期計画における、国際共同研究プロジェクト及び国際共同研究契約数に関する目標や科研費新規採択率に関する目標の達成が可能な見込である。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の大型プロジェクトとして 12 件以上の採択を目指す目標が達成できるよう、更なる取組の推進を期待する。 ・ 研究センターの外国人研究者比率は、令和2年度時点で 20.9%まで向上しているが、中期計画の目標 30%の達成に向け、更なる取組を期待する。 	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <p>◎ URA の活用による外部資金獲得支援</p> <p>◇ URA を外部資金獲得だけでなくマネジメント強化に幅広く活用すべき</p> <p>◇ ポストコロナを意識した「助走」を具体化していただくことを期待</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> <p>◎ URA を中心とした研究支援体制を強化することで各種公募事業等に採択された。</p> <p>◎ 国際共同研究プロジェクトと国際共同研究契約数が第2期中期計画期間の 200%とする中期計画(1-27)が達成可能。</p> <p>◎ 科研費予算の新規採択率(研究種目「挑戦的研究(開拓・萌芽)」を除く)30%以上を継続する目標が達成可能。</p> <p>◇ 国の大型プロジェクトとして【1 件以上】の採択を目指す中期計画(1-28)の達成に向け更なる取組を期待する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		3		3		3		2		2	<p>◎ URA の活用による外部資金獲得支援</p> <p>◇ URA を外部資金獲得だけでなくマネジメント強化に幅広く活用すべき</p> <p>◇ ポストコロナを意識した「助走」を具体化していただくことを期待</p>	3	<p>◎ URA を中心とした研究支援体制を強化することで各種公募事業等に採択された。</p> <p>◎ 国際共同研究プロジェクトと国際共同研究契約数が第2期中期計画期間の 200%とする中期計画(1-27)が達成可能。</p> <p>◎ 科研費予算の新規採択率(研究種目「挑戦的研究(開拓・萌芽)」を除く)30%以上を継続する目標が達成可能。</p> <p>◇ 国の大型プロジェクトとして【1 件以上】の採択を目指す中期計画(1-28)の達成に向け更なる取組を期待する。</p>
評定	評定説明																				
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ URA を中心とした研究支援体制が強化され、各種公募事業等の採択増に繋がっている。 ・ 中期計画における、国際共同研究プロジェクト及び国際共同研究契約数に関する目標や科研費新規採択率に関する目標の達成が可能な見込である。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の大型プロジェクトとして 12 件以上の採択を目指す目標が達成できるよう、更なる取組の推進を期待する。 ・ 研究センターの外国人研究者比率は、令和2年度時点で 20.9%まで向上しているが、中期計画の目標 30%の達成に向け、更なる取組を期待する。 																				
評定	評定説明（コメント）																				
3																					
3																					
3																					
3																					
2																					
2	<p>◎ URA の活用による外部資金獲得支援</p> <p>◇ URA を外部資金獲得だけでなくマネジメント強化に幅広く活用すべき</p> <p>◇ ポストコロナを意識した「助走」を具体化していただくことを期待</p>																				
3	<p>◎ URA を中心とした研究支援体制を強化することで各種公募事業等に採択された。</p> <p>◎ 国際共同研究プロジェクトと国際共同研究契約数が第2期中期計画期間の 200%とする中期計画(1-27)が達成可能。</p> <p>◎ 科研費予算の新規採択率(研究種目「挑戦的研究(開拓・萌芽)」を除く)30%以上を継続する目標が達成可能。</p> <p>◇ 国の大型プロジェクトとして【1 件以上】の採択を目指す中期計画(1-28)の達成に向け更なる取組を期待する。</p>																				

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置

大項目 8
都政との連携

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
1-31	都連携事業の推進強化及び学際的大型プロジェクトの組成、「高度研究」プロジェクトの支援強化	B	B
1-32	障がい者スポーツの理解促進・裾野拡大、ボランティアプログラム拡充、都民向け機運醸成イベント、「障害者とスポーツ論」の取組、学際的研究プロジェクトの成果還元	A	
1-33	都市政策研修・管理職候補者研修等の実施、大都市課題解決に係る文理融合型教育の実施	B	
1-34	「高度金融専門人材」の養成及び最先端研究の実施	B	
1-35	修了生・在学生と都立大とのネットワーク強化に向けた取組、)国際共同研究支援による高度研究修了生との研究ネットワークの強化、帰国留学生短期研究支援制度の理解促進	B	
1-36	都関連研究機関との連携強化に向けた取組	B	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 8] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> パラアスリートへのインタビュー動画の WEB 配信により障がい者スポーツの理解促進と視野拡大に貢献するとともに、スポーツボランティアプログラム参加学生によるオンラインスポーツの開発やハイブリッド形式のスポーツイベントの開催を通じ、教育、社会課題解決、社会貢献等において多様な価値を創造した。 都の関連研究機関との連携強化を推進し、6件の共同研究プロジェクトが創生された。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市外交人材育成基金及びアジア人材育成基金で受け入れた留学生(在学生・修了生)と都立大及び東京都とのつながりが更に強まるよう、より一層の取組を期待する。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
3	
2	<p>◎ コロナ禍においても、子どもの貧困調査研究コンソーシアムや、新型コロナウイルス感染症対策に係る AI 予想モデルの開発について、他大学や外部有識者とともに、東京都との共同研究を開始した点が評価できる。</p> <p>◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により、対面式の体験教室の開催が難しい中、パラアスリートへのインタビュー動画を WEB 配信し、5000 回を超える閲覧数を得て、障がい者スポーツの理解促進を図った点が評価できる。オンデマンドによる動画配信形式としたことで、時間にとらわれず、多くの人に視聴してもらうことができています。</p> <p>◎ 都の関連研究機関との連携強化を推進し、6件の共同研究プロジェクトが創生された点が評価できる。</p> <p>◇ スポーツボランティア参加学生が、社会課題の解決を目指して、オンラインスポーツの開発を行った点が評価できる。今後、開発したオンラインスポーツを様々な地域等に対して周知普及し、数多く実施されることが期待される。</p>
3	<p>◎ スポーツボランティアプログラム参加学生によるハイブリッド形式のスポーツイベントの開催は、教育、社会課題解決、社会貢献等において多様な価値を創造している。</p> <p>◎ 障がい者スポーツの理解促進と視野拡大のため、パラアスリートへのインタビュー動画を WEB で配信した。</p> <p>◇ コロナ禍で中止になったとはいえ、東京都財務局における大学研究者による事業提案制度など、行政ニーズと研究シーズのマッチング機能の強化が行われたのは望ましい。都関連研究機関との連携強化も継続されたい。</p>
3	
3	<p>◎ 障がい者スポーツイベント開催などによる理解促進への取組み</p> <p>◎ (コロナ感染対策下であったが) 留学生の集い/年次総会を WEB 開催。但し、参加者が教職員を含めて 135 名というのは残念</p> <p>◎ 都政との連携に向けた学長裁量枠での共同研究推進</p> <p>◇ 都市外交人材育成、アジア人材育成基金等の留学生 OB との絆強化</p>
3	<p>◎ 高度研究が順調に採択された。</p> <p>◎ コロナ禍に対応したスポーツボランティアプログラムを実施し、都民向けにオリンピック・パラリンピックに関する機運醸成に務めた。</p> <p>◎ 高度金融専門人材養成プログラムを実施し、グローバルな金融市場で活躍できる高度金融専門人材を輩出した(令和2年度末に3名)</p> <p>▲ 継続プロジェクト支援の強化<取組事項>の記載として、「高度研究のプロジェクト支援を通じて、申請者と東京都の関係局との意見交換を行った。(図表 1-31-4、1-31-5)」とあるが、図表は記載の文章の資料としては不十分(意見交換の実績は不明)。</p>

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目8] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市外交人材育成基金制度や帰国留学生短期研究支援制度等を活用して、アジア諸国を中心に様々な地域と連携し、東京都と諸外国諸都市との相互理解・友好親善関係の推進に寄与する人材育成に貢献している。 第三期中期計画期間に入ってから、組織体制の強化をはじめ、様々な取組を推進した結果、都連携事業件数が大幅に増加している。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、都政における重要課題について、都立大として、その解決につながる教育研究等での貢献や情報発信を強化していくことが望まれる。 <p>▲改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 大都市課題解決に資する学際的大型プロジェクト10件以上を創設する目標について、達成に向けた進捗状況が不十分である。東京都と連携した共同研究やプロジェクトは、研究の活性化と都政への貢献力増進が相乗効果を生み、都立大の存在価値を一層増す取組であるため、今後の更なる取組強化を望む。 	3	
		3	◇ 現在、オリンピック・パラリンピックに関する講義等を実施し、大会開催の機運醸成を図るという中期計画策定当時から予想もつかなかった展開になっている。とりわけ、昨年よりコロナ禍で開催することは是非や開催方法について社会的な議論が巻き起こっているなか、オリンピック・パラリンピックについてどのように捉え、考えていくべきか、まさに課題解決や施策提言の恰好の題材にもなると思われる。たんなる機運醸成に貢献することとまらず、大学としてはそれを相対化する視点もあわせもち、今後教育研究活動に生かしていただきたい。
		3	◎ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、既存のボランティアプログラムを「コロナ禍仕様」として、取組を発展させている点が評価できる。 ◎ 都市政策研修、東京都管理職候補者研修を継続して受託し、都や市区町村等の人材育成に貢献している点が評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった研修もある中、研修手法をオンラインで実施する等、工夫を行うことで、新たな研修ノウハウの蓄積も行われている。
		3	◎ コロナ禍の中断はあったが、帰国留学生短期研究支援制度は、都立大と海外研究機関等との連携強化、ひいては、東京都と諸外国諸都市との相互理解・友好親善関係の推進に寄与する人材の育成につながる。 ◇ 行政ニーズと研究シーズのマッチング機能の強化は、十分意識、努力されているが、一方で、東京都との連携事業の推進は、必ずしも順調に伸びているとは言えない面もある(中期計画 1-31)。研究の活性化と、都政への貢献力増進は相乗効果を生み、大学の存在価値を一層増すと考える。
		3	
		3	◎ 都市外交人材基金、アジア人材育成基金等でのアジア・アフリカの様々な地域と連携し、人材育成に貢献しようとする姿勢を高く評価したい ◇ 都市外交人材基金、アジア人材育成基金等の留学生フォロー強化(取組み自体は高く評価) ◇ 都政の重要課題(コロナ等)における都立大としての情報発信強化
		4	◎ 第三期中期計画期間に入ってから、様々な取組を推進し、連携事業件数が大幅に増加した。 ▲ 中期計画(1-31)に掲げた、「大都市課題解決に資する学際的大型プロジェクトを【10件以上】創設する」の進捗状況が不明。
<p>参考意見（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍におけるオリンピック・パラリンピック競技大会の開催については、様々な課題が生じている。都立大としては、大会成功に向けた機運醸成に取り組むだけでなく、こうした課題を教育・研究面での題材としても活用してほしい。 			

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目 9 社会貢献等	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	1-37	外部資金獲得促進のための施策の実施と組織体制の強化、技術移転活動の強化に向けた取組、大学発ベンチャー支援促進	B	A
	1-38	他大学・研究機関等との連携強化、日野キャンパス新棟の産学連携スペースの活用検討	B	
	1-39	地域課題解決に向けた関係機関との連携強化	B	
	1-40	オープンコースウェアの充実、オープンユニバーシティにおける連携講座の実施・改善、ニーズを反映した講座提供、人生100年時代を見据えた学習体系・講座カテゴリーの検討	A	
	1-40-2	都立大プレミアム・カレッジの円滑な運営	S	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目9】年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都立大学プレミアム・カレッジの本科修了者を対象に、2年目も学び続けられる「専攻科」の開講に加え、専攻科修了後も更に学び続けたいというニーズに対応し、研究生コースを令和3年度から新規に開講することとした。 オンライン講座の開講により、首都圏以外の新たな受講層の獲得に繋がった。 	3	
		2	<p>◎ オンライン講座の開講や国公立大学との協働により、オープンユニバーシティの利用者が首都圏以外にも拡大し、社会貢献活動が拡充している。</p> <p>◇ プレミアム・カレッジは本科の志願者数が3倍を超え、着実に実績を上げている。さらに、専攻科や研究生コースの設置により学習の継続性・発展性が期待できる。今後は広報以外にもオンラインを活用し、学びの充実と受講者の拡大を図っていくことを検討してもよいだろう。</p>
		1	<p>◎ URAを中心としたサポートの充実等により、国及びその関係団体が資金元の主となる提案公募型研究は、大幅に増加しており、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた「産学共同研究」などの大幅減があったものの、受託研究費等全体では、小規模な減少に留めることが出来た点が評価できる。</p> <p>◎ 東京都立大学オープンユニバーシティにおける連携講座について、労働セミナー、臨床研究支援人材育成講座、「子どもの貧困研究フロンティア」定例学術研究会は、コロナ禍にも関わらず、特に参加者数も多く、社会ニーズに応じた講座の充実を図ることが出来ている。</p> <p>◎ 生涯学習において、人生100年時代を見据え、長期的な視点で学習体系及び講座カテゴリーの検討を開始し、東京都立大学オープンユニバーシティにて、他大学と連携し、魅力的なオンライン専用講座の立案した点が評価できる。</p> <p>◎ 東京都立大学プレミアム・カレッジの本科修了者に対し、2年目も学び続けられる「専攻科」の開講に加え、専攻科修了後もさらに学び続けたいというニーズに対応し、研究生コースを新規に開講する体制を構築した点が評価できる。継続して学びを深めてきたいという意欲を喚起し、その意欲に応える取組が推進されている。本科においても科目の新設・拡充を行ったり、広報の工夫により、本科志願者数はコロナ禍にもかかわらず、拡大している。</p>
		3	◎ 年度をまたぐ研究について、財務制度面の制約のため、年度初めの3か月程度、研究費を執行できないという不都合があったが、新財務会計システムの導入、活用により解消した。
		2	<p>◎ 連携ある自治体との事業での地域課題への取り組みは公立大学として重要でかつ時代のニーズにあっている</p> <p>◎ オープンユニバーシティなどで生涯教育に貢献することも公立大学として重要な取り組みである。オンライン化で受講生が首都圏以外に広がったことも評価できる。</p>
		3	◎ オープンユニバーシティ無料講座、プレミアム・カレッジ模擬授業等の情報発信によるプレゼンス向上の取組を評価したい(受講者へのプレミアムを検討してはどうか)
		2	<p>◎ 大学発ベンチャーの設置は累計で【11社】となり、中期計画(1-37)の一部を達成している。</p> <p>◎ TMUプレミアム・カレッジでのさらなる学びのステージとして、受講生の要望をうけて、専攻科での学びを深化させた及び研究生コースを設置し、募集人員を超える志願者があった。</p> <p>▲ TMUプレミアム・カレッジでの学習の深化(期間延長)のために設けられたコースの名称が「研究生」で良いのであろうか？専攻科からさらに進むことになるので、研究科(大学院と重複するのであれば研究コース)の方がよいのではないか。</p>
	<p>参考意見(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都立大学プレミアム・カレッジは、令和3年度入学の本科の志願者数が3倍を超えるなど、着実に実績を上げている。さらに、専攻科や研究生コースの設置により学習の継続性・発展性が期待できる。今後は広報以外にもオンラインを活用し、学びの充実と受講者の拡大を図っていくことを検討してもよいだろう。 オープンユニバーシティ無料講座や東京都立大学プレミアム・カレッジ模擬授業の取組は、効果的な情報発信でもあり、都立大のプレゼンス向上に寄与している。こうしたイベントへの受講者に対しては、何らかのプレミアムの付与を検討してはどうか。 		

評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目9] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同研究・受託研究による外部資金について、第二期中期計画期間の平均金額比 120%以上の獲得という目標水準に到達している。また、大学発ベンチャーに関する目標も達成できている。 東京都立大学プレミアム・カレッジを開講し、シニア層への魅力的な学びの場を提供するとともに、更なる学びのステージとして専攻科及び研究生コースを設置し、最長4年間学べる体系を整える等、着実な成果をあげている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 工学分野の教育研究拠点としての日野キャンパスの強化を図りながら、多摩地域の産学公インキュベーションセンターを目指す施策について、今後の更なる取組の推進を期待する。 今後、自治体や金融機関等との更なる連携強化を通じて、地域課題解決、地域支援のためのシンクタンク機能が一層発揮されることを期待する。 	2	◎ 外部資金獲得、大学発ベンチャーに関するKPIは既に達成しており評価できる。
		2	◇ プレミアム・カレッジは本科の志願者数が3倍を超え、着実に実績を上げている。さらに、専攻科や研究生コースの設置により学習の継続性・発展性が期待できる。今後は広報以外にもオンラインを活用し、学びの充実と受講者の拡大を図っていくことを検討してもよいだろう。
		2	◎ シニア層の更なる学びの意欲に応える東京都立大学プレミアム・カレッジを開講し、本科のみでなく、受講生の学びのニーズに柔軟に対応し、専攻科、研究生コースも設置して取組の充実を図っている点が評価できる。人生100年時代に向けた新たな学びの形を開発している。
		3	◎ プレミアム・カレッジ本科、専攻科が好評を博し、研究生コース新設につながったことは、生涯教育、社会人教育へのニーズを的確に汲み取れた結果である。 ◇ 工学分野の教育研究拠点としての日野キャンパスの強化を図りながら、多摩地域の産学公インキュベーションセンターを目指す施策について期待する。 ◇ 自治体や金融機関との連携強化事業から、地域課題解決、地域支援に向けてのシンクタンク機能が一層発揮されることを期待する。
		2	◎ 【1-39】・【1-40】の取組は、公立大学として重要。さらなる充実を期待する。
		3	
		3	◎ TMU プレミアム・カレッジを開講し、シニア層（50歳以上）の魅力的な学びの場を提供するとともに、さらなる学びのステージとして、専攻科（2年目）及び研究生コース（3～4年目）と最長4年間学べるプログラムを設置した。
<p>参考意見</p>			

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 10 グローバル化 【教育の国際通用性、学生の海外派遣の拡充及び外国人学生の受入】	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	1-41	四半期授業及び科目ナンバリングの導入	B	B
	1-42	大学入学者選抜改革への対応及び質の高い学生の安定的確保	B	
	1-43	国際副専攻コースの着実な運用及び広報活動の積極展開等、奨学金プログラムの運用、学生の留学意欲の向上に向けた取組	B	
	1-44	新英語教育プログラムの開発、英語による授業科目の開講及び検証、英語教育の改善に向けた取組	B	
	1-45	海外企業インターンシップの充実、「海外インターンシップ体験」の推進	B	
	1-46	受入留学生数増加に向けた広報展開、短期留学生への教育の充実、短期集中コースの実施	B	
	1-47	都市外交人材育成基金を最大限活用した留学生受入れへに向けた取組	B	
	1-48	アジア各国における医療水準の向上のための留学生の受入れ、アジア各国の大学や医療機関等への技術支援の実施	B	
	1-49	留学生の受入環境の整備	B	
	1-50	異文化理解講座・留学生セミナー等の実施、日本語教育プログラムの実施(大学院人文科学研究科)	B	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目10】年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル人材育成入試について、様々な広報活動を行い、令和3年度入試において、募集人員に対する出願者数及び合格・入学者数が過去最高の人数となった。 コロナ禍において、学生のロールモデル集の公開、留学帰国交流会のオンライン開催等に取り組むことで、交換留学・派遣留学の応募者数を令和元年度の69人から増加し、令和2年度は75人となった。 コロナ禍において留学に関する制約がある中、様々な取組により、在籍留学生数の減少を最小限に抑えたとともに、留学生の受入国の多様化に向けた様々な取組を行った。 コロナ禍にもかかわらず、都市外交人材育成基金を活用により、27人の留学生を新たに受け入れた。また、アジアの医療人材育成を目的に、7人の留学生を新たに受け入れた。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、学生の留学意欲向上に向けて、オンラインツールを活用した留学情報の周知や留学英語講座が実施された一方で、英語に関する講座の受講者数は減少している。留学の実現が不確定な状況にあるが、英語力向上への意欲を保つための工夫を期待する。 	3	
		3	
		3	◎ グローバル人材育成入試について、WEB 説明会への参加や情報掲載、パンフレットの送付等の広報活動により、令和3年度入試において、募集人員 17 名のところ 33 名の出願者を獲得し、20 名の入学者数を得ている点が評価できる。出願者数や入学者数は年々増加している。 ◎ コロナ禍ではあるが、学生のロールモデル集の公開、留学帰国交流会のオンライン開催などに取り組み、交換留学・派遣留学の応募者数が令和元年度の 69 人から令和2年度は 75 人へ増加している点が評価できる。 ◇ 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、学生の留学意欲向上に向けて、オンラインツールを活用した留学情報の周知や留学英語講座が行われる中、英語に関する講座の受講者数が減少している。留学の実現が不確定な状況にあるが、英語力向上への意欲を保つための工夫も期待される。
		3	◎ コロナ禍において、新規の留学が出来ないなど大きな制約の中、様々な努力により、在籍留学生数の減少を最小限に抑え(減少は10%未満)、アジアの医療人材育成のための留学生受入れの再開を果たし、学生の留学意欲向上に向けた取組を継続するなど、一定の成果をあげている。
		3	
		4※	◎ 海外/グローバル人材育成入試受験者・入学者増を評価したい ◎ 都市外交人材育成基金、アジア人材育成基金等による留学生受入れ増を評価(インドネシア・タイ・バングラディッシュなど多様な地域から受入れ) ◎ 「特記事項」にあるような留学生多様化への「取組み」を評価(メディア/JAPSN TIMES WEB の選択と活用に注目、成果を期待)
2	◎ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、留学意欲の向上に向けた取組を対面からオンラインに代えて実施したことにより、影響下にも拘わらず交換留学及び派遣留学の応募人数は令和元(2019)年度より6名増加し、75名となった。 ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により日本全体で外国人留学生数が減少傾向にある中、受入留学生数増加に向けた広報に取り組んだ結果、令和2(2020)年度の在籍留学生数は令和元(2019)年度と比較して56人の減少に留めることができた(短期留学生受入の減少分を考慮すると実質16名)。 ◎ 都市外交人材育成基金を活用した留学生受入れの取組により、コロナ禍にも拘わらず27人の留学生を新たに受け入れた。 ◎ アジア各国における医療水準の向上のための留学生の受入れの取組により、コロナ禍にも拘わらず、前年度を超える7人の留学生を人間健康科学研究科博士前期課程へ新たに受け入れた。		

※大項目10についてはコロナの影響による「海外との交流未達」を「4」と評価したが、コロナにおける目標未達はやむを得ない事情であると考えます。

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 10] 見込評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	◎ 優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> 国際副専攻コース及びグローバル人材育成入試について、積極的な広報を展開し、出願者数及び合格・入学者数が増加している。
	◇ 更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、オンラインツールを活用した取組の工夫が行われているが、コロナ後を見据え、学生が留学を断念することが無いよう、また、留学や海外体験を希望する学生が増えるよう、更なる取組の充実を期待する。 留学生受入れについては、単なる人数増だけではなく、留学の「質」を重視し、受入れ環境の整備にも取り組むことを期待する。また、受入れ留学生の出身国・地域の多様化への取組についても更なる強化・継続を望む。 都市外交人材育成基金による大学院での外国人留学生の受入れについて、目標の 240 人の受入れに向けて、更なる取組を期待する。
	▲ 改善すべき点 <ul style="list-style-type: none"> 海外派遣学生数及び外国人留学生受入人数については、中期計画の目標値の達成が困難な進捗状況にある。残りの2年間でどのような対応を行うか検討すべきである。

参考意見（案）

<ul style="list-style-type: none"> 教育の国際通用性については、クォーター制と科目ナンバリングが中期計画で取り上げられているが、計画内容自体がそれで十分か今後検討する必要があるのではないかと。 国際副専攻コースについては、募集人員を増加すれば、受験生へのPR効果も高く出願者数も増えて、優秀な学生を更に迎え入れられるのではないかと。 外国人留学生受入人数については、目標が達成できない場合でも、それを安易に批判するのではなく、なぜそのような結果になっているのか分析するとともに、そもそも、中期計画が妥当であったか、それがどのような根拠に基づいて計画されたか検証すべきと考えられる。

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
3	◇ 教育の国際通用性については、クォーター制と科目ナンバリングが中期計画で取り上げられているが、計画内容自体がそれで十分か今後検討する必要があるのではないかと。
3	▲ 留学生受入数についてはコロナ禍以前を見ても、中期計画の目標値には及ばない値である。達成できないことを安易に批判するのではなく、なぜそのような結果になっているのか分析するとともに、そもそも、中期計画が妥当であったか、それがどのような根拠に基づいて計画されたか検証すべきと考えられる。
3	◎ 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、オンラインを活用した取組の工夫が行われている点が評価できる。留学を希望していた学生が留学を諦めることが無いよう、また、留学や海外体験を希望する学生が増えるよう、コロナ後を見据えた取組の充実が期待される。
3	◇ 国際副専攻コースの積極的広報を評価する。募集人員を増加すれば、受験生へのPR効果も高く出願者数も増えて、優秀な学生を更に迎え入れられるのではないかと。
3	
3	◎ 国際学生宿舎に留学生だけでなく、日本人学生がレジデントアシスタントとして入居していること ◎ 留学生受入れ環境の整備を期待(単なる人数増ではなく留学の「質」を重視) ◇ 留学生多様化への「取組み」をさらに強化継続していただきたい（「成果」を注視したい）
3	◇ 中期計画(1-46)に掲げた、「在籍留学生数を本学学生の約1割である【900人程度】に拡大する」に対し、600人程度の現在数をさらに延ばす必要がある。 ◇ 中期計画(1-47)に掲げた、「都市外交人材育成基金により優秀な大学院留学生を継続的に受け入れ、第三期中期計画期間中計【240人】の留学生受入れを目指す」に対し、百数十人の現在数をさらに延ばす必要がある。

I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 11
グローバル化
【海外の大学等との連携、都市外交を支えるネットワーク形成、キャンパスの国際化】

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
1-51	国際交流協定校の拡充、AIMSプログラムの推進、交流重点校との教育・研究交流の強化、新たな国際交流プログラム等の実施	B	B
1-52	大学の将来を担う若手研究者育成、若手研究者海外派遣制度の運用	B	
1-53	国際カンファレンス等での広報活動	A	
1-54	外国人研究者等受入環境の整備	B	
1-55	修了生・在学生と大学とのネットワーク構築に向けた取組、高度研究を通じた支援、帰国留学生短期研究支援制度の運用	B	
1-56	学内文書等の多言語化(令和元年度に達成済)	-	
1-57	外国人教員比率の向上に向けた取組、職員の語学力の向上に向けた取組	B	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 11] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 国際公募、オンライン面接等の取組により、令和3年度から新たに7名の外国人教員を採用することが決定し、外国人教員比率が高まった。 ◇更なる充実が期待される点 ・ AIMS プログラムについては、受入留学生の出身国・地域の多様化にも寄与するものと考えるので、更なる拡充に取り組み、留学生受入れ増につなげることを期待する。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
3	
3	
3	◎ 外国人教員の採用のため国際公募を実施するなどした結果、令和3年度の7名採用が決まり、外国人教員数と割合が高まった。
3	
3	◎ 都市外交人材育成基金を通じた留学生受入れ拡大を高く評価(アジア各国への高度医療人材育成支援などは非常にタイムリー) ◇ AIMS プログラムの拡充による留学生受入れ増(多様化にも貢献)
3	◎ 国際共同研究プロジェクトと国際共同研究契約数が第2期中期計画期間の200%とする中期計画(1-27)が達成可能。

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 11】 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(3)	◇更なる充実が期待される点 ・ 外国人教員比率については、改善が見られるが、目標の5%以上の達成に向け、更なる取組を期待する。	3	
		3	
		3	
		3	
		3	
		3	◇ 都市外交人材育成基金などを通じた多様な留学生受入れの拡大
3	◇ 中期計画(1-57)に掲げた、「外国人教員比率【5%以上】」に対し、4.4%の現在比率をさらに延ばす必要がある。 ◇ 中期計画(1-57)に掲げた、「TOEIC600点以上の職員比率【25%以上】」に対し、22.7%の現在比率をさらに延ばす必要がある。		
参考意見（案） <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>			

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

大項目 12 教育内容及び教育の成果等	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	2-01	教育プログラムの開発・設計・実施、カリキュラムの見直し	S	A
	2-02	PDCA サイクルの各要素の強化、PBL に対する評価指標の検討・実施、PBL 成果報告書の作成、「AIIT PBL Method」の社会への発信	A	
2-03	アクティブ・ラーニングの積極的導入、教育の質の保証の可視化の推進	B		

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 12] 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、1専攻3コース体制への再編初年度として、新専攻全体のカリキュラムを着実に実施するとともに、カリキュラム委員会等での教育の実施体制等の見直し・工夫により、予定していたカリキュラムを着実に実施した。 アクティブ・ラーニングを導入している授業科目が 93.8%に達した。 PBL 検討部会を年4回開催し、PBL 教育に関するPDCA サイクルを継続した。 	2	◎ 前年度までに引き続き計画が遂行されている点を評価できる。
		2	◎ 先駆的に取り組んできた PBL は認証評価においても効果的に実現されていると評価され、アクティブ・ラーニングを導入した授業科目は9割を超えている。
		1	◎ 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、学年歴の見直し、クォーター間の受講時間割の組み換え、オンライン授業の導入、オンデマンド授業との組み合わせ等、様々な工夫を行い、着実にカリキュラムを実施した点が評価できる。研究科を1専攻3コースに再編した初年度であったが、特色あるカリキュラムが遂行されている。 ◎ コロナ禍においてオンライン授業が増える中においても、アクティブ・ラーニングを積極的に導入し、導入割合は年々増加しており、令和2年度は93.8%となっている。
		2	◇ 企業における新規事業開発や企業・創業を担う人材を育成するプログラム(事業設計工学コース)を創設した。
		2	◎ アクティブ・ラーニングの授業科目が93.8%に達したとのこと。産技大ならではの実務教育への姿勢が高く評価できると考える。 ◎ チームで課題解決をはかる PBL への取り組みも評価できる（ただし、紙面の資料のみでは、PBL とアクティブ・ラーニングの関係などがわかりにくい。）。PBL 外部レビューの活用も効果的のようである。 ◇ AIIT 技術経営交流会などで産業界との連携をはかっている点、産技大が取り組むべき課題への諮問に対し、実務教育担当者会議により取り組んでいる点、品川区との連携などなど、産技大らしい取り組みが多く、評価できる。できるだけ具体的成果も記載いただけるとなおよい。
		2	◎ コロナ感染対策下においても学長のイニシアチブで各種施策を講じ、当初予定されていた年間カリキュラムを完遂させたことを高く評価 ◎ (災い転じて)コロナ下でのアクティブ・ラーニングの導入率向上
2	◎ 1専攻3コース体制へと再編し研究科の運用を開始し、カリキュラム委員会による見直しを継続し、予定していたカリキュラムを着実に実施した。 ◎ 中期計画(1-02)に掲げたとおり、PBL 検討部会を【年4回】開催し、PBL 教育に関する PDCA サイクルを継続した。 ◎ アクティブ・ラーニングを導入している授業科目が93.8%に達した。		
参考意見			

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 12】 見込評価

評価素案

評定	評定説明
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 専攻3コース体制への研究科再編を行い、起業・創業・事業承継を視野に入れた学位プログラムを含む新専攻全体のカリキュラムを着実に実施している。 PBL に特徴を持たせ、AIIT PBL Method を体系化し、その充実のために産業界の意見を取り込む PBL 検討部会を定常的に開催しており、PBL 教育の PDCA サイクルが機能している。 アクティブ・ラーニングを導入している授業科目の割合は、中期計画の目標である8割を超え、9割以上に達している。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き学外の意見や要望を PBL 研究会で整理・検証を行う等して、PDCA サイクルがより一層有効に機能していくことを期待する。

参考意見（案）

--

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
2	◎ PBL に特徴を持たせ、AIIT PBL Method を体系化したこと、またその充実のために産業界の意見を取り込む委員会を定常的に開催するなど、中期計画を着実に達成している点は評価できる。
2	◎ 先駆的に取り組んできた PBL は認証評価においても効果的に実現されていると評価され、アクティブ・ラーニングを導入した授業科目は9割を超えている。
2	◎ PBL 型教育のノウハウを「AIIT PBL Method」として体系化し、HP 上で広く公開し社会に対して発信している点が評価できる。引き続き、年4回以上の PBL 検討部会の開催により、改善点等の検討を深め、充実した取組となることが期待される。
2	◎ 産技大の特徴である PBL 型教育については、常に評価、検証を行い PDCA サイクルを継続し、更に、教育成果を取りまとめて広く発信している。 ◎ アクティブ・ラーニングの導入が 9 割に達し、また、修了生に対し、ディプロマ・サブプリメントを交付するなど、新しい教育手法を積極的に取り入れている。
2	◎ アクティブ・ラーニングのさらなる質の向上に期待。
2	◇ PDCA サイクルの定着レベルをさらに向上させる取組みに期待
2	◎ 1 専攻 3 コース体制へ再編を着実に実施した。 ◎ 中期計画(1-02)に掲げたとおりに、PBL 検討部会を定期的に【年 4 回】開催し、PBL 教育に関する PDCA サイクルを持続した。 ◎ アクティブ・ラーニングを導入している授業科目の割合が年々増加し、中期計画(2-03)の設定値(80%)を大幅にこえて 93.8%に達した。

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 13
教育の実施体制等
【産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備、都立大及び高専との連携】

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
2-04	産業界のニーズの教育体制への反映、PDCA サイクルの各要素の強化、教育環境の整備	S	A
2-05	他大学等との連携による教育の普及、関係機関との連携強化・交流促進	A	
2-06	高専出身者の確保、産技高専との連携強化、2大学1高専の連携	B	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 13] 年度評価

評価素案	評定説明
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科再編後の教育研究における産業界との連携のあり方について、事業設計工学コース修了後におけるアクセラレータプログラム実施に関する検討が進められる等、運営諮問会議からの提言を踏まえ、具体的な取組が推進された。 法人の設立以来最も大きな金額の外部資金となる文部科学省の公募事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に、公立大学では唯一採択された。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 対面実習が必要とされる技能教育については、遠隔教育が容易でないことは想像される。効率的な遠隔教育方法の開発に向けて、成果が上がることを期待する。 都立大・高専との連携について、更なる取組強化を期待する。特に、都立大との更なる連携が進むことを期待する。

参考意見(案)

委員別評定等	評定説明(コメント)
3	
2	◎ 法人設立以来の大きな外部資金である文部科学省の公募事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に、公立大学では唯一採択された。対面実習が必要とされる技能教育については、遠隔教育が容易でないことは想像される。効率的な遠隔教育方法の開発に向けて、成果が上がることを期待したい。
2	◎ 研究科再編後の教育研究における産業界との連携のあり方について、事業設計工学コース修了後におけるアクセラレータプログラム実施に関する検討が進められるなど、運営諮問会議からの提言を踏まえ、具体的な取組が推進されている。
2	◎ 「技能教育高度化のための共創的スキル学習プラットフォームの構築」事業について、文部科学省の大学改革推進等補助金に採択されたのは喜ばしく、良い実践、成果につながることを期待する。
2	▲ オンラインでかなり工夫されているが、技術面の教育がオンラインでどこまでできるかは課題と考える。その点も意識していただきたい。
2	◎ 文科省公募事業(デジタル活用教育高度化)に採択されたこと ◇ 都立大・高専との連携については更なる強化の余地あると考える (特に都立大との連携)
2	◎ 文部科学省の公募事業「大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」に応募し、採択された。

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 13] 見込評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	◇更なる充実が期待される点 ・ 他大学等との新たな3つ以上の連携事業を実施する目標について、達成に向けて着実な取組を期待する。 ・ 都立大・高専との連携について、更なる取組強化を期待する。特に、都立大との更なる連携が進むことを期待する。

参考意見（案）

--

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
3	
3	
3	
3	
3	
2	
3	◇ 中期計画(2-05)に掲げた、「第2期 enPiT に参加するなど他大学等との新たな【3つ以上】の連携事業の実施」の進捗状況が不明。

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置				
大項目 14 教育の実施体制等 【教育の評価・改善】	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	2-07	PDCA サイクルによるマネジメント機能の強化、アクティブ・ラーニングの積極的導入、授業評価結果の改善と研究会の枠組みの構築、FD フォーラムの開催による教育の質の向上	S	A
2-08	機関別認証評価の受審結果を踏まえた改善策の検討、情報アーキテクチャ専攻の分野別認証評価の受審、創造技術専攻の分野別認証評価を踏まえた改善策の実施	B		

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 14】 年度評価																					
評価素案 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(2)</td> <td> ◎優れた点・特色ある点 ・ 授業評価アンケートについて、令和元年度に引き続き、全授業の評価が平均 4.37 と高評価を維持している。 ・ FDフォーラムについて、遠隔授業とアクティブ・ラーニングをテーマに、100%の参加率を得ている。 </td> </tr> </tbody> </table> 参考意見（案） <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(2)	◎優れた点・特色ある点 ・ 授業評価アンケートについて、令和元年度に引き続き、全授業の評価が平均 4.37 と高評価を維持している。 ・ FDフォーラムについて、遠隔授業とアクティブ・ラーニングをテーマに、100%の参加率を得ている。	委員別評定等 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 教育の質向上のために教員 FD、学生授業評価は前年度までに引き続いて着実に KPI を達成している点は評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ FD フォーラムへの教員参加率や授業評価アンケートにおける全授業の平均評価などの目標値は十分に達成されている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 授業評価アンケートについて、令和元年度に引き続き、全授業の評価が平均 4.37 と高評価を維持している点が評価できる。 ◎ FDフォーラムについて、遠隔授業とアクティブ・ラーニングをテーマに、100.0%の参加率を得ている点が評価できる。コロナ禍における遠隔授業の工夫について共有や議論が行われている。参加できない教員に対して、録画したものを視聴できるようフォローしている点も評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 教育に関する目標指標を達成している（アクティブ・ラーニング導入授業率 93.8%、学生授業評価アンケート 4.37、FD フォーラム教員参加率 100%）。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 授業評価アンケートの結果が平均 4.37 と高い。工夫による成果か。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ FD フォーラムへの教員の参加率が 100%。 ◎ 学生の授業評価アンケート結果で【4.37】の評価を得た。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	2	◎ 教育の質向上のために教員 FD、学生授業評価は前年度までに引き続いて着実に KPI を達成している点は評価できる。	3	◎ FD フォーラムへの教員参加率や授業評価アンケートにおける全授業の平均評価などの目標値は十分に達成されている。	2	◎ 授業評価アンケートについて、令和元年度に引き続き、全授業の評価が平均 4.37 と高評価を維持している点が評価できる。 ◎ FDフォーラムについて、遠隔授業とアクティブ・ラーニングをテーマに、100.0%の参加率を得ている点が評価できる。コロナ禍における遠隔授業の工夫について共有や議論が行われている。参加できない教員に対して、録画したものを視聴できるようフォローしている点も評価できる。	3	◎ 教育に関する目標指標を達成している（アクティブ・ラーニング導入授業率 93.8%、学生授業評価アンケート 4.37、FD フォーラム教員参加率 100%）。	2	◇ 授業評価アンケートの結果が平均 4.37 と高い。工夫による成果か。	2		2	◎ FD フォーラムへの教員の参加率が 100%。 ◎ 学生の授業評価アンケート結果で【4.37】の評価を得た。
評定	評定説明																				
(2)	◎優れた点・特色ある点 ・ 授業評価アンケートについて、令和元年度に引き続き、全授業の評価が平均 4.37 と高評価を維持している。 ・ FDフォーラムについて、遠隔授業とアクティブ・ラーニングをテーマに、100%の参加率を得ている。																				
評定	評定説明（コメント）																				
2	◎ 教育の質向上のために教員 FD、学生授業評価は前年度までに引き続いて着実に KPI を達成している点は評価できる。																				
3	◎ FD フォーラムへの教員参加率や授業評価アンケートにおける全授業の平均評価などの目標値は十分に達成されている。																				
2	◎ 授業評価アンケートについて、令和元年度に引き続き、全授業の評価が平均 4.37 と高評価を維持している点が評価できる。 ◎ FDフォーラムについて、遠隔授業とアクティブ・ラーニングをテーマに、100.0%の参加率を得ている点が評価できる。コロナ禍における遠隔授業の工夫について共有や議論が行われている。参加できない教員に対して、録画したものを視聴できるようフォローしている点も評価できる。																				
3	◎ 教育に関する目標指標を達成している（アクティブ・ラーニング導入授業率 93.8%、学生授業評価アンケート 4.37、FD フォーラム教員参加率 100%）。																				
2	◇ 授業評価アンケートの結果が平均 4.37 と高い。工夫による成果か。																				
2																					
2	◎ FD フォーラムへの教員の参加率が 100%。 ◎ 学生の授業評価アンケート結果で【4.37】の評価を得た。																				

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 14】 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 毎月の運営会議における進捗管理や自己点検、評価委員会への進捗報告等、PDCA サイクルによるマネジメント機能の強化が図られている。 ・ FD フォーラムへの教員参加率や授業評価アンケートにおける全授業の平均評価等についての目標が十分に達成されている。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 学内の PDCA サイクルの機能強化のため、新たな責任主体として内部質保証室が令和2年度に設置された。今後、大学としてふさわしい自主的・自律的な自己点検・評価、内部質保証システムが機能することを期待する。

参考意見（案）

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
2	◎ 教員 FD、学生授業評価は計画通りに成果を得ており、計画達成が十分に見込まれる。
3	◎ FD フォーラムへの教員参加率や授業評価アンケートにおける全授業の平均評価などの目標値は十分に達成されている。 ▲ 内部質保証室は設置されたが、大学としてふさわしい自主的・自律的な自己点検・評価、内部質保証システムが機能することを期待する。
2	◎ FDフォーラムへの教員参加率について、オンライン実施や録画視聴等の対応を引き続きとることにより、中期目標の90%以上の参加を得ることが期待できる。 ◎ 毎月の運営会議における進捗管理や自己点検、評価委員会への進捗報告等によるPDCA サイクルを引き続き回していくことで、質の高い取り組みが見込まれる。
3	
3	
2	◎ FD フォーラムの教員参加率が100%を継続していること
3	◎ FD フォーラムへの教員の参加率が年々増加し、中期計画(2-07)の設定値(90%)を大幅にこえて100%に達した。 ◎ 学生の授業評価アンケート結果が年々向上し、中期計画(2-08)の設定値(平均4以上)を大幅にこえる評価を得た。

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置				
大項目 15 学生への支援	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	2-09	効率的な学修環境の提供、効率的な学修環境の提供、学修コミュニティの更なる充実、AIIT シニアスタートアッププログラムの実施	A	A
	2-10	多様な学生にきめ細かに対応したキャリア開発支援の実施	B	A

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 15] 年度評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ コロナ禍におけるブレンディッド・ラーニングの教育効果について、授業評価アンケート集計結果から、「モチベーション」「負担の軽減」「理解度」の各視点で従来からの高い評価が維持された。 ・ コロナ禍において、履修等について担任教員が1年次生全員に対してメールによる個別の相談対応を行う等、きめ細かい学生指導を行った。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ コロナ禍におけるブレンディッド・ラーニングの教育効果について、授業評価アンケート集計結果から、「モチベーション」「負担の軽減」「理解度」の各視点で従来からの高い評価が維持された。 ・ コロナ禍において、履修等について担任教員が1年次生全員に対してメールによる個別の相談対応を行う等、きめ細かい学生指導を行った。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍における学生への支援として、履修等について担任教員が1年生全員に対してメールによる面談を行い、個々の状況に応じた支援を行った点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ コロナ禍においても、授業評価アンケート集計結果によれば、「モチベーション」「負担の軽減」「理解度」の各視点において、従来からの高い評価が維持された。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	3		3		2	◎ コロナ禍における学生への支援として、履修等について担任教員が1年生全員に対してメールによる面談を行い、個々の状況に応じた支援を行った点が評価できる。	3	◎ コロナ禍においても、授業評価アンケート集計結果によれば、「モチベーション」「負担の軽減」「理解度」の各視点において、従来からの高い評価が維持された。	2		3		3	
評定	評定説明																				
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ コロナ禍におけるブレンディッド・ラーニングの教育効果について、授業評価アンケート集計結果から、「モチベーション」「負担の軽減」「理解度」の各視点で従来からの高い評価が維持された。 ・ コロナ禍において、履修等について担任教員が1年次生全員に対してメールによる個別の相談対応を行う等、きめ細かい学生指導を行った。																				
評定	評定説明(コメント)																				
3																					
3																					
2	◎ コロナ禍における学生への支援として、履修等について担任教員が1年生全員に対してメールによる面談を行い、個々の状況に応じた支援を行った点が評価できる。																				
3	◎ コロナ禍においても、授業評価アンケート集計結果によれば、「モチベーション」「負担の軽減」「理解度」の各視点において、従来からの高い評価が維持された。																				
2																					
3																					
3																					

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 15] 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 担任教員等による1年次生全員への面談を継続して実施できており、指導内容、指導体制の充実が図られている。

参考意見(案)

委員別評定等	
評定	評定説明(コメント)
3	
3	
3	
3	
3	
3	◎ 一年生「全員」の担任との面談 100%実施を継続していること
3	

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

大項目 16 入学者選抜	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	2-11	積極的な情報発信、単位バンク生の更なる確保と正規入学に向けたアプローチ、大学院説明会への参加者確保、ターゲットを絞った新たな広報手段の検討	S	S

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 16】 年度評価	
---------------	--

<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">評価素案</th> <th>評定説明</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・多方面にわたる効果的な広報活動により、オンラインで開催した大学院説明会には 308 名の参加があった。また、令和3年度4月入学における産業技術専攻全体の志願倍率は1.56倍に達し、入学者数も十分な定員を確保することができた。</td> </tr> <tr> <th>参考意見(案)</th> <td style="height: 100px;"></td> </tr> </table>	評価素案	評定説明	(2)	◎優れた点・特色ある点 ・多方面にわたる効果的な広報活動により、オンラインで開催した大学院説明会には 308 名の参加があった。また、令和3年度4月入学における産業技術専攻全体の志願倍率は1.56倍に達し、入学者数も十分な定員を確保することができた。	参考意見(案)		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">委員別評定等</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 様々な広報活動を展開する計画を例年通りに実施して KPI を達成していることは評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 多方面にわたる効果的な広報活動によって、大学院説明会への参加者は前年度ほどではないものの、300 名を超え、安定的に志願者を確保している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ コロナ禍においても、いずれのコースも高い志願倍率を維持している点が評価できる。募集人員に対して十分な入学者数を確保することができている。 ◎ 駅や新聞等において、産技大のターゲット層を意識した積極的な広報活動が継続して行われているほか、教員による授業プロモーション動画を38本作成するなど、産技大の特色についてより具体的に知ることのできる動画を活用した情報発信が行われている点も評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ コロナ禍でのオンライン大学院説明会への参加者が 308 名あった。 ◎ 専攻全体の志願倍率はコロナ禍においても 1.56 倍であり、入学者数においても十分な定員を確保することができた。</td> </tr> </table>	委員別評定等	評定説明(コメント)	2	◎ 様々な広報活動を展開する計画を例年通りに実施して KPI を達成していることは評価できる。	2	◎ 多方面にわたる効果的な広報活動によって、大学院説明会への参加者は前年度ほどではないものの、300 名を超え、安定的に志願者を確保している。	1	◎ コロナ禍においても、いずれのコースも高い志願倍率を維持している点が評価できる。募集人員に対して十分な入学者数を確保することができている。 ◎ 駅や新聞等において、産技大のターゲット層を意識した積極的な広報活動が継続して行われているほか、教員による授業プロモーション動画を38本作成するなど、産技大の特色についてより具体的に知ることのできる動画を活用した情報発信が行われている点も評価できる。	3		3		2		1	◎ コロナ禍でのオンライン大学院説明会への参加者が 308 名あった。 ◎ 専攻全体の志願倍率はコロナ禍においても 1.56 倍であり、入学者数においても十分な定員を確保することができた。
評価素案	評定説明																						
(2)	◎優れた点・特色ある点 ・多方面にわたる効果的な広報活動により、オンラインで開催した大学院説明会には 308 名の参加があった。また、令和3年度4月入学における産業技術専攻全体の志願倍率は1.56倍に達し、入学者数も十分な定員を確保することができた。																						
参考意見(案)																							
委員別評定等	評定説明(コメント)																						
2	◎ 様々な広報活動を展開する計画を例年通りに実施して KPI を達成していることは評価できる。																						
2	◎ 多方面にわたる効果的な広報活動によって、大学院説明会への参加者は前年度ほどではないものの、300 名を超え、安定的に志願者を確保している。																						
1	◎ コロナ禍においても、いずれのコースも高い志願倍率を維持している点が評価できる。募集人員に対して十分な入学者数を確保することができている。 ◎ 駅や新聞等において、産技大のターゲット層を意識した積極的な広報活動が継続して行われているほか、教員による授業プロモーション動画を38本作成するなど、産技大の特色についてより具体的に知ることのできる動画を活用した情報発信が行われている点も評価できる。																						
3																							
3																							
2																							
1	◎ コロナ禍でのオンライン大学院説明会への参加者が 308 名あった。 ◎ 専攻全体の志願倍率はコロナ禍においても 1.56 倍であり、入学者数においても十分な定員を確保することができた。																						

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 16] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(2)	◎優れた点・特色ある点 ・ ロールモデル集や ATTI PBL Method 等を活用した効果的な発信、多様な媒体を活用した広報活動により、大学院説明会では、例年、目標である 250 人以上の参加者を集めている。また、平成30年度以降は定員を超える志願者があり、十分な定員を確保できている。 ・ AIIT 単位バンク制度が順調に運営され、単位バンク生からの正規入学者を毎年度獲得している。	2	◎ 多様な媒体を用いた広報活動の計画が着実に実を結んでいることを評価する。
		2	◎ 多方面にわたる効果的な広報活動によって、大学院説明会への参加者は前年度ほどではないものの、300 名を超え、安定的に志願者を確保している。
		1	◎ ロールモデル集や ATTI PBL Method 等を活用した効果的な発信、多様な媒体を活用した広報活動を引き続き行うことで、高い志願倍率と入学者数における定員確保が期待できる。
		1	◎ ロールモデル集、HP のリニューアル他多様な入試広報活動等により、志願者数、入学者数が大幅に増加した。
		3	
		2	◎ AIIT 単位バンク制度を活用して学生を獲得していることを高く評価
		2	◎ 大学院説明会への参加者は、例年、中期計画(2-11)の設定値(年間 250 人)を大幅に超えており、平成 30 年度以降は定員を超える志願者があり入学定員を確保できている。
参考意見(案)			

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置

大項目 17 研究	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	2-12	PBL 型教育の研究、アクティブ・ラーニングの積極的導入、	B	A
	2-13	高度専門職人材育成に関する教育研究の成果発信、「AIIT PBL Method」の社会への発信	A	
2-14	研究所の在り方の検討、産業振興に資する教育研究の更なる推進	A		

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 17】 年度評価

<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> PBL 研究会をオンラインで開催し、教員参加率 100%を達成した。 AIIT 高度専門職人材教育研究センターにおいて、IRの専門家として特任教員の配置を決定する等、高度専門職人材教育に関する取組を図った。 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を4件新設し、計7研究所を運営した。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> AIIT 高度専門職人材教育研究センターが開催するシンポジウムについて、学内参加が更なる増加を期待する。 </td> </tr> </table> <p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> PBL 研究会をオンラインで開催し、教員参加率 100%を達成した。 AIIT 高度専門職人材教育研究センターにおいて、IRの専門家として特任教員の配置を決定する等、高度専門職人材教育に関する取組を図った。 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を4件新設し、計7研究所を運営した。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> AIIT 高度専門職人材教育研究センターが開催するシンポジウムについて、学内参加が更なる増加を期待する。 	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 学際的な研究所に関しては新たに2件の応募があり、令和3年度からは計9研究所が運営されている。精力的に開発型研究が行われていると評価できる。 ◇ AIIT 高度専門職人材教育研究センターではオンライン授業に関する調査や IR 導入も検討され、教育改善に資する取組が行われているが、シンポジウムへの学内参加がさらに増えることを期待したい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ PBL 研究会について、教員参加割合 100%を達成している点が評価できる。 ◎ AIIT 高度専門職人材教育研究センターにおいて、学生及び教員に対するアンケート実施によるニーズ等の把握、IR 専門家(特任教員)の配置の決定等、高度専門職人材教育に関する取組や体制の充実を図っている点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ IR 専門家を特任教員として配置し、IR 機能の実施体制を整えた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 開発型研究推進のために、研究所を公募により増設している。Active な取り組みとしては評価できるが従来の研究室との違い、メリットがよく紙面ではわからない。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ PBL 研究会への教員参加率が 100%を達成したこと</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ オンライン開催の PBL 研究会に全教員が参加した。 ◎ 令和3(2021)年度以降に、AIIT 高度専門職人材教育研究センターに IR 機能を導入するために特任教員を配置することを決めた。 ◎ 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を4件新設し、計7研究所の運営を行った。</td> </tr> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		2	◎ 学際的な研究所に関しては新たに2件の応募があり、令和3年度からは計9研究所が運営されている。精力的に開発型研究が行われていると評価できる。 ◇ AIIT 高度専門職人材教育研究センターではオンライン授業に関する調査や IR 導入も検討され、教育改善に資する取組が行われているが、シンポジウムへの学内参加がさらに増えることを期待したい。	3	◎ PBL 研究会について、教員参加割合 100%を達成している点が評価できる。 ◎ AIIT 高度専門職人材教育研究センターにおいて、学生及び教員に対するアンケート実施によるニーズ等の把握、IR 専門家(特任教員)の配置の決定等、高度専門職人材教育に関する取組や体制の充実を図っている点が評価できる。	3	◎ IR 専門家を特任教員として配置し、IR 機能の実施体制を整えた。	2	◎ 開発型研究推進のために、研究所を公募により増設している。Active な取り組みとしては評価できるが従来の研究室との違い、メリットがよく紙面ではわからない。	3	◎ PBL 研究会への教員参加率が 100%を達成したこと	2	◎ オンライン開催の PBL 研究会に全教員が参加した。 ◎ 令和3(2021)年度以降に、AIIT 高度専門職人材教育研究センターに IR 機能を導入するために特任教員を配置することを決めた。 ◎ 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を4件新設し、計7研究所の運営を行った。
評定	評定説明																				
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> PBL 研究会をオンラインで開催し、教員参加率 100%を達成した。 AIIT 高度専門職人材教育研究センターにおいて、IRの専門家として特任教員の配置を決定する等、高度専門職人材教育に関する取組を図った。 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を4件新設し、計7研究所を運営した。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> AIIT 高度専門職人材教育研究センターが開催するシンポジウムについて、学内参加が更なる増加を期待する。 																				
評定	評定説明（コメント）																				
3																					
2	◎ 学際的な研究所に関しては新たに2件の応募があり、令和3年度からは計9研究所が運営されている。精力的に開発型研究が行われていると評価できる。 ◇ AIIT 高度専門職人材教育研究センターではオンライン授業に関する調査や IR 導入も検討され、教育改善に資する取組が行われているが、シンポジウムへの学内参加がさらに増えることを期待したい。																				
3	◎ PBL 研究会について、教員参加割合 100%を達成している点が評価できる。 ◎ AIIT 高度専門職人材教育研究センターにおいて、学生及び教員に対するアンケート実施によるニーズ等の把握、IR 専門家(特任教員)の配置の決定等、高度専門職人材教育に関する取組や体制の充実を図っている点が評価できる。																				
3	◎ IR 専門家を特任教員として配置し、IR 機能の実施体制を整えた。																				
2	◎ 開発型研究推進のために、研究所を公募により増設している。Active な取り組みとしては評価できるが従来の研究室との違い、メリットがよく紙面ではわからない。																				
3	◎ PBL 研究会への教員参加率が 100%を達成したこと																				
2	◎ オンライン開催の PBL 研究会に全教員が参加した。 ◎ 令和3(2021)年度以降に、AIIT 高度専門職人材教育研究センターに IR 機能を導入するために特任教員を配置することを決めた。 ◎ 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、新たに開発型研究所を4件新設し、計7研究所の運営を行った。																				

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 17】 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ PBL 研究会について、コロナ禍でもオンラインで開催し、教員参加率は目標の 90%以上を維持し続けている。 ・ 社会のニーズにダイナミックに応える専攻横断型の研究所は、目標である4つ以上の研究所が運営され、令和2年度からは更に研究所の数を伸ばしており、精力的に開発型研究が行われている。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 産技大の PBL 型教育の特長や成果の社会への発信について、今後更に活発に行われることを期待する。	3	
		3	◎ 学際的な研究所に関しては常に4つ以上の研究所が運営され、令和2年度からはさらに研究所の数を伸ばしている。精力的に開発型研究が行われていると評価できる。
		3	
		3	◎ 社会のニーズにダイナミックに応える専攻横断型の研究所の活動が盛んであり、令和2年度で7研究所、令和3年度は9研究所に拡大予定である。
		3	
		3	◎ PBL 研究会への教員参加率が90%以上を維持し続けていること ◇ PBL の成果の学外へのさらなる「情報発信」を期待
		2	◎ 例年開催されるPBL研究会には、中期計画(2-12)の設定値(90%)を大幅にこえる教員の参加があった。 ◎ 社会のニーズにダイナミックに応えるための専攻横断型の研究所の設置を、中期計画(2-12)の設定【4以上】を大きく超えて実施した。
参考意見（案） <div style="background-color: #ffff00; height: 100px;"></div>			

Ⅱ 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置

大項目 18 都政との連携	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	2-15	都や区市町村への政策課題に対する支援	A	A
2-16	都・区市町村等への研修実施等を通じた人材育成支援	B		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 18】 年度評価	
---------------	--

<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%; text-align: center;">評定</th> <th style="text-align: center;">評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">◎</td> <td> 優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 都・区市町村等への職員向け研修や公開講座について、目標の年間 10 講座を上回る 12 講座を開催した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響下でテレワークが進んだことを反映し、島しょ地域に対し、セキュリティに関する研修をオンラインで実施した。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">◇</td> <td> 更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 品川区との連携・協力に関する包括協定により、区と連携して区内事業者への支援が行われているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、件数が1件に留まっている。今後、支援件数が増加することを期待する。 ・ 都や区市町村等の職員向け研修・公開講座のテーマについて、更なる拡充・多様化を期待する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	◎	優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 都・区市町村等への職員向け研修や公開講座について、目標の年間 10 講座を上回る 12 講座を開催した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響下でテレワークが進んだことを反映し、島しょ地域に対し、セキュリティに関する研修をオンラインで実施した。 	◇	更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 品川区との連携・協力に関する包括協定により、区と連携して区内事業者への支援が行われているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、件数が1件に留まっている。今後、支援件数が増加することを期待する。 ・ 都や区市町村等の職員向け研修・公開講座のテーマについて、更なる拡充・多様化を期待する。 	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%; text-align: center;">評定</th> <th style="text-align: center;">評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 都・区市町村等の職員向けの講座を目標値に上回る数開講し、研修の対象範囲を島しょ地域まで拡大した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 都・区市町村等への職員向け研修や公開講座について、目標の年間 10 講座を上回る 12 講座を開催した点が評価できる。コロナ禍において関心の高い情報セキュリティに関するテーマを取り上げ、さらに、研修機会が少ないと思われる島しょ部に対してオンラインにより講座を開催するなど、テーマや対象、実施方法ともに工夫が行われている。 ◇ 品川区との連携・協力に関する包括協定により、区と連携して区内事業者への支援が行われている点が評価できる。コロナ禍であることもあり、件数が1件であることから、今後、支援件数が増えていくことが期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 中小企業振興や中小企業技術支援において、受託研究や、セミナーやイベント開催という形で貢献した。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 都や市町村への政策課題に対する支援に積極的に取り組んでいる点は、重要である。とくにニーズマッチングにより中小企業に技術支援をしているのは産技大ならではの取り組みとして評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ (コロナ感染対策下にもかかわらず)都・区市町村職員への研修・公開講座を多数開催したところ(但し、テーマ・講師は限定的) ◇ 自治体職員向け研修講座メニューの拡充(多様化)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 新型コロナウイルス感染症の影響下でテレワークが進んだことを反映して、島しょ地域に対しオンラインのセキュリティ研修を実施した。 ◎ 都・区市町村等の職員向けの研修や公開講座を、中期計画(2-16)の設定【年間 10 講座】を超えた 12 講座を開催した。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	3		3	◎ 都・区市町村等の職員向けの講座を目標値に上回る数開講し、研修の対象範囲を島しょ地域まで拡大した。	3	◎ 都・区市町村等への職員向け研修や公開講座について、目標の年間 10 講座を上回る 12 講座を開催した点が評価できる。コロナ禍において関心の高い情報セキュリティに関するテーマを取り上げ、さらに、研修機会が少ないと思われる島しょ部に対してオンラインにより講座を開催するなど、テーマや対象、実施方法ともに工夫が行われている。 ◇ 品川区との連携・協力に関する包括協定により、区と連携して区内事業者への支援が行われている点が評価できる。コロナ禍であることもあり、件数が1件であることから、今後、支援件数が増えていくことが期待される。	3	◎ 中小企業振興や中小企業技術支援において、受託研究や、セミナーやイベント開催という形で貢献した。	3	◎ 都や市町村への政策課題に対する支援に積極的に取り組んでいる点は、重要である。とくにニーズマッチングにより中小企業に技術支援をしているのは産技大ならではの取り組みとして評価できる。	3	◎ (コロナ感染対策下にもかかわらず)都・区市町村職員への研修・公開講座を多数開催したところ(但し、テーマ・講師は限定的) ◇ 自治体職員向け研修講座メニューの拡充(多様化)	3	◎ 新型コロナウイルス感染症の影響下でテレワークが進んだことを反映して、島しょ地域に対しオンラインのセキュリティ研修を実施した。 ◎ 都・区市町村等の職員向けの研修や公開講座を、中期計画(2-16)の設定【年間 10 講座】を超えた 12 講座を開催した。
評定	評定説明																						
◎	優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 都・区市町村等への職員向け研修や公開講座について、目標の年間 10 講座を上回る 12 講座を開催した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響下でテレワークが進んだことを反映し、島しょ地域に対し、セキュリティに関する研修をオンラインで実施した。 																						
◇	更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 品川区との連携・協力に関する包括協定により、区と連携して区内事業者への支援が行われているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、件数が1件に留まっている。今後、支援件数が増加することを期待する。 ・ 都や区市町村等の職員向け研修・公開講座のテーマについて、更なる拡充・多様化を期待する。 																						
評定	評定説明(コメント)																						
3																							
3	◎ 都・区市町村等の職員向けの講座を目標値に上回る数開講し、研修の対象範囲を島しょ地域まで拡大した。																						
3	◎ 都・区市町村等への職員向け研修や公開講座について、目標の年間 10 講座を上回る 12 講座を開催した点が評価できる。コロナ禍において関心の高い情報セキュリティに関するテーマを取り上げ、さらに、研修機会が少ないと思われる島しょ部に対してオンラインにより講座を開催するなど、テーマや対象、実施方法ともに工夫が行われている。 ◇ 品川区との連携・協力に関する包括協定により、区と連携して区内事業者への支援が行われている点が評価できる。コロナ禍であることもあり、件数が1件であることから、今後、支援件数が増えていくことが期待される。																						
3	◎ 中小企業振興や中小企業技術支援において、受託研究や、セミナーやイベント開催という形で貢献した。																						
3	◎ 都や市町村への政策課題に対する支援に積極的に取り組んでいる点は、重要である。とくにニーズマッチングにより中小企業に技術支援をしているのは産技大ならではの取り組みとして評価できる。																						
3	◎ (コロナ感染対策下にもかかわらず)都・区市町村職員への研修・公開講座を多数開催したところ(但し、テーマ・講師は限定的) ◇ 自治体職員向け研修講座メニューの拡充(多様化)																						
3	◎ 新型コロナウイルス感染症の影響下でテレワークが進んだことを反映して、島しょ地域に対しオンラインのセキュリティ研修を実施した。 ◎ 都・区市町村等の職員向けの研修や公開講座を、中期計画(2-16)の設定【年間 10 講座】を超えた 12 講座を開催した。																						

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 18] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
3	◎優れた点・特色ある点 ・ 都・区市町村等の職員向けの研修や公開講座について、平成30年度以降、目標である年間 10 講座以上の開講を達成できている。 ◇更なる充実が期待される点 ・ コロナ禍において、各自治体が実施する職員研修の縮小等により、研修実施機会が減少している。オンライン開催の経験やノウハウを生かしながら研修の再開や充実に向け、都や市区町村への積極的な働きかけを行っていくことを期待する。	3	
		3	
		3	◇ コロナ禍において、各自治体が実施する職員研修が縮小されるなど、研修実施機会が減少する中、オンラインによる研修実施等の工夫が行われている点が評価できる。研修の再開や充実に向けて、引き続き、都や市区町村への働きかけが期待される。
		3	◇ 都政との連携においては、受け身の姿勢ではなく、例えば「研究所」機能を活用して、長期短期の政策課題について、自ら発掘、提言することを目標とする活動は検討できないか？
		3	
		3	◇ 都政の課題に直結したテーマ(コロナと中小企業)への対応
		3	◎ 都・区市町村等の職員向けの研修や公開講座を、中期計画(2-16)の設定【年間 10 講座】を超えて開講した。
参考意見（案） ・ 都政との連携においては、受け身の姿勢ではなく、例えば開発型研究所の機能を活用し、長期又は短期の政策課題に対して、産技大が主体的に発掘、提言することを目標に据えた活動を検討してはどうか。			

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目 19 社会貢献等	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	2-17	産業振興施策への貢献、中小企業支援の実施、AIIT シニアスタートアッププログラム実施に伴う連携	B	A
	2-18	学修コミュニティの更なる充実、修了生の支援の充実、社会人を対象としたキャリアアップや学び直しの場の提供	S	
2-18-2	AIIT シニアスタートアッププログラムの実施	A		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 19] 年度評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明(コメント)
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 従来の AIIT マンスリーフォーラムを AIIT フォーラムに名称変更し、公開講座をオンラインで計8回開催し、延べ1,546人の参加(視聴)があった。 AIIT シニアスタートアッププログラムを開講し、8名の修了生を輩出した。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、AIIT フォーラム等の公開講座をオンラインで開催する等、参加者確保のための工夫を図ったが、今後もこうした取組を継続し、社会貢献につなげていくことを期待する。 多くの中小企業が新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、コロナ後を見据えた事業展開等へ向けて、様々な相談ニーズがあると思われることから、引き続き、中小企業への支援の拡大に向けた取組の推進を期待する。 	2	◎ 社会人リカレント教育のためのマンスリーフォーラムの計画は順調に推移しており、またシニア層向けのスタートアッププログラムも実施しており、計画を実行できている点は評価できる。
		2	◇ AIIT フォーラム等公開講座をオンラインで開催したことにより、国内外の遠隔地から幅広く参加することが可能となり、のべ参加者数が大幅に増加した。コロナ禍如何にかかわらず、今後もこうした取組が継続していくことが社会貢献につながるという。
		1	◎ 中小企業への支援について、東京商工会議所や地元金融機関との連携が進んでおり、東京商工会議所からの相談事業数は、平成元年度の13件から令和二年度は29件へと大きく拡大している。多くの中小企業が新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、コロナ後を見据えた事業展開等へ向けて、様々な相談ニーズがあると思われることから、引き続き、中小企業への支援の拡大が期待される。
		3	◎ AIITマンスリーフォーラムをAIITフォーラムと名称変更し、3つの学位プログラムの専門領域に関連したトピックを扱う講座を新たに開講したり、コロナ禍においてオンライン開催とするなど、充実や工夫が行われている点が評価できる。特に、オンライン開催については、会場開催の際を大幅に上回る1,546人の延べ参加者数を獲得している。また、参加者の地域も国内外含め、拡大している。
		2	◎ 修了生を支援する仕組みとして、4つの修了生コミュニティを設置した点が評価できる。各コミュニティでは、指導教員のもと、引き続き、研究テーマに沿った活動が行われており、継続した学びや修了生ネットワーク構築の推進が期待される。
		2	◎ 文科省公募事業に「デジタル活用教育高度化事業」採択(中小企業支援)
		2	◎ AIIT オンライン公開講座参加者の大幅増
2	◎ 従来の AIIT マンスリーフォーラムを AIIT フォーラムに名称変更し、公開講座をオンラインで計8回開催し、1,546人の延べ参加者数(視聴回数)があった。		
		2	◎ AIIT シニアスタートアッププログラムを開講し、8名の修了生を輩出した。
参考意見(案)			

【評定（見込評価）】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 19] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AIIT 単位バンク制度や履修証明プログラムを着実に実施し、社会人を対象としたキャリアアップや学び直しの場を広く提供できている。 ・ 平成30年度から事業を開始した AIIT シニアスタートアッププログラムは、社会人の学びやすさに配慮した職業実践力育成プログラムとして、充実したリカレント教育の場を提供している。 ・ AIIT フォーラム等公開講座は、オンラインでの開催等の工夫も施しながら継続的に開催し、毎年度、目標を上回る参加者を集めている。 ・ 修了生コミュニティが設置され、継続した学びと修了生ネットワーク構築の場が用意されている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AIIT フォーラム等公開講座はオンラインを活用し、ますます幅広く多くの参加を得ている。コロナ禍の収束後も、こうした取組を継続することを期待する。 ・ 修了生コミュニティに対するアンケート、ヒアリングが行われており、今後、コミュニティ参加者の要望等を踏まえた制度の改善や構成員の拡大等が図られることを期待する。 ・ AIIT シニアスタートアッププログラムにおける行政との連携等、リカレント教育プログラムの更なる拡充を期待する。 	2	◎ 社会人リカレント教育のための各種プログラムが計画通りに十分進行していることは評価できる。
		2	◎ 履修証明プログラムはコロナ禍により一部中止することになったが、AIIT シニアスタートアッププログラムは社会人の学びやすさに配慮した職業実践力育成プログラムとして開発が進んでいる。 ◇ AIIT フォーラム等公開講座はオンラインを活用し、ますます幅広く多くの参加を得ている。コロナ禍如何にかかわらず、今後もこうした取組が継続していくことが社会貢献につながるといえる。
		2	◎ AIIT フォーラムについて、オンライン開催による効果がみられたことから、コロナ後、会場開催、オンライン開催、それぞれの利点や特色を活かし、引き続き、国内外から多くの参加者を得て、充実した取り組みが推進されることが期待される。 ◎ 修了生コミュニティが設置され、継続した学びと修了生ネットワーク構築の場が用意された点が評価できる。各コミュニティに対するアンケート、ヒアリングが行われており、コミュニティ参加者の要望等を踏まえた今後の改善や構成員の拡大などが期待される。
		3	◎ AIIT フォーラム等公開講座(オンライン開催)の活況、AIIT シニアスタートアッププログラム開講と、社会人リカレント教育に貢献している。
		2	
		2	◎ 単位バンク制や履修証明プログラムなど AIIT フォーラムが定着（オンライン講座の参加者も着実に増加） ◇ リカレント教育プログラムメニューの更なる充実（AIIT シニアスタートアッププログラムにおける行政との連携など）
		3	
<p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>			

II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 20
グローバル化

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
2-19	グローバル人材の育成、グローバル人材として獲得すべき能力指標の活用	A	S
2-20	アジア諸国等の大学との連携	A	

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 20] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
(2)	◎ 優れた点・特色ある点 ・ コロナ禍にあるにもかかわらず、アジアの連携機関とこれまでの実績を活かしつつ、グローバルに活躍できる高度専門職人材を育成するため、オンラインで PBL を実施した。 ・ オンライン形式でのイベントの実施により、アジア諸国等の大学との連携関係・交流を継続するとともに、新たな交流先の拡大を図った。
	◇ 更なる充実が期待される点 ・ 従来から積極的に取り組んできたグローバル PBL 等については、コロナ禍においてもオンラインを活用して情報発信し、同様にアジア諸国とシンポジウム等もオンラインで共催し、国際交流を図っている。オンラインの利便性を活かし、今後より一層多くが参加することを期待する。 ・ 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行い、グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生が目標の8割となるよう、更なる取組を期待する。

参考意見（案）

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
2	◎ コロナ禍にあるにもかかわらず、アジアの連携機関とこれまでの実績を活かしつつオンラインで PBL を実施するなど、緊急事態に対する対応も優れており評価できる。
3	◇ 従来から積極的に取り組んできたグローバル PBL 等については、コロナ禍においてもオンラインを活用して情報発信し、同様にアジア諸国とシンポジウム等もオンラインで共催し、国際交流を図っている。オンラインの利便性を活かし、今後より一層多くが参加することを期待する。
2	◎ コロナ禍においても、オンラインで PBL を行い、グローバル人材を育成する教育を推進した点が評価できる。 ◎ アジア諸国等の大学との連携においても、オンライン形式でのイベントの実施となったが、新たな交流先の拡大を図った点も評価できる。
3	◎ コロナ禍においても、アジア諸国等の大学との交流(オンライン)は継続された。
2	◎ APEN で PBL 型教育をアジアに拡大しており、アジアの高度専門職人材育成への貢献は評価できる。とくに技術を活用したポストコロナの在り方について期待できる。
2	◎ (コロナ感染対策下での) オンラインを活用したアジア・アフリカの大学・研究機関等との連携(連携先は多様化している) ◎ ポストコロナを見据えた人材育成などを WEB セミナーで議論
3	◎ 学生の「グローバル人材」に関するコンピテンシー向上の機会を提供すべく、オンラインを活用して海外機関と共同で、「アジア/アフリカに対するデジタル SDGs の政策提言」のテーマで PBL を実施した。 ◇ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が、中期計画(2-19)の設定【8割】に届いていない。

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 20] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア諸国等とのネットワークを生かし、グローバル PBL の実施等、グローバルに活躍できる高度専門職人材を育成するための取組を着実に推進している。また、様々な国際交流を通じて、各国との連携強化や産技大の特長である PBL 型教育を国内外への情報発信が活発に行なわれている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル PBL やアジア諸国等との国際交流については、コロナ禍が収束しても、オンラインの利便性を活かし、より多くの参加者が集まることを期待する。 PBL に代表される産技大の強みを国内外により一層アピールする等、産技大のプレゼンスを高めるための取組の継続を期待する。 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行い、グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生が目標の8割となるよう、更なる取組を期待する。 	2	◎ アジア諸国とのネットワークを生かしたグローバル人材育成の計画が十分に遂行されている点を評価する。
		2	◇ 従来から積極的に取り組んできたグローバル PBL 等については、コロナ禍においてもオンラインを活用して情報発信し、同様にアジア諸国とシンポジウム等もオンラインで共催し、国際交流を図っている。コロナ禍如何を問わず、オンラインの利便性を活かし、今後より一層多くが参加することを期待する。
		2	◎ コロナ後もオンライン等を効果的に活用し、グローバルに活躍できる高度専門職人材の育成が進むことが期待できる。
		2	◇ 海外の大学、政府機関とのグローバル PBL を、学生の「グローバル人材」としてのコンピテンシー向上のためのプログラムと位置付けて推進していることは、意欲的であり、今後の発展が期待される。
		2	
		1	◎ アジア・アフリカの多様な国・地域との連携・共同研究を実施 ◇ 産技大のプレゼンスを高める努力を継続して頂きたい（PBL に代表される産技大の「強み」をアピール）
	◇ グローバル人材の能力指標の基準を満たす学生の割合が、中期計画(2-19)の設定【8割】に届いていない。		
<p>参考意見（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の大学、政府機関とのグローバル PBL を、学生の「グローバル人材」としてのコンピテンシー向上のためのプログラムと位置付けて推進していることは、意欲的であり、今後の発展が期待される。 			

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置				
大項目 21 教育内容及び教育の成果等	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	3-00	新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成、	A	S
	3-01	情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、社会人向け情報セキュリティ教育の実施、航空技術者育成プログラムの実施	S	
	3-02	新教育課程の実施(平成29年度に達成済み)	-	
	3-03	JABEE 受審へ向けた取組	B	
	3-04	アクティブ・ラーニング推進とデザイン思考を取り入れた授業の実施	A	
	3-05	国際的に活躍できる技術者の育成	A	
3-06	専攻科の一部専門科目の英語教育導入に向けた取組	B		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 21】 年度評価

評価素案 評定	評定説明	委員別評定等 評定	評定説明(コメント)
	◎優れた点・特色ある点 ・品川キャンパスにおいて、AI スマート工学コース、情報システム工学コースの開設準備が進行した。また、荒川キャンパスにおいて、医工連携教育・研究プロジェクトの開設に当たり、都立病院、都立大健康福祉学部と調整を進めた。 ・情報セキュリティ技術者育成プログラムを着実に実施し、本科では9名、専攻科では初となる3名の修了生を輩出した。 ・航空技術者育成プログラムについて、コロナ禍にあって、4年次の履修生全員が航空機整備企業等のインターンシップに参加できる機会を確保した。また、7名の修了生を輩出した。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策をしながら、グループワーク等のアクティブ・ラーニング型授業を展開した。		◎ コロナ禍への迅速な対応力が認められる。 ◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムの本科と専攻科、また航空技術者育成プログラムの本科についても修了生すべての進路が無事確定している。 ◎ 新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、海外体験プログラムの中止を余儀なくされたが、オンラインを活用した代替プログラムについては運用の観点等に配慮したうえで柔軟に対処し整備している。 ◇ 今後、航空技術者育成プログラムが修了ならびに進路決定の実績を着実に上げ、定員増加とプログラムの拡充が両立することを期待する。 ◎ 「情報セキュリティ技術者育成プログラム」を設けて、倫理観を有し、かつサイバー攻撃に対応できる知識・技能を有する技術者の輩出に努めている点が評価できる。令和2年度は、専攻科において初の専攻科の修了生3名を輩出している。専攻科では、セキュリティ科目で現役エンジニア7名が担当する科目があるなど、内容も充実している。また、就職支援に関して、協定企業による講演がきっかけで学生の就職先が決まっており、新たに2企業との包括連携協定が締結されたことから、プログラムの充実とともに、学生の就職先としてもネットワークが拡大したことが評価できる。 ◎ 社会人向け情報セキュリティ教育について、社会人向けの勉強会を開催し、リカレント教育に取り組んでいる点も評価できる。情報システムセキュリティ技術者育成プログラムの履修学生が社会人向け勉強会のシステム構築を行っており、学生に対して、多様な学びの機会を提供している点も評価できる。 ◎ 「航空技術者育成プログラム」について、コロナ禍にある中、4年生のプログラム履修生8名全員が航空機整備企業等のインターンシップに参加できるよう支援し、企業の現場での学びの場を確保している。履修生の進路も、多くが航空整備企業への就職や航空を専攻とする大学等に進学が決定する等、航空技術者としての活躍が期待される人材を社会に輩出している。 ◎ 社会ニーズ、時代の要請を捉えたカリキュラム、コースの再編のため、品川キャンパスにおいて、AI スマート工学コース、情報システム工学コース開設準備が進行した。 ◎ 荒川キャンパスにおいて、医工連携教育・研究プロジェクト開設に当たり、都立病院、都立大健康福祉学部との横連携の可能性を探っている。 ◇ 2つの海外体験プログラム(GCP, IEP)が順調に発展してきたが、コロナ禍で大きく制限を受けてしまったことは、残念であった。学生にとっては、在校中の限られたチャンスであり、収束後には速やかに再開できるよう待ったなしの準備を継続して頂きたい。 ◎ 情報セキュリティ技術者養成プログラムは、時代のニーズにあった実践的教育として評価できる。 ◎ (コロナ感染対策下での)アクティブ・ラーニング実施やコース新設 ◎ (コロナ感染対策下においても)JABEE 受審に向けた取組み継続 ◇ 情報セキュリティ教育ニーズは高く、WEB 等での研修開講を期待 ◎ グループワーク等のアクティブ・ラーニング型授業を展開し、創造的な技術者の育成を行った。 ◎ 産業界や社会のニーズを踏まえ、情報セキュリティ技術者育成及び航空技術者育成などの専門性の高いプログラムの開発・実施により、実践的な知識・技術を習得した人材の輩出を行っている。
(2)		3	
		1	
		1	
		2	
		2	
		2	
		2	

参考意見(案)

令和 2 年度及び第三期中期目標期間（見込）業務実績評価 項目別評価（素案）

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 21】 見込評価

評価素案

評定	評定説明
(1)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業界や社会のニーズを踏まえ、情報セキュリティ技術者育成及び航空技術者育成等の専門性の高いプログラムの開発・実施により、実践的な知識・技術を習得した人材の輩出を行っている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 品川キャンパスのカリキュラム・コース再編、荒川キャンパスの医工連携プロジェクトは共に、社会のニーズを的確に捉えた施策である。特に、医工連携プロジェクトについては、都立病院、都立大との横連携を図ることが企画されており、綿密な調整を図りながら、今後の取組を進められたい。 社会人の学び直し機会の提供について、ニーズの高い情報セキュリティ教育をはじめ、内容の拡充・強化を期待する。

参考意見（案）

<ul style="list-style-type: none"> 都庁の中には、必ず、産技高専とのコラボレーションを行うことで、大きなシナジー効果を発揮できる組織やプロジェクトが存在しているので、積極的に連携を図っていくことを期待する。

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
2	◎ 本科教育コースが有益に改編され、計画通りに教育の実を挙げている様子がうかがえる。
1	◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラムの本科と専攻科、また航空技術者育成プログラムの本科についてもこれまで修了生すべての進路が無事確定しており、中期計画通り修了生の輩出が見込まれている。 ◇ 新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、海外体験プログラムの中止を余儀なくされているが、学生、保護者等にとって安全安心なプログラムが実現できること、またオンラインを活用した代替プログラムについてもその充実と参加者にとっての利便性や工夫を図ることを期待する。
1	◎ 「情報セキュリティ技術者育成プログラム」について、令和4年度までに 50 人の修了生が見込まれており、順調に履修生を確保し、情報セキュリティに関する高い専門性を持つ修了生を社会に輩出することができている。学生・卒業生を令和4年技能五輪国際大会中国・上海大会の候補選手として予選へのエントリーを予定するなど、活動の充実が図られている点が評価できる。 ◎ グローバル・コミュニケーション・プログラムについて、コロナ禍で活動が制限される中、国内での英語研修やオンライン交流など、代替プログラムを工夫することにより、学生に対して、海外体験の機会を継続して提供することができている点が評価できる。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、国内で実施可能な取組、オンラインによる研修や交流等を組み込みながら、国際的に活躍できる技術者の育成を目指したプログラムの工夫・充実が期待される。
1	◎ 情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラムがしっかりと定着し、社会の要請、学生のニーズに対応できた。情報セキュリティにおいては、サイバー演習教育システムを提供するなど、社会の喫緊の課題にも取組むことが出来ており、今後への期待がさらに高まる。 ◇ 品川キャンパスのカリキュラム・コース再編、荒川キャンパスの医工連携プロジェクトは共に、社会のニーズを的確に捉えた施策である。医工連携においては、都立病院、都立大との横連携を図ることが企画されており大いに期待する。これに限らず、東京都庁全体の巨大な組織の中には、必ず、産技高専とコラボすることが大きなシナジー効果を発揮する組織やプロジェクトが存在しているはずであり、常にそれを探求してもらいたい。
3	
1	◎ 情報セキュリティなど重点分野のコース新設 ◇ 社会人向けコースの拡充（セキュリティなどニーズ高い）
2	◎ グループワーク等のアクティブ・ラーニング型授業を展開し、創造的な技術者の育成を行った。 ◎ 産業界や社会のニーズを踏まえ、情報セキュリティ技術者育成及び航空技術者育成などの専門性の高いプログラムの開発・実施により、実践的な知識・技術を習得した人材の輩出を行っている。

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 22

教育の実施体制等
【教育システムの継続的な改善、他の教育機関等との連携】

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
3-07	運営協力者会議等を活用した教育研究の質の向上	B	B
3-08	都立工業高校との接続プログラムの実施	B	
3-09	産技大・都立大と連携したGCP実施、2大学1高専の連携	A	

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 22】 年度評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	◇更なる充実が期待される点 ・ 都立工業高校からの編入生受け入れ推進は、高専、都立工業高校双方の学生達にとって、プラス効果の大きい横連携と考えられるので、地道に継続、拡大することを期待する。

参考意見（案）

--

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
3	
3	
3	
3	◇ 都立工業高校からの編入生受け入れ推進は、高専、都立工業高校双方の学生達にとって、プラス効果の大きい横連携と考えられるので、地道に継続、拡大することを期待する。
3	◎ 2 大学1高専との連携は重要
3	
3	

【評定(見込評価)】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。2…中期目標の達成状況が良好である。3…中期目標の達成状況が概ね良好である。4…中期目標の達成状況がやや不十分である。5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 22] 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
3	◇更なる充実が期待される点 ・ 運営協力者会議において聴取した高専運営に係る各種意見を踏まえた対応について、「検討」段階の事項が多く見られるが、いずれも「実行」に移せるよう、引き続き取り組むことを期待する。 ・ 都立大・産技大、都立工業高校等との連携は、各学校及び学生にとって大きなメリットが生まれる施策である。セクショナリズムに陥ることなく、常に横連携を図ることを意識して、今後、更なる取組の推進を期待する。	3	
		3	◇ 2大学1高専において現場教職員のニーズ把握に向けて、ワーキンググループや意見交換の場などの連携体制の構築が図られており、今後さらに強化されること期待する。
		3	◇ 産技大、都立大と連携したグローバル・コミュニケーション・プログラムについて、令和2年度は中止となったが、令和3年度第9回の実施に向けて、新型コロナウイルス感染症の影響がある場合にはオンライン開催としたり、募集人数を増加することを決定した点が評価できる。今後、実現に向けて、取組が推進されることが期待される。
		3	◇ 専攻科と産技大との連携、都立工業高校からの編入、都立大への編入など、法人内外の東京都傘下の学校種との連携は、学生にとっても学校にとっても効果の高い施策であろう。常に、タコソボ化せず横連携を図ることを意識することが大切であるとする。
		3	
		3	◇ 「運営協力者会議」の活性化(「検討」コメントが目立つが「実行」を！) ◇ 都立大との「連携」(GCP 以外)の具体化を期待
		3	
参考意見（案） <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>			

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

大項目 23

教育の実施体制等
【教育の質の評価・改善】

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
3-10	学生の学習到達度評価の充実(平成30年度に達成済)	-	B
3-11	機関別認証評価を踏まえた改善策の実施	A	
3-12	更なる教育の質の向上へ向けた教員研修の取組	B	

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 23】 年度評価

評価素案	評定	評定説明
	(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 学生の課外活動を支援する顧問等の役割を明確にするとともに、クラブ活動指導員制度を導入することで、教員の負担軽減やクラブ活動指導に係る技術的指導力の向上を図った。

参考意見(案)

委員別評定等	評定	評定説明(コメント)
	3	
	3	
	3	◎ 学生の課外活動を支援する顧問、クラブ指導員、現場対応員の役割を明確にし、教員の負担軽減やクラブ活動指導に係る技術的指導力の向上を図った点が評価できる。令和3年3月から非常勤でクラブ活動指導員も導入される。高専における学生の課外活動は活発であり、学生が主体的に活動する課外活動からも多くの学びを得られることから、教員に過度な負担がかからない体制により、引き続き、支援の充実を図っていくことが期待される。
	3	
	3	
	3	
	2	◎ 機関別認証評価結果に基づき、学生の課外活動を支援するために顧問等の役割を明確にするとともに、課外活動に関する指導方針を新たに作成し、クラブ活動指導員を導入するなどの改善を行った。 ◎ 各種研修に対する教員の参加率は昨年度の高水準を維持した。

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 23】 見込評価																							
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価素案</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に受審した機関別認証評価において、「技術職員の教育・技能の資質向上への取組が不十分」との指摘があった。当該指摘を踏まえ、研究計画(案)が作成される等、対応は進んでいるものの、教育内容の性質から考えて、この克服のためには、教員の個人的努力に依存するのは限界があるため、組織的に研修機関・カリキュラムの検討・充実に取り組んでいくことが望まれる。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評価素案	評定説明	(3)	<p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に受審した機関別認証評価において、「技術職員の教育・技能の資質向上への取組が不十分」との指摘があった。当該指摘を踏まえ、研究計画(案)が作成される等、対応は進んでいるものの、教育内容の性質から考えて、この克服のためには、教員の個人的努力に依存するのは限界があるため、組織的に研修機関・カリキュラムの検討・充実に取り組んでいくことが望まれる。 	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #e0e0e0;">委員別評定等</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>▲ 認証評価機関からの要改善点として、技術職員の教育・技能の資質向上への取組みが不十分との指摘がある。教育内容の性質から考えると、この克服のためには、教員の個人的努力に依存するのは限界があり、法人も協力して組織をあげて、研修機関やカリキュラムの検討を行わなければならないのではないかと考える。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	委員別評定等		評定	評定説明(コメント)	3		3		3		3	▲ 認証評価機関からの要改善点として、技術職員の教育・技能の資質向上への取組みが不十分との指摘がある。教育内容の性質から考えると、この克服のためには、教員の個人的努力に依存するのは限界があり、法人も協力して組織をあげて、研修機関やカリキュラムの検討を行わなければならないのではないかと考える。	3		3		3	
評価素案	評定説明																						
(3)	<p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に受審した機関別認証評価において、「技術職員の教育・技能の資質向上への取組が不十分」との指摘があった。当該指摘を踏まえ、研究計画(案)が作成される等、対応は進んでいるものの、教育内容の性質から考えて、この克服のためには、教員の個人的努力に依存するのは限界があるため、組織的に研修機関・カリキュラムの検討・充実に取り組んでいくことが望まれる。 																						
委員別評定等																							
評定	評定説明(コメント)																						
3																							
3																							
3																							
3	▲ 認証評価機関からの要改善点として、技術職員の教育・技能の資質向上への取組みが不十分との指摘がある。教育内容の性質から考えると、この克服のためには、教員の個人的努力に依存するのは限界があり、法人も協力して組織をあげて、研修機関やカリキュラムの検討を行わなければならないのではないかと考える。																						
3																							
3																							
3																							

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置			
大項目 24 学生への支援	小項目	主な取組	自己評価
			年度 見込
	3-13	多様な課外活動の支援、多様な課外活動の支援、経済的支援の拡充	A
	3-14	体系化したキャリア支援の実施、キャリアポートフォリオを活用したキャリア支援の試行	B

【評定（年度評価）】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 24】 年度評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(2)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあっても学生の課外活動が停滞することのないよう、適切な支援を行った。特に、未来工房プロジェクト及び未来工房ジュニアは、令和元年度と比較して、申請件数が大幅に増加するとともに、申請テーマも高度化する等、内容の充実が図られた。 コロナ禍において、オンラインによる学生相談体制を整備し、学生の状況に応じて柔軟な対応を行った。また、キャリア支援についても、適切に実施するとともに、支援内容の検証・改善を行った。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動指導員の導入により、教員の負担軽減と技術的指導力の向上が一層図られることを期待する。 令和2年度は、令和元年度と比較して、学生相談件数が増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の心身の不調等に対して、相談対応の充実が図られた。コロナ禍で環境が不安定な中、引き続き、学生の相談ニーズに柔軟に対応した取組の推進を期待する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあっても学生の課外活動が停滞することのないよう、適切な支援を行った。特に、未来工房プロジェクト及び未来工房ジュニアは、令和元年度と比較して、申請件数が大幅に増加するとともに、申請テーマも高度化する等、内容の充実が図られた。 コロナ禍において、オンラインによる学生相談体制を整備し、学生の状況に応じて柔軟な対応を行った。また、キャリア支援についても、適切に実施するとともに、支援内容の検証・改善を行った。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動指導員の導入により、教員の負担軽減と技術的指導力の向上が一層図られることを期待する。 令和2年度は、令和元年度と比較して、学生相談件数が増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の心身の不調等に対して、相談対応の充実が図られた。コロナ禍で環境が不安定な中、引き続き、学生の相談ニーズに柔軟に対応した取組の推進を期待する。 	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ キャリア形成支援の検証を計画通りに行って改善につなげたことは評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍にあっても学生の課外活動が停滞することなく、課外活動経費の一部を助成する未来工房プロジェクトや未来工房ジュニアへの申請件数は大幅に増大し、それらへの支援も適切に行われている。高専ロボコンでも活躍をみせている。 ◇ クラブ活動指導員の導入により、教員の負担軽減と技術的指導力の向上が一層図られることを期待する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアの取組について、令和元年度と比較して、申請件数は大幅に増加し、申請テーマも高度化するなど、学生グループによる課外活動が活発化している点が評価できる。品川キャンパスでは、1年生のジュニア申請件数が10件にのぼり、前年の3件から3倍となっており、低学年から課外活動に取り組む意識が高まっている。 ◎ 品川の高専ロボコン研究部、荒川のロボット同好会とも、高専ロボコン2020に出場し、いずれも特別賞を受賞したチームがあり、高い成果もあげている。 ◎ コロナ禍において、オンラインによる相談体制を整備し、学生の状況に応じて柔軟な対応を行った点が評価できる。令和元年度と比較して、令和2年度は、学生相談件数が増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の心身の不調等に対して、相談対応の充実が図られている。コロナ禍で環境が不安定な中、引き続き、学生の相談ニーズに柔軟に対応する取組の推進が期待される。 ◎ 新型コロナウイルス感染症に関する4つの経済的支援制度の周知が行われ、83人の申し込みがあり、79人が採用されるなど、コロナ禍における経済的支援の充実を図っている点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 未来工房プロジェクト、ロボコンなど、産技高専らしい若手教育の取り組みとして期待できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ (コロナ感染対策下での)「未来工房プロジェクト」参加者増を高く評価</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 未来工房プロジェクトおよび、未来工房ジュニアの申請件数が前年度から大幅に増加した。 ◎ 課外活動に對得る支援を受けて、ロボットや人力飛行のコンテストに積極的に参加し、好成績を収めている。 ◎ 経済的支援の拡充として、国の高等教育の修学支援新制度及び東京都の多子世帯支援制度を実施した。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	2	◎ キャリア形成支援の検証を計画通りに行って改善につなげたことは評価できる。	2	◎ コロナ禍にあっても学生の課外活動が停滞することなく、課外活動経費の一部を助成する未来工房プロジェクトや未来工房ジュニアへの申請件数は大幅に増大し、それらへの支援も適切に行われている。高専ロボコンでも活躍をみせている。 ◇ クラブ活動指導員の導入により、教員の負担軽減と技術的指導力の向上が一層図られることを期待する。	2	◎ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアの取組について、令和元年度と比較して、申請件数は大幅に増加し、申請テーマも高度化するなど、学生グループによる課外活動が活発化している点が評価できる。品川キャンパスでは、1年生のジュニア申請件数が10件にのぼり、前年の3件から3倍となっており、低学年から課外活動に取り組む意識が高まっている。 ◎ 品川の高専ロボコン研究部、荒川のロボット同好会とも、高専ロボコン2020に出場し、いずれも特別賞を受賞したチームがあり、高い成果もあげている。 ◎ コロナ禍において、オンラインによる相談体制を整備し、学生の状況に応じて柔軟な対応を行った点が評価できる。令和元年度と比較して、令和2年度は、学生相談件数が増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の心身の不調等に対して、相談対応の充実が図られている。コロナ禍で環境が不安定な中、引き続き、学生の相談ニーズに柔軟に対応する取組の推進が期待される。 ◎ 新型コロナウイルス感染症に関する4つの経済的支援制度の周知が行われ、83人の申し込みがあり、79人が採用されるなど、コロナ禍における経済的支援の充実を図っている点が評価できる。	3		2	◎ 未来工房プロジェクト、ロボコンなど、産技高専らしい若手教育の取り組みとして期待できる。	2	◎ (コロナ感染対策下での)「未来工房プロジェクト」参加者増を高く評価	2	◎ 未来工房プロジェクトおよび、未来工房ジュニアの申請件数が前年度から大幅に増加した。 ◎ 課外活動に對得る支援を受けて、ロボットや人力飛行のコンテストに積極的に参加し、好成績を収めている。 ◎ 経済的支援の拡充として、国の高等教育の修学支援新制度及び東京都の多子世帯支援制度を実施した。
評定	評定説明																				
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあっても学生の課外活動が停滞することのないよう、適切な支援を行った。特に、未来工房プロジェクト及び未来工房ジュニアは、令和元年度と比較して、申請件数が大幅に増加するとともに、申請テーマも高度化する等、内容の充実が図られた。 コロナ禍において、オンラインによる学生相談体制を整備し、学生の状況に応じて柔軟な対応を行った。また、キャリア支援についても、適切に実施するとともに、支援内容の検証・改善を行った。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ活動指導員の導入により、教員の負担軽減と技術的指導力の向上が一層図られることを期待する。 令和2年度は、令和元年度と比較して、学生相談件数が増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の心身の不調等に対して、相談対応の充実が図られた。コロナ禍で環境が不安定な中、引き続き、学生の相談ニーズに柔軟に対応した取組の推進を期待する。 																				
評定	評定説明（コメント）																				
2	◎ キャリア形成支援の検証を計画通りに行って改善につなげたことは評価できる。																				
2	◎ コロナ禍にあっても学生の課外活動が停滞することなく、課外活動経費の一部を助成する未来工房プロジェクトや未来工房ジュニアへの申請件数は大幅に増大し、それらへの支援も適切に行われている。高専ロボコンでも活躍をみせている。 ◇ クラブ活動指導員の導入により、教員の負担軽減と技術的指導力の向上が一層図られることを期待する。																				
2	◎ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアの取組について、令和元年度と比較して、申請件数は大幅に増加し、申請テーマも高度化するなど、学生グループによる課外活動が活発化している点が評価できる。品川キャンパスでは、1年生のジュニア申請件数が10件にのぼり、前年の3件から3倍となっており、低学年から課外活動に取り組む意識が高まっている。 ◎ 品川の高専ロボコン研究部、荒川のロボット同好会とも、高専ロボコン2020に出場し、いずれも特別賞を受賞したチームがあり、高い成果もあげている。 ◎ コロナ禍において、オンラインによる相談体制を整備し、学生の状況に応じて柔軟な対応を行った点が評価できる。令和元年度と比較して、令和2年度は、学生相談件数が増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の心身の不調等に対して、相談対応の充実が図られている。コロナ禍で環境が不安定な中、引き続き、学生の相談ニーズに柔軟に対応する取組の推進が期待される。 ◎ 新型コロナウイルス感染症に関する4つの経済的支援制度の周知が行われ、83人の申し込みがあり、79人が採用されるなど、コロナ禍における経済的支援の充実を図っている点が評価できる。																				
3																					
2	◎ 未来工房プロジェクト、ロボコンなど、産技高専らしい若手教育の取り組みとして期待できる。																				
2	◎ (コロナ感染対策下での)「未来工房プロジェクト」参加者増を高く評価																				
2	◎ 未来工房プロジェクトおよび、未来工房ジュニアの申請件数が前年度から大幅に増加した。 ◎ 課外活動に對得る支援を受けて、ロボットや人力飛行のコンテストに積極的に参加し、好成績を収めている。 ◎ 経済的支援の拡充として、国の高等教育の修学支援新制度及び東京都の多子世帯支援制度を実施した。																				

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 24】 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニア等の充実した支援制度により、課外活動が活発に行われている。 ・ 課外活動をはじめとした学生への経済的支援、学生相談体制がきめ細かく行われるとともに、障がいのある学生に対する支援も的確になされている。また、充実したキャリア支援の成果も進路実績に表れている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の多様な自発的課外活動を支援する取組は、着実に成果があがっている。こうした形で学生の知的好奇心を充足させることは、将来のキャリア形成の一助となるため、引き続き力強い支援を行っていくことを期待する。

参考意見（案）	

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
2	◎ 多岐にわたる学生生活支援およびキャリア形成計画が着実に実行されていることは評価できる。
2	◎ 課外活動をはじめとした学生への経済的支援、学生相談体制がきめ細かく行われるとともに、障がいのある学生に対する支援も的確になされ、キャリア支援体制の成果も進路実績に表れていると考えられる。
2	◎ 未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアなど、充実した課外活動が行われており、コロナ禍にあっても、学生からの申請件数は増加しており、課外活動が活性化している点が評価できる。 ◎ 学生相談体制について、カウンセラーによる相談、オンラインを用いた相談、カウンセリングルームの設置など、学生が相談しやすい体制の整備が進められており、学生の相談ニーズに対応した取組が推進されている点が評価できる。
2	◇ 未来工房プロジェクト、高専ロボコン等、学生の多様な自発的課外活動を支援し、その成果が出ている。こうした形で学生の知的好奇心を充足させることも、順調な就職率及び進学率につながる一助になっている。
3	
2	◎ 「未来工房プロジェクト」が定着
3	

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置				
大項目 25 入学者選抜	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	3-15	特別推薦入試制度の実施に向けた取組	S	A
	3-16	女子学生確保に向けた取組	S	
3-17	意欲ある志願者確保に向けた取組	B		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 25】 年度評価																						
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 特別推薦入試制度について、令和4年度入試から、品川区及び荒川区を合わせて計4名の募集人員とすることが決まった。 ・ コロナ禍で広報活動の実施に当たり支障があったにもかかわらず、公式ホームページに女子学生向けのコンテンツを充実させる等の取組により、合格者全体における女子合格者の割合は 14.4%となり、合格者数は過去最高の 52 人となった。</td> </tr> <tr> <td>◇更なる充実が期待される点 ・ 令和3年度入学者選抜(学力検査に基づく選抜)において、志望者数が令和2年度と比べて大きく減少し、2倍を下回る結果となった。回復に向けた取組が望まれる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(2)	◎優れた点・特色ある点 ・ 特別推薦入試制度について、令和4年度入試から、品川区及び荒川区を合わせて計4名の募集人員とすることが決まった。 ・ コロナ禍で広報活動の実施に当たり支障があったにもかかわらず、公式ホームページに女子学生向けのコンテンツを充実させる等の取組により、合格者全体における女子合格者の割合は 14.4%となり、合格者数は過去最高の 52 人となった。	◇更なる充実が期待される点 ・ 令和3年度入学者選抜(学力検査に基づく選抜)において、志望者数が令和2年度と比べて大きく減少し、2倍を下回る結果となった。回復に向けた取組が望まれる。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>◎ 女子学生の志願者獲得で大きな成果を上げている。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◎ コロナ禍で広報に支障があったにもかかわらず、公式ホームページに女子学生向けのコンテンツを充実させ、女子志願者の割合、女子合格者の割合、女子合格者数、さらには女子入学者数を伸ばした。 ◇ 女子学生向けの広報活動が充実したことにより女子中学生の高専への関心も高まり、女子入学者の数が令和3年度で大幅に増えていることを評価したい。合格者に加えて入学者数も増加するように、女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◎ 特別推薦入試制度について、荒川区との調整が行われ、令和4年度入試から2名の募集人員とすることに決定された点が評価できる。品川区および荒川区において特別推薦入試制度に関わる協定が締結されたことを受けて、特別推薦入試の実施方針も決定している。説明会やスクーリングの実施などにより、入試希望者の確保に向けた取組が推進されている。 ◎ 女子学生確保に向けた取組として、高専公式ホームページに女子中学生向けに、高専の魅力を伝える情報を掲載したり、ミニ学校説明会で女子学生による女子中学生向けのブースを開設して、女性学生を前面に出した広報活動を行うなど、女子中学生に対する広報の充実を図っている点が評価できる。志願者全体における女子志願者の割合は、令和2年度の 10.8%から令和3年度は 13.0%へと3ポイントアップしている。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 長年の各種働きかけが実り、入学者は徐々に増加してきており、女子学生合格者数が過去最高人数となったことは喜ばしい。引続き女子学生割合の増加による学校の活性化を探りたい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 地元の中学校との連携による区の推薦枠などユニークな取り組みである。今後、他の区への展開も期待する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 女子受験生をターゲットとした「情報発信」を高く評価(受験者も増加) ◇ 学力試験志望倍率が2倍を下回っており、リカバーが急務</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>◎ 特別推薦入試制度を拡大し、募集人員を【4人】(令和4年度より)に増大した。 ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により広報活動が制限される中でも、ホームページに特設の「受験生応援サイト」を開設するなど積極的な広報活動を行った。 ◎ ホームページにおける女子学生向けのコンテンツを充実させるなど、広報活動を強化したことにより、志願者、合格者ともに女子の割合が最大となった。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明(コメント)	2	◎ 女子学生の志願者獲得で大きな成果を上げている。	1	◎ コロナ禍で広報に支障があったにもかかわらず、公式ホームページに女子学生向けのコンテンツを充実させ、女子志願者の割合、女子合格者の割合、女子合格者数、さらには女子入学者数を伸ばした。 ◇ 女子学生向けの広報活動が充実したことにより女子中学生の高専への関心も高まり、女子入学者の数が令和3年度で大幅に増えていることを評価したい。合格者に加えて入学者数も増加するように、女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。	1	◎ 特別推薦入試制度について、荒川区との調整が行われ、令和4年度入試から2名の募集人員とすることに決定された点が評価できる。品川区および荒川区において特別推薦入試制度に関わる協定が締結されたことを受けて、特別推薦入試の実施方針も決定している。説明会やスクーリングの実施などにより、入試希望者の確保に向けた取組が推進されている。 ◎ 女子学生確保に向けた取組として、高専公式ホームページに女子中学生向けに、高専の魅力を伝える情報を掲載したり、ミニ学校説明会で女子学生による女子中学生向けのブースを開設して、女性学生を前面に出した広報活動を行うなど、女子中学生に対する広報の充実を図っている点が評価できる。志願者全体における女子志願者の割合は、令和2年度の 10.8%から令和3年度は 13.0%へと3ポイントアップしている。	2	◎ 長年の各種働きかけが実り、入学者は徐々に増加してきており、女子学生合格者数が過去最高人数となったことは喜ばしい。引続き女子学生割合の増加による学校の活性化を探りたい。	2	◎ 地元の中学校との連携による区の推薦枠などユニークな取り組みである。今後、他の区への展開も期待する。	2	◎ 女子受験生をターゲットとした「情報発信」を高く評価(受験者も増加) ◇ 学力試験志望倍率が2倍を下回っており、リカバーが急務	1	◎ 特別推薦入試制度を拡大し、募集人員を【4人】(令和4年度より)に増大した。 ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により広報活動が制限される中でも、ホームページに特設の「受験生応援サイト」を開設するなど積極的な広報活動を行った。 ◎ ホームページにおける女子学生向けのコンテンツを充実させるなど、広報活動を強化したことにより、志願者、合格者ともに女子の割合が最大となった。
評定	評定説明																					
(2)	◎優れた点・特色ある点 ・ 特別推薦入試制度について、令和4年度入試から、品川区及び荒川区を合わせて計4名の募集人員とすることが決まった。 ・ コロナ禍で広報活動の実施に当たり支障があったにもかかわらず、公式ホームページに女子学生向けのコンテンツを充実させる等の取組により、合格者全体における女子合格者の割合は 14.4%となり、合格者数は過去最高の 52 人となった。																					
	◇更なる充実が期待される点 ・ 令和3年度入学者選抜(学力検査に基づく選抜)において、志望者数が令和2年度と比べて大きく減少し、2倍を下回る結果となった。回復に向けた取組が望まれる。																					
評定	評定説明(コメント)																					
2	◎ 女子学生の志願者獲得で大きな成果を上げている。																					
1	◎ コロナ禍で広報に支障があったにもかかわらず、公式ホームページに女子学生向けのコンテンツを充実させ、女子志願者の割合、女子合格者の割合、女子合格者数、さらには女子入学者数を伸ばした。 ◇ 女子学生向けの広報活動が充実したことにより女子中学生の高専への関心も高まり、女子入学者の数が令和3年度で大幅に増えていることを評価したい。合格者に加えて入学者数も増加するように、女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。																					
1	◎ 特別推薦入試制度について、荒川区との調整が行われ、令和4年度入試から2名の募集人員とすることに決定された点が評価できる。品川区および荒川区において特別推薦入試制度に関わる協定が締結されたことを受けて、特別推薦入試の実施方針も決定している。説明会やスクーリングの実施などにより、入試希望者の確保に向けた取組が推進されている。 ◎ 女子学生確保に向けた取組として、高専公式ホームページに女子中学生向けに、高専の魅力を伝える情報を掲載したり、ミニ学校説明会で女子学生による女子中学生向けのブースを開設して、女性学生を前面に出した広報活動を行うなど、女子中学生に対する広報の充実を図っている点が評価できる。志願者全体における女子志願者の割合は、令和2年度の 10.8%から令和3年度は 13.0%へと3ポイントアップしている。																					
2	◎ 長年の各種働きかけが実り、入学者は徐々に増加してきており、女子学生合格者数が過去最高人数となったことは喜ばしい。引続き女子学生割合の増加による学校の活性化を探りたい。																					
2	◎ 地元の中学校との連携による区の推薦枠などユニークな取り組みである。今後、他の区への展開も期待する。																					
2	◎ 女子受験生をターゲットとした「情報発信」を高く評価(受験者も増加) ◇ 学力試験志望倍率が2倍を下回っており、リカバーが急務																					
1	◎ 特別推薦入試制度を拡大し、募集人員を【4人】(令和4年度より)に増大した。 ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響により広報活動が制限される中でも、ホームページに特設の「受験生応援サイト」を開設するなど積極的な広報活動を行った。 ◎ ホームページにおける女子学生向けのコンテンツを充実させるなど、広報活動を強化したことにより、志願者、合格者ともに女子の割合が最大となった。																					

【評定(見込評価)】1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 25】 見込評価																						
<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別推薦入試制度について、品川区及び荒川区と協定を締結し、令和4年度入試までに募集人員を4人に増大する目標を達成している。 ・ 女子学生の確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページのコンテンツの見直し等を継続して行い、女子学生の割合が着実に増加している。 </td> </tr> <tr> <td>◇更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、品川区及び荒川区との特別推薦入試制度が順調に実施されるとともに、より地域に愛される学校として、存在感が高まっていくことが望まれる。 ・ 継続的な取組が結実し、女子入学者数も着実に伸びてきている。今後も入学者数を増加させられるよう、女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元中学校との連携による特別推薦入試制度は、ユニークな取組である。今後、他区にも取組を拡大していくことも期待する。 	評定	評定説明	(2)	◎ 優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別推薦入試制度について、品川区及び荒川区と協定を締結し、令和4年度入試までに募集人員を4人に増大する目標を達成している。 ・ 女子学生の確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページのコンテンツの見直し等を継続して行い、女子学生の割合が着実に増加している。 	◇ 更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、品川区及び荒川区との特別推薦入試制度が順調に実施されるとともに、より地域に愛される学校として、存在感が高まっていくことが望まれる。 ・ 継続的な取組が結実し、女子入学者数も着実に伸びてきている。今後も入学者数を増加させられるよう、女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。 	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 特別推薦入試制度や女子学生志願者確保などの計画が速やかに実行されており評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 女子学生向けの広報活動に注力し、女子志願者の割合、女子合格者の割合、女子合格者数を着実に伸ばしてきた点は評価できる。あわせて、女子入学者の数も伸びてきているので、今後も入学者数を増加できるように女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 特別推薦入試制度について中期計画において募集人員を4人に増大する目標は達成している。品川区に加え、荒川区とも協定を締結し、取組が推進されている点が評価できる。 ◎ 女子学生確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページのコンテンツの見直し等を継続して行っている点が評価できる。女性学生から女子中学生へのメッセージを前面に出すなどの工夫を行う中、志願者全体における女子志願者の割合は年々高まっている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 品川区、荒川区との特別推薦入試制度が始まり、より地域に愛される学校として存在感を示して行きたい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 女子受験生増をめざす取組みの継続強化を期待</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ 広報活動を強化したことにより、女子学生の割合が着実に増加している。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	2	◎ 特別推薦入試制度や女子学生志願者確保などの計画が速やかに実行されており評価できる。	2	◇ 女子学生向けの広報活動に注力し、女子志願者の割合、女子合格者の割合、女子合格者数を着実に伸ばしてきた点は評価できる。あわせて、女子入学者の数も伸びてきているので、今後も入学者数を増加できるように女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。	2	◎ 特別推薦入試制度について中期計画において募集人員を4人に増大する目標は達成している。品川区に加え、荒川区とも協定を締結し、取組が推進されている点が評価できる。 ◎ 女子学生確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページのコンテンツの見直し等を継続して行っている点が評価できる。女性学生から女子中学生へのメッセージを前面に出すなどの工夫を行う中、志願者全体における女子志願者の割合は年々高まっている。	2	◇ 品川区、荒川区との特別推薦入試制度が始まり、より地域に愛される学校として存在感を示して行きたい。	3		2	◇ 女子受験生増をめざす取組みの継続強化を期待	1	◎ 広報活動を強化したことにより、女子学生の割合が着実に増加している。
評定	評定説明																					
(2)	◎ 優れた点・特色ある点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別推薦入試制度について、品川区及び荒川区と協定を締結し、令和4年度入試までに募集人員を4人に増大する目標を達成している。 ・ 女子学生の確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページのコンテンツの見直し等を継続して行い、女子学生の割合が着実に増加している。 																					
	◇ 更なる充実が期待される点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、品川区及び荒川区との特別推薦入試制度が順調に実施されるとともに、より地域に愛される学校として、存在感が高まっていくことが望まれる。 ・ 継続的な取組が結実し、女子入学者数も着実に伸びてきている。今後も入学者数を増加させられるよう、女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。 																					
評定	評定説明（コメント）																					
2	◎ 特別推薦入試制度や女子学生志願者確保などの計画が速やかに実行されており評価できる。																					
2	◇ 女子学生向けの広報活動に注力し、女子志願者の割合、女子合格者の割合、女子合格者数を着実に伸ばしてきた点は評価できる。あわせて、女子入学者の数も伸びてきているので、今後も入学者数を増加できるように女子学生が学修しやすい環境の整備と女子学生確保に向けた取組が一層充実することを期待する。																					
2	◎ 特別推薦入試制度について中期計画において募集人員を4人に増大する目標は達成している。品川区に加え、荒川区とも協定を締結し、取組が推進されている点が評価できる。 ◎ 女子学生確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページのコンテンツの見直し等を継続して行っている点が評価できる。女性学生から女子中学生へのメッセージを前面に出すなどの工夫を行う中、志願者全体における女子志願者の割合は年々高まっている。																					
2	◇ 品川区、荒川区との特別推薦入試制度が始まり、より地域に愛される学校として存在感を示して行きたい。																					
3																						
2	◇ 女子受験生増をめざす取組みの継続強化を期待																					
1	◎ 広報活動を強化したことにより、女子学生の割合が着実に増加している。																					

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置				
大項目 26 研究	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	3-18	外部資金獲得に資する支援等、特別研究期間取得教員増加へ向けた取組	B	B
	3-19	東京 2020 大会プロジェクト型教育研究(令和元年度に達成済)	-	
3-20	都立大・産技大と連携した共同研究の充実に向けた取組	B		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 26】 年度評価																					
評価素案	委員別評定等																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 外部資金獲得のための支援として、応募書類添削や個別面談のほか、都立大の研究推進課と連携した取組等を行った結果、科研費採択率は第三期中期計画期間で最高となった。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明	(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 外部資金獲得のための支援として、応募書類添削や個別面談のほか、都立大の研究推進課と連携した取組等を行った結果、科研費採択率は第三期中期計画期間で最高となった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は1名である。これは校務分掌への配慮や調整が現実的な制約になっているとことで検討の必要性が記されているが、早期の解決が期待される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 科研費獲得のための支援として、応募書類の添削、個別面談が実施されているほか、都立大の研究推進課と連携して、総科研費学内説明会の資料配布、科研費年間相談会の情報提供などが行われている点が評価できる。都立大において、外部資金獲得に向けた支援の充実が図られていることから、引き続き、連携した取組が推進されることが期待される。 ◇ 特別研究期間制度について、長期間にわたり分散して取得することを認めるなど、取得しやすい環境整備を行った点が評価できる。コロナ禍にある中、海外の大学への派遣が延期になる等、制度を利用しづらい環境にあるが、制度を取得する教員が目標の年間4人となるよう、引き続き、取得推進のための取組が推進されることが期待される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 科研費を中心とする外部資金獲得について、学校としての努力の成果が出ており、特に若手教員への良い刺激になっていると思われる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 外部資金獲得への支援策が定着してきている ◇ 都立大との連携強化を期待（産技大とは連携プロジェクトあり）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 外部資金獲得に資する支援を充実させ、科研費の採択率は中期計画期間で最高となった。 ◎ 「大学・高専連携事業基金」事業の「第三期共同研究`専攻科 Co-Labo.」について、令和2(2020)年度から新たに5件の研究を実施した。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		3	◇ 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は1名である。これは校務分掌への配慮や調整が現実的な制約になっているとことで検討の必要性が記されているが、早期の解決が期待される。	3	◎ 科研費獲得のための支援として、応募書類の添削、個別面談が実施されているほか、都立大の研究推進課と連携して、総科研費学内説明会の資料配布、科研費年間相談会の情報提供などが行われている点が評価できる。都立大において、外部資金獲得に向けた支援の充実が図られていることから、引き続き、連携した取組が推進されることが期待される。 ◇ 特別研究期間制度について、長期間にわたり分散して取得することを認めるなど、取得しやすい環境整備を行った点が評価できる。コロナ禍にある中、海外の大学への派遣が延期になる等、制度を利用しづらい環境にあるが、制度を取得する教員が目標の年間4人となるよう、引き続き、取得推進のための取組が推進されることが期待される。	3	◇ 科研費を中心とする外部資金獲得について、学校としての努力の成果が出ており、特に若手教員への良い刺激になっていると思われる。	3		3	◎ 外部資金獲得への支援策が定着してきている ◇ 都立大との連携強化を期待（産技大とは連携プロジェクトあり）	3	◎ 外部資金獲得に資する支援を充実させ、科研費の採択率は中期計画期間で最高となった。 ◎ 「大学・高専連携事業基金」事業の「第三期共同研究`専攻科 Co-Labo.」について、令和2(2020)年度から新たに5件の研究を実施した。
評定	評定説明																				
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 外部資金獲得のための支援として、応募書類添削や個別面談のほか、都立大の研究推進課と連携した取組等を行った結果、科研費採択率は第三期中期計画期間で最高となった。																				
評定	評定説明（コメント）																				
3																					
3	◇ 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は1名である。これは校務分掌への配慮や調整が現実的な制約になっているとことで検討の必要性が記されているが、早期の解決が期待される。																				
3	◎ 科研費獲得のための支援として、応募書類の添削、個別面談が実施されているほか、都立大の研究推進課と連携して、総科研費学内説明会の資料配布、科研費年間相談会の情報提供などが行われている点が評価できる。都立大において、外部資金獲得に向けた支援の充実が図られていることから、引き続き、連携した取組が推進されることが期待される。 ◇ 特別研究期間制度について、長期間にわたり分散して取得することを認めるなど、取得しやすい環境整備を行った点が評価できる。コロナ禍にある中、海外の大学への派遣が延期になる等、制度を利用しづらい環境にあるが、制度を取得する教員が目標の年間4人となるよう、引き続き、取得推進のための取組が推進されることが期待される。																				
3	◇ 科研費を中心とする外部資金獲得について、学校としての努力の成果が出ており、特に若手教員への良い刺激になっていると思われる。																				
3																					
3	◎ 外部資金獲得への支援策が定着してきている ◇ 都立大との連携強化を期待（産技大とは連携プロジェクトあり）																				
3	◎ 外部資金獲得に資する支援を充実させ、科研費の採択率は中期計画期間で最高となった。 ◎ 「大学・高専連携事業基金」事業の「第三期共同研究`専攻科 Co-Labo.」について、令和2(2020)年度から新たに5件の研究を実施した。																				
<p>参考意見（案）</p>																					

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 26】 見込評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得に向けた支援の充実・定着が図られている。 <p>▲改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は毎年1名である。校務分掌への配慮や調整等の現実的な制約について検討の必要性が認識されているが、早期に解決されたい。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得に向けた支援の充実・定着が図られている。 <p>▲改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は毎年1名である。校務分掌への配慮や調整等の現実的な制約について検討の必要性が認識されているが、早期に解決されたい。 	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は毎年1名である。これは校務分掌への配慮や調整が現実的な制約になっているとのことで検討の必要性が記されているが、早期の解決が期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 特別研究期間制度について、取得しづらい状況について分析が行われており、限られた期間に集中して取得することのみならず、長期間にわたり分散して取得することも認めるなどの対応が行われた点が評価できる。教育・研究活動に一定期間従事し、優れた業績をあげている教員が、制度活用を希望しても、日々の業務との調整などから諦めてしまうことがないよう、引き続き、取得の支援や制度の見直し等を行うことにより、目標の年間4人となることが期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>▲ 教員の資質向上のため設けられている「特別研究期間制度」だが、学校運営への懸念、受入れ先との調整などの問題から、十分活用し切れない体制になっていると思われる。制度趣旨の意図を汲んで、粘り強く掘り起こし、調整して実施して行けば、しっかりした教育力・研究力の向上につながると考える。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> ◎ URA を活用した外部資金獲得支援策が定着化 ◇ オリンピック以外の都政との連携テーマの創出・取組みに期待 ◇ 都立大との連携強化 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>▲ 中期計画(3-18)に掲げた、「特別研究期間制度を取得する教員が【年間4人】」の進捗状況が不明。計画4年目終了時点で、現状において取得に対する制限が多いこと踏まえた検討結果を示す。状況に応じて計画の変更を行う必要がある。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		3	◇ 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は毎年1名である。これは校務分掌への配慮や調整が現実的な制約になっているとのことで検討の必要性が記されているが、早期の解決が期待される。	3	◇ 特別研究期間制度について、取得しづらい状況について分析が行われており、限られた期間に集中して取得することのみならず、長期間にわたり分散して取得することも認めるなどの対応が行われた点が評価できる。教育・研究活動に一定期間従事し、優れた業績をあげている教員が、制度活用を希望しても、日々の業務との調整などから諦めてしまうことがないよう、引き続き、取得の支援や制度の見直し等を行うことにより、目標の年間4人となることが期待される。	3	▲ 教員の資質向上のため設けられている「特別研究期間制度」だが、学校運営への懸念、受入れ先との調整などの問題から、十分活用し切れない体制になっていると思われる。制度趣旨の意図を汲んで、粘り強く掘り起こし、調整して実施して行けば、しっかりした教育力・研究力の向上につながると考える。	3		3	◎ URA を活用した外部資金獲得支援策が定着化 ◇ オリンピック以外の都政との連携テーマの創出・取組みに期待 ◇ 都立大との連携強化	3	▲ 中期計画(3-18)に掲げた、「特別研究期間制度を取得する教員が【年間4人】」の進捗状況が不明。計画4年目終了時点で、現状において取得に対する制限が多いこと踏まえた検討結果を示す。状況に応じて計画の変更を行う必要がある。
評定	評定説明																				
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得に向けた支援の充実・定着が図られている。 <p>▲改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は毎年1名である。校務分掌への配慮や調整等の現実的な制約について検討の必要性が認識されているが、早期に解決されたい。 																				
評定	評定説明（コメント）																				
3																					
3	◇ 特別研究期間制度については、年間4名の取得が可能な制度改正が行われたが、実際の取得者は毎年1名である。これは校務分掌への配慮や調整が現実的な制約になっているとのことで検討の必要性が記されているが、早期の解決が期待される。																				
3	◇ 特別研究期間制度について、取得しづらい状況について分析が行われており、限られた期間に集中して取得することのみならず、長期間にわたり分散して取得することも認めるなどの対応が行われた点が評価できる。教育・研究活動に一定期間従事し、優れた業績をあげている教員が、制度活用を希望しても、日々の業務との調整などから諦めてしまうことがないよう、引き続き、取得の支援や制度の見直し等を行うことにより、目標の年間4人となることが期待される。																				
3	▲ 教員の資質向上のため設けられている「特別研究期間制度」だが、学校運営への懸念、受入れ先との調整などの問題から、十分活用し切れない体制になっていると思われる。制度趣旨の意図を汲んで、粘り強く掘り起こし、調整して実施して行けば、しっかりした教育力・研究力の向上につながると考える。																				
3																					
3	◎ URA を活用した外部資金獲得支援策が定着化 ◇ オリンピック以外の都政との連携テーマの創出・取組みに期待 ◇ 都立大との連携強化																				
3	▲ 中期計画(3-18)に掲げた、「特別研究期間制度を取得する教員が【年間4人】」の進捗状況が不明。計画4年目終了時点で、現状において取得に対する制限が多いこと踏まえた検討結果を示す。状況に応じて計画の変更を行う必要がある。																				

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置				
大項目 27 都政との連携	小項目	主な取組	自己評価	
			年度 見込	
	3-18	外部資金獲得に資する支援等、特別研究期間取得教員増加へ向けた取組	B	B
	3-19	東京 2020 大会プロジェクト型教育研究(令和元年度に達成済)	-	
3-20	都立大・産技大と連携した共同研究の充実に向けた取組	B		

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 27】 年度評価																									
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点</td> </tr> <tr> <td>・ コロナ禍であっても感染症防止対策を徹底したうえで、中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT 基礎 lab. for Junior」を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。</td> </tr> <tr> <td>・ サイバーセキュリティ TOKYO for Junior の後援企業等について、企業等との関係構築や新規開拓を行った結果、新規で5社を獲得し、計 41 団体となった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ コロナ禍の中、中学校や中小企業を対象とした出前授業を着実に実施した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見(案)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(3)	◎優れた点・特色ある点	・ コロナ禍であっても感染症防止対策を徹底したうえで、中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT 基礎 lab. for Junior」を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。	・ サイバーセキュリティ TOKYO for Junior の後援企業等について、企業等との関係構築や新規開拓を行った結果、新規で5社を獲得し、計 41 団体となった。		・ コロナ禍の中、中学校や中小企業を対象とした出前授業を着実に実施した。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明(コメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍であっても感染症防止対策を徹底したうえで、中学生を対象としたサイバーセキュリティ TOKYO for Junior や ICT 基礎 lab. for Junior を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」について、コロナ禍にありながら、定員 20 人のところ 48 名の申し込みを得たことに加え、後援企業等についても、新規で5社を獲得し、計 41 団体の後援を得て、取組を充実させている点が評価できる。「ICT 基礎 Lab. For Junior」についても、計 59 名の中学生の参加を得ている。若年層からの情報セキュリティ技術者教育に貢献する取組が推進されている。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 中学生対象の情報セキュリティ勉強会は、コロナ禍においても継続が出来た。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 小中学生に向けた情報セキュリティ教育は重要。後援企業が増えていることも、社会からの期待もある。</td> </tr> <tr> <td>4 ※</td> <td>◎ 都などの職員向け研修を支援 ◎ 地域への教育支援を検討(但しコロナ感染対策のため大半が未実施)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 小中学校向けの情報セキュリティ研修「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」を行うに当たりの後援企業を、新規で 5 社獲得し、計 41 団体とした。 ◎ コロナ禍の困難の中、中学校や中小企業を対象とした出前授業を着実に実施した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「セキュリティ研修」や「出前講義」などがコロナ対策下のため計画通り実施できておらず、「未達」として「4」と評価している</p>	評定	評定説明(コメント)	3		2	◎ コロナ禍であっても感染症防止対策を徹底したうえで、中学生を対象としたサイバーセキュリティ TOKYO for Junior や ICT 基礎 lab. for Junior を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。	2	◎ 中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」について、コロナ禍にありながら、定員 20 人のところ 48 名の申し込みを得たことに加え、後援企業等についても、新規で5社を獲得し、計 41 団体の後援を得て、取組を充実させている点が評価できる。「ICT 基礎 Lab. For Junior」についても、計 59 名の中学生の参加を得ている。若年層からの情報セキュリティ技術者教育に貢献する取組が推進されている。	3	◎ 中学生対象の情報セキュリティ勉強会は、コロナ禍においても継続が出来た。	3	◎ 小中学生に向けた情報セキュリティ教育は重要。後援企業が増えていることも、社会からの期待もある。	4 ※	◎ 都などの職員向け研修を支援 ◎ 地域への教育支援を検討(但しコロナ感染対策のため大半が未実施)	3	◎ 小中学校向けの情報セキュリティ研修「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」を行うに当たりの後援企業を、新規で 5 社獲得し、計 41 団体とした。 ◎ コロナ禍の困難の中、中学校や中小企業を対象とした出前授業を着実に実施した。
評定	評定説明																								
(3)	◎優れた点・特色ある点																								
	・ コロナ禍であっても感染症防止対策を徹底したうえで、中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT 基礎 lab. for Junior」を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。																								
	・ サイバーセキュリティ TOKYO for Junior の後援企業等について、企業等との関係構築や新規開拓を行った結果、新規で5社を獲得し、計 41 団体となった。																								
	・ コロナ禍の中、中学校や中小企業を対象とした出前授業を着実に実施した。																								
評定	評定説明(コメント)																								
3																									
2	◎ コロナ禍であっても感染症防止対策を徹底したうえで、中学生を対象としたサイバーセキュリティ TOKYO for Junior や ICT 基礎 lab. for Junior を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。																								
2	◎ 中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」について、コロナ禍にありながら、定員 20 人のところ 48 名の申し込みを得たことに加え、後援企業等についても、新規で5社を獲得し、計 41 団体の後援を得て、取組を充実させている点が評価できる。「ICT 基礎 Lab. For Junior」についても、計 59 名の中学生の参加を得ている。若年層からの情報セキュリティ技術者教育に貢献する取組が推進されている。																								
3	◎ 中学生対象の情報セキュリティ勉強会は、コロナ禍においても継続が出来た。																								
3	◎ 小中学生に向けた情報セキュリティ教育は重要。後援企業が増えていることも、社会からの期待もある。																								
4 ※	◎ 都などの職員向け研修を支援 ◎ 地域への教育支援を検討(但しコロナ感染対策のため大半が未実施)																								
3	◎ 小中学校向けの情報セキュリティ研修「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」を行うに当たりの後援企業を、新規で 5 社獲得し、計 41 団体とした。 ◎ コロナ禍の困難の中、中学校や中小企業を対象とした出前授業を着実に実施した。																								

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 27】 見込評価																					
<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">(3)</td> <td> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生向けの情報セキュリティ教育について、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT 基礎 Lab. For Junior」の継続的な実施等、取組の充実を図っている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校への出前授業や理科・技術教育サポーター制度は、科学やものづくりへの関心を高める機運醸成に深く貢献する取組であるので、今後の拡充を期待する。 都職員だけでなく、法人職員向けの情報セキュリティ研修が今後実現されることを期待する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生向けの情報セキュリティ教育について、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT 基礎 Lab. For Junior」の継続的な実施等、取組の充実を図っている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校への出前授業や理科・技術教育サポーター制度は、科学やものづくりへの関心を高める機運醸成に深く貢献する取組であるので、今後の拡充を期待する。 都職員だけでなく、法人職員向けの情報セキュリティ研修が今後実現されることを期待する。 	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 都職員だけでなく、法人職員向けの情報セキュリティ研修が今後実現されることを期待する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> <p>◎ 中学生向けの情報セキュリティ教育について、令和3年度、令和4年度も、引き続き、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」「ICT 基礎 Lab. For Junior」の開催を予定していることに加え、令和3年度は、セキュリティミニキャンプ in 東京の開催候補地としてエントリーする等、取組の充実を図っている点が評価できる。</p> <p>◎ 都連携事業の強化として「学生のスキルを活用した体験型サイバーセキュリティ研修の構築」について施策提案を行っており、学生参加による研修企画を行っている点が評価できる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ 中学校への出前授業に限らず、理科・技術教育サポーター制度の拡充は、科学やものづくりへの関心を高める機運の醸成への貢献が大きい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td> <p>◎ 都などの職員研修、小中学校への出前講義は徐々に定着</p> <p>◇ コロナ以外の課題への取組みを検討・実行いただきたい</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		3	◇ 都職員だけでなく、法人職員向けの情報セキュリティ研修が今後実現されることを期待する。	2	<p>◎ 中学生向けの情報セキュリティ教育について、令和3年度、令和4年度も、引き続き、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」「ICT 基礎 Lab. For Junior」の開催を予定していることに加え、令和3年度は、セキュリティミニキャンプ in 東京の開催候補地としてエントリーする等、取組の充実を図っている点が評価できる。</p> <p>◎ 都連携事業の強化として「学生のスキルを活用した体験型サイバーセキュリティ研修の構築」について施策提案を行っており、学生参加による研修企画を行っている点が評価できる。</p>	3	◇ 中学校への出前授業に限らず、理科・技術教育サポーター制度の拡充は、科学やものづくりへの関心を高める機運の醸成への貢献が大きい。	3		3	<p>◎ 都などの職員研修、小中学校への出前講義は徐々に定着</p> <p>◇ コロナ以外の課題への取組みを検討・実行いただきたい</p>	3	
評定	評定説明																				
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生向けの情報セキュリティ教育について、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT 基礎 Lab. For Junior」の継続的な実施等、取組の充実を図っている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校への出前授業や理科・技術教育サポーター制度は、科学やものづくりへの関心を高める機運醸成に深く貢献する取組であるので、今後の拡充を期待する。 都職員だけでなく、法人職員向けの情報セキュリティ研修が今後実現されることを期待する。 																				
評定	評定説明（コメント）																				
3																					
3	◇ 都職員だけでなく、法人職員向けの情報セキュリティ研修が今後実現されることを期待する。																				
2	<p>◎ 中学生向けの情報セキュリティ教育について、令和3年度、令和4年度も、引き続き、「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」「ICT 基礎 Lab. For Junior」の開催を予定していることに加え、令和3年度は、セキュリティミニキャンプ in 東京の開催候補地としてエントリーする等、取組の充実を図っている点が評価できる。</p> <p>◎ 都連携事業の強化として「学生のスキルを活用した体験型サイバーセキュリティ研修の構築」について施策提案を行っており、学生参加による研修企画を行っている点が評価できる。</p>																				
3	◇ 中学校への出前授業に限らず、理科・技術教育サポーター制度の拡充は、科学やものづくりへの関心を高める機運の醸成への貢献が大きい。																				
3																					
3	<p>◎ 都などの職員研修、小中学校への出前講義は徐々に定着</p> <p>◇ コロナ以外の課題への取組みを検討・実行いただきたい</p>																				
3																					

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校^{（注）}の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するため^{（注）}のべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 （2）社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目 28
社会貢献等

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
3-23	共同研究等の機会の拡充に向けた取組	B	A
3-24	地域のものづくり技術者のスキルアップに資する取組、中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座の充実、中小企業におけるサイバーセキュリティ意識向上に資する取組	A	

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 28】 年度評価

評価素案	
評定	評定説明
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・「若手技術者支援のための講座」「中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座」のいずれも新型コロナウイルス感染症防止対策を行った上で開催し、好評を博した。

参考意見（案）

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
3	
3	
2	◎ 若手技術者支援のための講座、中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座のいずれも、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に行った上で開催し、受講者の高い満足を得ている点が評価できる。若手技術者支援のための講座は、高い満足度に加え、現場での活用度も5割以上となり、現場ニーズに対応した実践的な内容である点も評価できる。
2	◎ 「中小企業で働く若手技術者支援のための講座」「中小企業対象のオープンカレッジ」は、いずれも好評を博している。地域貢献と共に、教員の様々な経験が、教育・研究の深化につながることを期待する。
2	
3	
3	

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 28】 見込評価																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価素案</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td> ◇更なる充実が期待される点 ・ オープンカレッジ講座の技術者育成講座数を倍増させる目標は令和2年度に達成されている。今後も医工連携教育・研究プロジェクトからの講座の受入れ等も検討されており、更なる充実を期待する。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p>	評価素案		評定	評定説明	(3)	◇更なる充実が期待される点 ・ オープンカレッジ講座の技術者育成講座数を倍増させる目標は令和2年度に達成されている。今後も医工連携教育・研究プロジェクトからの講座の受入れ等も検討されており、更なる充実を期待する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">委員別評定等</th> </tr> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ オープンカレッジ講座の技術者育成講座数を倍増させる計画は令和2年度に達成され、今後も医工連携教育・研究プロジェクトからの講座の受入れなども検討されており、今後の拡充が期待される。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 荒川キャンパスで令和3年度以降に開始する医工連携教育・研究プロジェクトのリカレント教育をオープンカレッジ講座として受け入れていくことを計画するなど、地域の技術者のためのオープンカレッジの充実が図られている点が評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ コロナ以外の課題への取組みを検討・実行いただきたい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>▲ 中期計画(3-24)に掲げた、「中小企業ニーズに対応するオープンカレッジ講座の技術者育成講座数を【倍増】」の進捗状況が不明。</td> </tr> </tbody> </table>	委員別評定等		評定	評定説明（コメント）	3		3	◇ オープンカレッジ講座の技術者育成講座数を倍増させる計画は令和2年度に達成され、今後も医工連携教育・研究プロジェクトからの講座の受入れなども検討されており、今後の拡充が期待される。	3	◎ 荒川キャンパスで令和3年度以降に開始する医工連携教育・研究プロジェクトのリカレント教育をオープンカレッジ講座として受け入れていくことを計画するなど、地域の技術者のためのオープンカレッジの充実が図られている点が評価できる。	3		3		3	◇ コロナ以外の課題への取組みを検討・実行いただきたい	3	▲ 中期計画(3-24)に掲げた、「中小企業ニーズに対応するオープンカレッジ講座の技術者育成講座数を【倍増】」の進捗状況が不明。
評価素案																									
評定	評定説明																								
(3)	◇更なる充実が期待される点 ・ オープンカレッジ講座の技術者育成講座数を倍増させる目標は令和2年度に達成されている。今後も医工連携教育・研究プロジェクトからの講座の受入れ等も検討されており、更なる充実を期待する。																								
委員別評定等																									
評定	評定説明（コメント）																								
3																									
3	◇ オープンカレッジ講座の技術者育成講座数を倍増させる計画は令和2年度に達成され、今後も医工連携教育・研究プロジェクトからの講座の受入れなども検討されており、今後の拡充が期待される。																								
3	◎ 荒川キャンパスで令和3年度以降に開始する医工連携教育・研究プロジェクトのリカレント教育をオープンカレッジ講座として受け入れていくことを計画するなど、地域の技術者のためのオープンカレッジの充実が図られている点が評価できる。																								
3																									
3																									
3	◇ コロナ以外の課題への取組みを検討・実行いただきたい																								
3	▲ 中期計画(3-24)に掲げた、「中小企業ニーズに対応するオープンカレッジ講座の技術者育成講座数を【倍増】」の進捗状況が不明。																								

Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目 29 グローバル化	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	3-25	専攻科の一部専門科目の英語教育導入に向けた取組	B	A
	3-26	JABEE 受審へ向けた取組	B	
3-27	国際的に活躍できる技術者の育成	A		

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 29】 年度評価

<p>評価素案</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td> ◎優れた点・特色ある点 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外体験プログラムが中止となったが、オンラインを活用した代替プログラムを実施した。また、次年度以降のコロナ禍を踏まえた海外研修プログラムの在り方について、運用の観点等に配慮したうえで柔軟に対処し整備することができた。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	評定	評定説明	(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外体験プログラムが中止となったが、オンラインを活用した代替プログラムを実施した。また、次年度以降のコロナ禍を踏まえた海外研修プログラムの在り方について、運用の観点等に配慮したうえで柔軟に対処し整備することができた。	<p>委員別評定等</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ コロナ禍のために実行できなかったが海外体験プログラム GCP 参加申込者が増加したことはこれまでの計画遂行の成果の表れと評価できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、海外体験プログラムの中止を余儀なくされたが、オンラインを活用した代替プログラムについては運用の観点等に配慮したうえで柔軟に対処し整備している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◇ GCP、IEP の目玉の 2 つの海外体験プログラムについて、中止、またはオンラインプログラムへの変更を余儀なくされたのは残念であった。学生の準備や気持ちの問題もあるので、無理は出来ないが、コロナ収束と共に迅速に復活できる体制の準備を期待する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ 2020 年度の GCP 海外派遣は断念したものの、2021 年度は増員して派遣予定</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◎ コロナ禍での状況を配慮し、国際交流に対する取組の代替プログラムを模索し、一部を国内での英語研修及び現地とのオンライン交流等として実施した。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3	◎ コロナ禍のために実行できなかったが海外体験プログラム GCP 参加申込者が増加したことはこれまでの計画遂行の成果の表れと評価できる。	3	◎ 新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、海外体験プログラムの中止を余儀なくされたが、オンラインを活用した代替プログラムについては運用の観点等に配慮したうえで柔軟に対処し整備している。	3		3	◇ GCP、IEP の目玉の 2 つの海外体験プログラムについて、中止、またはオンラインプログラムへの変更を余儀なくされたのは残念であった。学生の準備や気持ちの問題もあるので、無理は出来ないが、コロナ収束と共に迅速に復活できる体制の準備を期待する。	3		3	◎ 2020 年度の GCP 海外派遣は断念したものの、2021 年度は増員して派遣予定	3	◎ コロナ禍での状況を配慮し、国際交流に対する取組の代替プログラムを模索し、一部を国内での英語研修及び現地とのオンライン交流等として実施した。
評定	評定説明																				
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外体験プログラムが中止となったが、オンラインを活用した代替プログラムを実施した。また、次年度以降のコロナ禍を踏まえた海外研修プログラムの在り方について、運用の観点等に配慮したうえで柔軟に対処し整備することができた。																				
評定	評定説明（コメント）																				
3	◎ コロナ禍のために実行できなかったが海外体験プログラム GCP 参加申込者が増加したことはこれまでの計画遂行の成果の表れと評価できる。																				
3	◎ 新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、海外体験プログラムの中止を余儀なくされたが、オンラインを活用した代替プログラムについては運用の観点等に配慮したうえで柔軟に対処し整備している。																				
3																					
3	◇ GCP、IEP の目玉の 2 つの海外体験プログラムについて、中止、またはオンラインプログラムへの変更を余儀なくされたのは残念であった。学生の準備や気持ちの問題もあるので、無理は出来ないが、コロナ収束と共に迅速に復活できる体制の準備を期待する。																				
3																					
3	◎ 2020 年度の GCP 海外派遣は断念したものの、2021 年度は増員して派遣予定																				
3	◎ コロナ禍での状況を配慮し、国際交流に対する取組の代替プログラムを模索し、一部を国内での英語研修及び現地とのオンライン交流等として実施した。																				

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 29】 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(2)	◎優れた点・特色ある点 ・ GCP及びIEPの2つの海外体験プログラムは、コロナ禍による中断やオンラインプログラムへの代替があったものの、初年度より参加者 70 名を実現し、渡航前後のプログラムや現地日系企業での研修機会等も含めた充実したプログラムが提供されている。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外体験プログラムの中止を余儀なくされているが、学生、保護者等にとって安全安心なプログラムが実現できること、またオンラインを活用した代替プログラムについてもその充実と参加者にとっての利便性を向上させる工夫を図ることを期待する。 ・ 専攻科の一部専門科目での英語教育導入に向けた取組が着実に進められており、今後、英語力の向上も図りつつ、広く世界で活躍できる技術者育成を推進していくことを期待する。	2	◎ 海外体験プログラムの GCP、IEP の計画が順調に遂行されている点は評価できる。
		2	◎ 初年度より海外体験プログラムの参加者 70 名を実現し、渡航前後のプログラムや現地日系企業での研修機会なども含めた充実したプログラムが提供されてきた実績はおおいに評価される。ただし、コロナ禍により海外渡航が制限されるなか、やむをえない側面もあることから、70 名参加者確保に拘泥しないことが望ましい。 ◇ 新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、海外体験プログラムの中止を余儀なくされているが、学生、保護者等にとって安全安心なプログラムが実現できること、またオンラインを活用した代替プログラムについてもその充実と参加者にとっての利便性や工夫を図ることを期待する。
		2	◎ 専攻科の一部専門科目での英語教育導入に向けて、令和3年度から試行授業を実施する環境整備を行うなど、英語力の向上も図りつつ、広く世界で活躍できる技術者育成を推進していく点が評価できる。
		2	◇ IEP については、研修内容の更なる充実を図った上で募集人員の増加を検討しているとのことであり、GCP 推進と共に期待している。
		3	
		2	◎ (コロナ感染対策下という状況を除けば)GCP は定着している
		3	
参考意見（案） <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>			

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置				
大項目 30 組織運営の改善	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
			4-01	プレゼンス及び認知度の更なる向上とトップマネジメントの強化、各学校や法人の適正かつ効率的な運営、法人のコンプライアンスの確保・向上のための体制整備
4-01-2	連携組織の拡充によるマッチング機能の強化	B		
4-02	計画策定、予算編成作業を通じた各学校の支援、(2大学1高専)マネジメント推進等	B		
4-03	教員人事制度の適切な運用・改善	B		
4-04	大学の将来を担う若手研究者育成、有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組	B		
4-05	学長の裁量による採用選考手続き、教員人事計画の策定	B		
4-06	職員の属性や需要に合致した研修、継続的な OJT の実施・充実、職員のキャリア形成意識の醸成	A		
4-07	専門職人事制度の検証	B		
4-08	職員の語学力の向上に向けた取組	B		

【評定（年度評価）】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 30】 年度評価																						
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 法人及び大学の名称変更を行い、「都立」の高等教育機関であることを積極的に発信し、認知度の更なる向上に努めた。 ・ コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の徹底・醸成を図った。 ・ コロナ禍においても、オンラインの活用等により、職員研修や職員の語学力向上に向けた取組を着実に実施した。</td> </tr> <tr> <td>◇更なる充実が期待される点 ・ 行政ニーズと研究シーズを円滑にマッチングすることを目的として作成された法人版連携事業ガイド・研究者ガイドについて、今後、これらが利用・活用され、2大学1高専と行政の連携と活性化が進むことを期待する。 ・ クロスアポイントメント制度をはじめとする各種教員人事制度について、更なる運用の強化を期待する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見（案）</p>	評定	評定説明	(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 法人及び大学の名称変更を行い、「都立」の高等教育機関であることを積極的に発信し、認知度の更なる向上に努めた。 ・ コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の徹底・醸成を図った。 ・ コロナ禍においても、オンラインの活用等により、職員研修や職員の語学力向上に向けた取組を着実に実施した。	◇更なる充実が期待される点 ・ 行政ニーズと研究シーズを円滑にマッチングすることを目的として作成された法人版連携事業ガイド・研究者ガイドについて、今後、これらが利用・活用され、2大学1高専と行政の連携と活性化が進むことを期待する。 ・ クロスアポイントメント制度をはじめとする各種教員人事制度について、更なる運用の強化を期待する。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ コンプライアンスへの意識の徹底を図るために組織的に努力していることがうかがえる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 名称変更を行い、「都立」の高等教育機関であることを積極的に発信し、認知度の更なる向上に努めた点が評価できる。 ◎ コロナ禍の職員研修の実施について、優先度の高い新規採用者及び昇任者向け研修は対面で行い、その他の研修はオンライン化や会場の分散化を図って実施する等、職務上、必要となる知識や技能を習得する機会を滞りなく提供する工夫を行った点が評価できる。オンライン研修は、グループワークの実施やチャット機能の活用等、能動的に参加できるプログラムを企画している。 ◇ 各種研修のオンライン化により、コロナ禍においても語学学習に取り組むことのできる環境整備を行った点が評価できる。TOEIC スコア 600 点以上取得職員の割合は 22.7%まで高まっているが、中期目標の 25%以上となるよう、引き続き、職員に対する語学学習の意欲向上への働きかけを行うことが期待される。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 都立大学における教学 IR システムが順調に機能し、全学的な大学マネジメントに貢献していることは喜ばしい。 ◇ 専門職人材を活用することは、今後の法人、大学の成長、発展のためには不可欠であり、人事、給与制度の改正、新規採用があったことは望ましい。 ◇ 行政ニーズと研究シーズを円滑にマッチングすることを目的とした法人版連携事業ガイド・研究者ガイドが作成されたことを評価する。これがより利用活用され、大学と行政の連携と活性化が進むことを期待する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ TOEIC 取得率が確実に向上している。目標まであと一歩であるが、努力のあとがうかがわれる。英文 Eメールの研修も有意義。さらなる取り組みに期待。 ◎ クロスアポイントメント制度を活用した大学との連携は重要。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ コンプライアンスへの取組み（教材・カード配布含む）を評価 ◎ URA 職員の人事給与体系見直しを評価 ◇ 運営体制強化に向けた都立大・産技大・高専の業務標準化・簡素化</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 法人のコンプライアンスの確保・向上のため、コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の醸成を図ることができた。 ◎ 優秀な URA の確保・定着のため、成果主義に基づく変動型の年俸制度、評価に基づく無期雇用転換制度を整備することで、専門性を必要とするポストの人材を計 7 名確保、配置した。 ◇ クロスアポイントメント制度による初他大学出向が 1 名あったが、さらなる運用の強化が期待される。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		3	◎ コンプライアンスへの意識の徹底を図るために組織的に努力していることがうかがえる。	3	◎ 名称変更を行い、「都立」の高等教育機関であることを積極的に発信し、認知度の更なる向上に努めた点が評価できる。 ◎ コロナ禍の職員研修の実施について、優先度の高い新規採用者及び昇任者向け研修は対面で行い、その他の研修はオンライン化や会場の分散化を図って実施する等、職務上、必要となる知識や技能を習得する機会を滞りなく提供する工夫を行った点が評価できる。オンライン研修は、グループワークの実施やチャット機能の活用等、能動的に参加できるプログラムを企画している。 ◇ 各種研修のオンライン化により、コロナ禍においても語学学習に取り組むことのできる環境整備を行った点が評価できる。TOEIC スコア 600 点以上取得職員の割合は 22.7%まで高まっているが、中期目標の 25%以上となるよう、引き続き、職員に対する語学学習の意欲向上への働きかけを行うことが期待される。	3	◎ 都立大学における教学 IR システムが順調に機能し、全学的な大学マネジメントに貢献していることは喜ばしい。 ◇ 専門職人材を活用することは、今後の法人、大学の成長、発展のためには不可欠であり、人事、給与制度の改正、新規採用があったことは望ましい。 ◇ 行政ニーズと研究シーズを円滑にマッチングすることを目的とした法人版連携事業ガイド・研究者ガイドが作成されたことを評価する。これがより利用活用され、大学と行政の連携と活性化が進むことを期待する。	3	◎ TOEIC 取得率が確実に向上している。目標まであと一歩であるが、努力のあとがうかがわれる。英文 Eメールの研修も有意義。さらなる取り組みに期待。 ◎ クロスアポイントメント制度を活用した大学との連携は重要。	3	◎ コンプライアンスへの取組み（教材・カード配布含む）を評価 ◎ URA 職員の人事給与体系見直しを評価 ◇ 運営体制強化に向けた都立大・産技大・高専の業務標準化・簡素化	2	◎ 法人のコンプライアンスの確保・向上のため、コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の醸成を図ることができた。 ◎ 優秀な URA の確保・定着のため、成果主義に基づく変動型の年俸制度、評価に基づく無期雇用転換制度を整備することで、専門性を必要とするポストの人材を計 7 名確保、配置した。 ◇ クロスアポイントメント制度による初他大学出向が 1 名あったが、さらなる運用の強化が期待される。
評定	評定説明																					
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 法人及び大学の名称変更を行い、「都立」の高等教育機関であることを積極的に発信し、認知度の更なる向上に努めた。 ・ コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の徹底・醸成を図った。 ・ コロナ禍においても、オンラインの活用等により、職員研修や職員の語学力向上に向けた取組を着実に実施した。																					
	◇更なる充実が期待される点 ・ 行政ニーズと研究シーズを円滑にマッチングすることを目的として作成された法人版連携事業ガイド・研究者ガイドについて、今後、これらが利用・活用され、2大学1高専と行政の連携と活性化が進むことを期待する。 ・ クロスアポイントメント制度をはじめとする各種教員人事制度について、更なる運用の強化を期待する。																					
評定	評定説明（コメント）																					
3																						
3	◎ コンプライアンスへの意識の徹底を図るために組織的に努力していることがうかがえる。																					
3	◎ 名称変更を行い、「都立」の高等教育機関であることを積極的に発信し、認知度の更なる向上に努めた点が評価できる。 ◎ コロナ禍の職員研修の実施について、優先度の高い新規採用者及び昇任者向け研修は対面で行い、その他の研修はオンライン化や会場の分散化を図って実施する等、職務上、必要となる知識や技能を習得する機会を滞りなく提供する工夫を行った点が評価できる。オンライン研修は、グループワークの実施やチャット機能の活用等、能動的に参加できるプログラムを企画している。 ◇ 各種研修のオンライン化により、コロナ禍においても語学学習に取り組むことのできる環境整備を行った点が評価できる。TOEIC スコア 600 点以上取得職員の割合は 22.7%まで高まっているが、中期目標の 25%以上となるよう、引き続き、職員に対する語学学習の意欲向上への働きかけを行うことが期待される。																					
3	◎ 都立大学における教学 IR システムが順調に機能し、全学的な大学マネジメントに貢献していることは喜ばしい。 ◇ 専門職人材を活用することは、今後の法人、大学の成長、発展のためには不可欠であり、人事、給与制度の改正、新規採用があったことは望ましい。 ◇ 行政ニーズと研究シーズを円滑にマッチングすることを目的とした法人版連携事業ガイド・研究者ガイドが作成されたことを評価する。これがより利用活用され、大学と行政の連携と活性化が進むことを期待する。																					
3	◎ TOEIC 取得率が確実に向上している。目標まであと一歩であるが、努力のあとがうかがわれる。英文 Eメールの研修も有意義。さらなる取り組みに期待。 ◎ クロスアポイントメント制度を活用した大学との連携は重要。																					
3	◎ コンプライアンスへの取組み（教材・カード配布含む）を評価 ◎ URA 職員の人事給与体系見直しを評価 ◇ 運営体制強化に向けた都立大・産技大・高専の業務標準化・簡素化																					
2	◎ 法人のコンプライアンスの確保・向上のため、コンプライアンスカードの全教職員への配布やコンプライアンス教育を通して、教職員としての倫理観、コンプライアンス意識の一層の醸成を図ることができた。 ◎ 優秀な URA の確保・定着のため、成果主義に基づく変動型の年俸制度、評価に基づく無期雇用転換制度を整備することで、専門性を必要とするポストの人材を計 7 名確保、配置した。 ◇ クロスアポイントメント制度による初他大学出向が 1 名あったが、さらなる運用の強化が期待される。																					

令和 2 年度及び第三期中期目標期間（見込）業務実績評価 項目別評価（素案）

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 30] 見込評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 都立大において、平成 29 年度には教学 IR 委員会を設置し、平成 30 年度には、「TMU Vision 2030」を策定する等、全学的な教学マネジメント推進の取組が着実に進んでいる。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 都立大の教学 IR システムについて、今後、法人部門が主導し、産技大や高専においても、当該システムの部分的導入や、運用によって得られた知見を活用する等の取組が展開されることを期待する。 クロスアポイントメント制度をはじめとする各種教員人事制度について、更なる運用の強化を期待する。 TOEIC スコア 600 点以上を取得している職員の割合は年々増大しており、目標の 25%に到達可能な進捗状況にある。引き続き、職員の語学力向上に向けた取組の推進を期待する。

参考意見（案）

<ul style="list-style-type: none"> URA の人事・給与について成果主義を強化した制度改正が行われたが、URA の確保・定着といった目的に照らして制度の成果の検証を行うことも期待される。 法人で実施されている「自己監査」について、「自己監査」という用語の使用に違和感を覚える。通常は、「自己点検」や「内部監査」と称している取組ではないかと思われるので、そのような用語を用いた方が適切である。

委員別評定等

評定	評定説明（コメント）
3	
3	◇ URA の人事・給与について成果主義を強化した制度改正が行われたが、URA の確保・定着といった目的に照らして制度の成果の検証を行うことも期待される。
3	◎ 都立大において、平成 29 年度に教学 IR 委員会を設置して、全学的な教学マネジメントを推進し、平成 30 年度には「TMU Vision 2030」が策定された。引き続き、全学的な教学マネジメントの推進が期待される。
3	◇ 大学で導入に成功した教学 IR システムだが、法人主導で、産技大や高専にも、何らかの形で、この教学 IR による知見の活用、部分的導入が出来ないものかと考える。 ▲ 法人運営において、「法人内にある予算を執行する単位(22 箇所)すべてを巡り、自己監査を実施した」とのことである。その行為自体に問題はなく、一定の成果を上げているものと考え、評価できる。ただし、「自己監査」という用語の使用には違和感を覚える。通常は、「自己点検」とか「内部監査」と称している取組みではないかと思われるので、そのような用語を用いた方が適切である。「監査」は、監査対象からの一定の独立性を保持した者によって行われるべきである。監事や公認会計士が、監査対象から独立しているのは当然だが、内部監査も、経営者直下の命令系統により行われることから、一定の独立性を保持している。自らを監査することは、論理矛盾で、あり、「自己点検」に切り替えてはどうか。それによって、行為の実質的効果や、行為への評価が、減じられるということはない。
3	
3	◎ 事故事件後のコンプライアンス強化の取組みが定着 ◇ 内部監査(自己監査)の取組み強化(体系化・効率化) ◇ 内部監査(自己監査)におけるコンプライアンス意識浸透度の点検強化 ◇ 卓越研究員、クロスアポイントメント制度などの取組みと実績拡大 ◇ 学長裁量枠の活用、女性教員比率向上への取組み等の継続
3	◇ クロスアポイントメント制度による初の他大学出向が1名あったが、さらなる運用の強化が期待される。 ◇ TOEIC スコア 600 点以上を取得している職員の割合が年々増大し、中期計画(4-08)の設定値【25%】に到達可能。

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置

大項目 31 教育研究組織等の見直し	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	4-09	学長の裁量による採用選考手続き、指名人事による採用手続き(都立大)	B	A
	4-10	教育プログラムの開発・設計・実施、教育環境の整備	S	
	4-11	情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、社会人向け情報セキュリティ教育の実施、航空技術者育成プログラムの実施、新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成	S	
4-12	大都市東京の課題解決に向けた提言・人材育成、2大学1高専の連携、グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)の実施	B		

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 31】 年度評価

評価素案 (3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 令和元年度に実施した法人及び2大学1高専の事務職員によるワーキンググループでまとめた「新たな連携の在り方(案)」をもとに、新たに各校教員との意見交換会を実施した。また、意見交換を踏まえ、「新たな連携の在り方」を取りまとめ、各学長及び校長へ報告を行った。 ・ 産技大では、研究科を再編した初年度として、産業技術専攻における学位プログラムが着実に実施された。また、高専では、品川キャンパスにおける本科教育の再編等に向けたカリキュラム等の検討・策定、荒川キャンパスにおけるコース横断型の医工連携教育プログラムのカリキュラムの決定等が行われる等、教育研究組織の見直し等の取組が着実に推進された。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 2大学1高専の新たな連携の在り方に関する取組は、引き続き検討が進められており、今後成果が生まれていくことを期待する。	委員別評定等
	評定 3 3 1 2 2 3 3	評定説明(コメント) ◎ 産技大では、令和2年度から新たに設置された産業技術専攻において学位プログラムが着実に実施された。高専では、品川キャンパスにおける令和4年度に予定している本科教育の再編等に向けたカリキュラム等の検討・策定、荒川キャンパスにおけるコース横断型の医工連携教育プログラムの令和3年度開始に向けたカリキュラムの決定等が行われた。これら、教育研究組織の見直し等について、確実に取り組みが推進された点が評価できる。 ◎ 2大学1高専の新たな連携に向けた取組として、2大学1高専の事務職員によるワーキンググループが令和元年に取りまとめた「新たな連携の在り方(案)」をもとに、各校教員との意見交換を踏まえて、「新たな連携の在り方」を大学・高専連携会議において決定し、各学長及び校長へ報告を行った点が評価できる。法人が積極的に2大学1高専の連携を主導し、様々な効果的な取組が実現することが期待される。 ◇ 2大学1高専の新たな連携の在り方については、引き続き検討されており、少しずつ成果が出てくることを期待する。 ◎ 産技大・高専の組織改編、新カリキュラム導入を支援 ◎ 令和元年度に実施した法人及び2大学1高専の事務職員によるワーキンググループでまとめた「新たな連携の在り方(案)」をもとに、令和2(2020)年度は新たに各校教員との意見交換会を実施した。
参考意見(案)		

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 31] 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 高専の産業界や社会のニーズに応える職業教育プログラムや本科教育コース再編等の教育研究プログラムの積極的な改革について、法人部門のバックアップもあり、順調に進行している。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人及び2大学1高専において現場教職員の情報交換・意見交換の機会が設けられたことにより、実状に即した取組が進むことが予想される。今後、魅力的な事業へと具体的に結びつくこと等、より効果的で実効性のある連携が促進されることを期待する。

参考意見（案）	
<ul style="list-style-type: none"> 「都市課題戦略機構」の存在、活動は貴重だが、東京都庁に対する政策提言や、協働して活動するところまでは至っていない。ブレーン集団的な機能を持つところまで発展させて、行政との関係性が強まると、更に新たな研究も進み、存在感が増すものと思われる。 	

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
3	
3	◇ 法人及び2大学1高専において現場教職員の情報交換・意見交換の機会が設けられたことにより、実状に即した取組が進むことが予想される。今後、より効果的で実効性のある連携が促進されることを期待する。
2	◎ 2大学1高専の連携について、職員間のワーキンググループ、教員との意見交換を経て、連携体制が強化された点が評価できる。引き続き、法人、2大学1高専の教職員の間で情報共有や意見交換が活発に行われることで、魅力的な事業へと具体的に結びついていくことが期待される。
1	◎ 教育研究プログラムの見直しは、法人もバックアップしないと実現が困難だと思われるが、高専において、情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラム、社会人向け情報セキュリティ教育が実践され、更には、医工連携教育・研究プロジェクトや、AI スマート工学コース、情報システム工学コースの新設を図るなど、積極的な改革が行われている。 ◇ 「都市課題戦略機構」の存在、活動は貴重だが、東京都庁に対する政策提言や、協働して活動するところまでは至っていない。ブレーン集団的な機能を持つところまで発展させて、行政との関係性が強まると、更に新たな研究も進み存在感が増すものと思われる。
3	
3	
3	

IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置

大項目 32 事務の効率化・合理化等	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	4-13	機能的・機動的な組織体制の確立、多様な働き方の実現や法人内共通業務の効率化へ向けた検討	S	A
	4-4	新たなシステムの適切な運用、事務処理フローの見直し等による業務効率化、新たなシステムの適切な運用、事務処理フローの見直し等による業務効率化	A	

【評定(年度評価)】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 32] 年度評価

評価素案	委員別評定等																					
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">(2)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・ 会計、旅費、文書管理、施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。 ・ 法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備されるとともに、職員の柔軟な働き方が可能となった。</td> </tr> <tr> <td>◇更なる充実が期待される点 ・ 今後、法人における働き方改革が推進され、多様な働き方の実現や、法人内共通業務の効率化がより一層行われることを期待する。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明	(2)	◎ 優れた点・特色ある点 ・ 会計、旅費、文書管理、施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。 ・ 法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備されるとともに、職員の柔軟な働き方が可能となった。	◇ 更なる充実が期待される点 ・ 今後、法人における働き方改革が推進され、多様な働き方の実現や、法人内共通業務の効率化がより一層行われることを期待する。	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 会計、旅費、文書管理、施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。 ◇ 法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備され、コロナ禍後も多様で柔軟な働き方が可能となったことを評価するとともに、その実現を期待したい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◎ コロナ禍を契機に職員が自宅で勤務可能な体制の整備が進み、コロナ禍後の多様な働き方の実現へとつなげるための取組へと発展している点が評価できる。働き方改革推進計画(案)を策定し、改革推進の枠組みを示し、実施体制も整備された。また、円滑にテレワークを行ったり、手軽に業務改善ができるよう、職員に向けてシステムツールの紹介、利用方法に関する動画コンテンツの作成・公開なども行われている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◇ 財務会計システム、旅費業務システム、文書管理業務システム、施設予約システムについて、新たな運用が始まり、改善に向けた検討が行われるなど、改善が図られている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◎ 施設予約システムの導入や業務量分析などの業務効率化を推進</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		2	◎ 会計、旅費、文書管理、施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。 ◇ 法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備され、コロナ禍後も多様で柔軟な働き方が可能となったことを評価するとともに、その実現を期待したい。	1	◎ コロナ禍を契機に職員が自宅で勤務可能な体制の整備が進み、コロナ禍後の多様な働き方の実現へとつなげるための取組へと発展している点が評価できる。働き方改革推進計画(案)を策定し、改革推進の枠組みを示し、実施体制も整備された。また、円滑にテレワークを行ったり、手軽に業務改善ができるよう、職員に向けてシステムツールの紹介、利用方法に関する動画コンテンツの作成・公開なども行われている。	2	◇ 財務会計システム、旅費業務システム、文書管理業務システム、施設予約システムについて、新たな運用が始まり、改善に向けた検討が行われるなど、改善が図られている。	3		2	◎ 施設予約システムの導入や業務量分析などの業務効率化を推進	3	
評定	評定説明																					
(2)	◎ 優れた点・特色ある点 ・ 会計、旅費、文書管理、施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。 ・ 法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備されるとともに、職員の柔軟な働き方が可能となった。																					
	◇ 更なる充実が期待される点 ・ 今後、法人における働き方改革が推進され、多様な働き方の実現や、法人内共通業務の効率化がより一層行われることを期待する。																					
評定	評定説明（コメント）																					
3																						
2	◎ 会計、旅費、文書管理、施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られた。 ◇ 法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備され、コロナ禍後も多様で柔軟な働き方が可能となったことを評価するとともに、その実現を期待したい。																					
1	◎ コロナ禍を契機に職員が自宅で勤務可能な体制の整備が進み、コロナ禍後の多様な働き方の実現へとつなげるための取組へと発展している点が評価できる。働き方改革推進計画(案)を策定し、改革推進の枠組みを示し、実施体制も整備された。また、円滑にテレワークを行ったり、手軽に業務改善ができるよう、職員に向けてシステムツールの紹介、利用方法に関する動画コンテンツの作成・公開なども行われている。																					
2	◇ 財務会計システム、旅費業務システム、文書管理業務システム、施設予約システムについて、新たな運用が始まり、改善に向けた検討が行われるなど、改善が図られている。																					
3																						
2	◎ 施設予約システムの導入や業務量分析などの業務効率化を推進																					
3																						
<p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>																						

【評定（見込評価）】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 32】 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(2)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人内共通業務の効率化や、テレワークをはじめとする多様で柔軟な働き方を可能とする環境整備が進められている。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、法人における働き方改革が推進され、多様で柔軟な働き方の実現や、法人内共通業務の効率化がより一層行われることを期待する。 業務効率化・合理化の取組は、コロナ禍を大きな転機・チャンスとして生かしてほしい。また、経費や業務量削減等の「見える化」にも期待する。

参考意見（案）

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
3	◇ 事務処理効率化についてはコロナ禍を大きな転機のチャンスとして生かしていただきたい。
2	◎ 会計、旅費、文書管理、施設予約それぞれで業務執行の効率化が図られている。 ◇ 法人全体、とりわけ事務組織全体でテレワークを行いやすい環境が整備され、コロナ禍後も多様で柔軟な働き方が可能となったことを評価するとともに、その実現を期待したい。
2	◎ コロナ禍を契機に進んだテレワーク等の柔軟な働き方が進んだが、引き続き、働き方改革推進計画（仮称）に基づき、多様な働き方の実現、法人内共通業務の効率化が推進されることが期待される。法人部門、大学・高専管理部門が一体となり、業務の見直し、各種制度の検討・構築、システム化の推進等を行うこととしている点が評価できる。
2	◇ 法人本部管理部門の DX の進展については、引き続き研究を続けて、働き方改革、業務の効率化を更に進化させて頂きたい。
3	
2	◇ 業務効率化・合理化の取組みの「見える化」
3	

V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 / 2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 / 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

大項目 33 財務内容の改善	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
			4-15	都立大学の入学考査料収入確保、オープンユニバーシティの公開講座等収入及びプレミアム・カレッジ選考手数料収入、外部資金獲得促進のための施策策定と組織体制強化
4-16	寄附金受付システムの周知促進・利用拡大	S		
4-17	学生納付金等の適正水準の検討	B		
4-18	人件費の適正な管理、過年度決算分析及び戦略的な予算措置	B		
4-19	強固な財政基盤の構築	B		
4-20	学内施設(有形資産)の有効活用の促進、知的財産等(無形資産)の有効活用の促進のための情報発信、技術移転活動の強化に向けた取組	B		

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 33】 年度評価																						
<p>評価素案</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(3)</td> <td>◎優れた点・特色ある点 ・「東京都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、29,270 千円の寄付を集め、学生の経済的支援に尽力した。</td> </tr> <tr> <td>◇更なる充実が期待される点 ・学生の経済的支援については、今後も社会情勢を見極めながら、法人一丸となって、適切な対応を期待する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生を中心ターゲットとして寄付金募集体制を構築することは、愛校心の喚起、醸成の一助となり、経済的効果以上に長期的な無形の価値につながると考える。 	評定	評定説明	(3)	◎優れた点・特色ある点 ・「東京都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、29,270 千円の寄付を集め、学生の経済的支援に尽力した。	◇更なる充実が期待される点 ・学生の経済的支援については、今後も社会情勢を見極めながら、法人一丸となって、適切な対応を期待する。	<p>委員別評定等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評定</th> <th>評定説明（コメント）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◇ 新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮している学生に対して給付するためにコロナ基金として寄付を集め、学生の経済的支援に尽力した。今後も社会情勢を見極めながら、適切な対応を期待したい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ オープンユニバーシティについて、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、春期及び夏期講座は中止となったが、秋期及び冬期講座はオンラインで 35 講座を開講した点が評価できる。開設数・開講数・受講者数は大幅減となったものの、会員数は微増しており、新規会員 83 名も得ている。 ◎ 「東京都立大学 新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に困窮している学生の支援を行った点が評価できる。29,270 千円の寄附を集め、800 人の学生に対して5万円の給付が行われている。また、寄附意欲の促進を図るため、寄附者銘板の設置などの顕彰制度の充実を図った点も評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ コロナ禍による経済的困窮学生の支援目的の「新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、29,270 千円の寄付金収入が上げられたことは良かった。また、卒業生を中心ターゲットとして寄付金募集体制を構築することは、愛校心の喚起、醸成の一助となり、経済的効果以上に長期的な無形の価値につながると考える。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>◎ 「新型コロナウイルス緊急支援基金」を開設し、約 3000 万円集めて学生支援を行ったことを高く評価したい(実行上の工夫を含む)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>◎ 「東京都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金」を設け、29, 270 千円【決算確定後確定】の寄附を集め、学生に給付を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	評定	評定説明（コメント）	3		3	◇ 新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮している学生に対して給付するためにコロナ基金として寄付を集め、学生の経済的支援に尽力した。今後も社会情勢を見極めながら、適切な対応を期待したい。	2	◎ オープンユニバーシティについて、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、春期及び夏期講座は中止となったが、秋期及び冬期講座はオンラインで 35 講座を開講した点が評価できる。開設数・開講数・受講者数は大幅減となったものの、会員数は微増しており、新規会員 83 名も得ている。 ◎ 「東京都立大学 新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に困窮している学生の支援を行った点が評価できる。29,270 千円の寄附を集め、800 人の学生に対して5万円の給付が行われている。また、寄附意欲の促進を図るため、寄附者銘板の設置などの顕彰制度の充実を図った点も評価できる。	2	◎ コロナ禍による経済的困窮学生の支援目的の「新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、29,270 千円の寄付金収入が上げられたことは良かった。また、卒業生を中心ターゲットとして寄付金募集体制を構築することは、愛校心の喚起、醸成の一助となり、経済的効果以上に長期的な無形の価値につながると考える。	3		2	◎ 「新型コロナウイルス緊急支援基金」を開設し、約 3000 万円集めて学生支援を行ったことを高く評価したい(実行上の工夫を含む)	3	◎ 「東京都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金」を設け、29, 270 千円【決算確定後確定】の寄附を集め、学生に給付を行った。
評定	評定説明																					
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・「東京都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、29,270 千円の寄付を集め、学生の経済的支援に尽力した。																					
	◇更なる充実が期待される点 ・学生の経済的支援については、今後も社会情勢を見極めながら、法人一丸となって、適切な対応を期待する。																					
評定	評定説明（コメント）																					
3																						
3	◇ 新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮している学生に対して給付するためにコロナ基金として寄付を集め、学生の経済的支援に尽力した。今後も社会情勢を見極めながら、適切な対応を期待したい。																					
2	◎ オープンユニバーシティについて、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、春期及び夏期講座は中止となったが、秋期及び冬期講座はオンラインで 35 講座を開講した点が評価できる。開設数・開講数・受講者数は大幅減となったものの、会員数は微増しており、新規会員 83 名も得ている。 ◎ 「東京都立大学 新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に困窮している学生の支援を行った点が評価できる。29,270 千円の寄附を集め、800 人の学生に対して5万円の給付が行われている。また、寄附意欲の促進を図るため、寄附者銘板の設置などの顕彰制度の充実を図った点も評価できる。																					
2	◎ コロナ禍による経済的困窮学生の支援目的の「新型コロナウイルス緊急支援基金」を設置し、29,270 千円の寄付金収入が上げられたことは良かった。また、卒業生を中心ターゲットとして寄付金募集体制を構築することは、愛校心の喚起、醸成の一助となり、経済的効果以上に長期的な無形の価値につながると考える。																					
3																						
2	◎ 「新型コロナウイルス緊急支援基金」を開設し、約 3000 万円集めて学生支援を行ったことを高く評価したい(実行上の工夫を含む)																					
3	◎ 「東京都立大学新型コロナウイルス緊急支援基金」を設け、29, 270 千円【決算確定後確定】の寄附を集め、学生に給付を行った。																					

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 33】 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(3)	◇更なる充実が期待される点 ・ 寄附金獲得による外部資金収入の増加に向けた取組について、寄附制度の整備が進んでいるので、今後、効果的な運用の実現を期待する。 ・ 外部資金の獲得について、令和2年度の産技大における文部科学省の大型補助金の採択は顕著な実績と言えるが、全体として、順調な増加傾向にあるとは言い難い。教員職員双方の立場から、各項目における外部資金獲得増加のための施策を今一度検討することを期待する。 ・ 資産の有効活用について、より一層の取組が望まれる。

参考意見

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
3	◇ 寄付収入の増加については仕組みの導入は進んでいるので、これの効果的運用を実現していただきたい。
3	
3	
3	◇ 外部資金(受託研究費、寄附金、科研費間接経費等)獲得については、今年度の産技大の DX 関係補助金は喜ばしいが、必ずしも順調な増加傾向にあるとは言い難い。各項目毎に、改めて、教員職員双方の立場から、獲得資金増加のための施策を検討して頂きたい。
3	
3	◇ 有形資産、無形資産活用への取組みに注力
3	

VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 / 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置

大項目 34 自己点検・評価及び情報の提供	小項目	主な取組	自己評価	
			年度	見込
	4-21	2大学1高専各校における自己点検・評価や認証評価等の対応等、評価委員会からの評価結果等の法人経営や教育研究の質の向上の取組への反映	B	B
	4-22	評価結果や財務情報等のホームページによる継続的な公開	B	
	4-23	プレゼンス向上に向けた積極的な広報展開と効果検証の実施、組織広報力の向上等	B	
4-23-2	卒業生・同窓会等との連携強化	A		

【評定（年度評価）】1…年度計画を大幅に上回って実施している。2…年度計画を上回って実施している。3…年度計画を順調に実施している。4…年度計画を十分に実施できていない。5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 34] 年度評価

評価素案	委員別評定等
評定	評定説明（コメント）
<p style="text-align: center;">(3)</p> <p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の効果検証、専門家を活用した調査・分析により、各大学・高専の強みや特色等をターゲット別に効果的に広報する取組を推進した。 ・ 2大学1高専各校において、卒業生・同窓会等との結びつきを強化する様々な取組が行われた。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、卒業生・同窓会等との連携・協力が更に発展していくことを期待する。 	<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">3</p>
<p>参考意見（案）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	<p>◇ 各校で卒業生との結びつきを強化する多様な取組が実施されている。今後さらに、卒業生との連携、協力が発展していくことを期待する。</p> <p>◎ 広報の効果検証、専門家を活用した調査・分析により、各大学・高専の強みや特色等をターゲット別に効果的に広報する取組を推進している点が評価できる。ソーシャルメディアも有効に活用し、フォロワー数も拡大している。</p> <p>◎ 2大学1高専とも、卒業生・同窓会等との連携を強化している点が評価できる。都立大では、同窓会が法人化されることに伴い、連携の方向性を取りまとめている。産技大ではオンラインでホームカミングデイを開催したり、修生コミュニティの設置が行われている。高専では、卒業性が高専の情報に触れるきっかけを増やす工夫が行われている。</p> <p>◎ 東京都立大学同窓会の一般社団法人化、産技大のホームカミングデーオンライン開催、高専 HP での同窓会 HP((一財)鮫洲会)リンク掲載等、卒業生、同窓会との連携を図る施策が拡充されていることを評価する。</p> <p>◎ 同窓会組織を活用した情報発信強化の取組みを高く評価（「コロナウイルス緊急支援基金」にも貢献）</p>

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 34】 見込評価

評価素案		委員別評定等	
評定	評定説明	評定	評定説明（コメント）
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 2大学1高専の認知度及びプレゼンス向上のため、各校において、それぞれの特色を生かした広報戦略を策定し、各戦略に基づいた取組が行われている。 ・ 2大学1高専各校において、卒業生・同窓会等との結びつきを強化する様々な取組が行われている。 ◇更なる充実が期待される点 ・ 2大学1高専の認知度・プレゼンス向上に向けた取組の継続及び強化を期待する。特に、認知度の定量的な把握(見える化)に努めることが望まれる。 ・ 今後、卒業生・同窓会等との連携・協力が更に発展していくことを期待する。	3	
		3	
		3	◎ 認知度及びブランド力を向上のため、2大学1高専とも、それぞれの特色を活かした広報戦略を立て、取組を推進している点が評価できる。
		3	
		3	
		3	◎ 同窓会組織の活用 ◇ 認知度向上への取組み継続・強化、認知度向上の「見える(定量)化」。
		3	
参考意見（案） <div style="background-color: yellow; height: 100px; width: 100%;"></div>			

Ⅶ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 / 2 安全管理に関する目標を達成するための措置 / 3 法令遵守等に関する目標を達成するための措置

大項目 35

その他業務運営

小項目	主な取組	自己評価	
		年度	見込
4-24	都立大の将来を見据えたキャンパスグランドデザイン等の策定、計画的な施設整備、日野キャンパスの新棟建設に向けた準備	B	B
4-25	学生及び教職員等に対する安全衛生教育・訓練の実施、研究室(実験室)等の使用ルール策定・周知	B	
4-26	防災体制の強化、教職員に対する防災関係の取組、災害対応マニュアルの整備	B	
4-27	省エネルギー対策の推進	B	
4-28	ハラスメント防止の意識啓発の取組、ハラスメント発生時の適切な対応	B	
4-29	有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組	B	
4-30	研究不正行為・研究費不正使用の防止、研究コンプライアンス研修の実施	B	
4-31	更なる情報セキュリティ体制の強化、情報セキュリティ意識向上、今後を見据えた技術的セキュリティ強化策	B	

【評定(年度評価)】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。

【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

[大項目 35] 年度評価

評価素案

評定	評定説明
(3)	<p>◎優れた点・特色ある点</p> <ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアル(法人版)を更新するとともに、新型コロナウイルス感染症対応マニュアル(都立大版)を新たに作成し、迅速かつ適切な危機対応に努めた。 研究コンプライアンス研修の受講率が、教員、職員とも100%となった。 情報セキュリティ意識の向上を目的とするeラーニングの実効性を高めるために、都立大において、関係規定を改正し、学内の情報システム等の利用資格の前提として受講が必須であることを明文化した。 <p>◇更なる充実が期待される点</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院生の研究コンプライアンス研修受講率100%を目指し、取組の強化を期待する。また、教職員に関しても、個別の受講督促が必要な状況が続いていることから、受講意識の更なる浸透が望まれる。 非常勤教員をはじめ、情報セキュリティに関わるリスクのある構成員に対しては、常勤の教職員と同様にeラーニングの受講を推進する取組を期待する。

参考意見(案)

--

委員別評定等

評定	評定説明(コメント)
3	
3	
3	<p>◎ 災害マニュアルの整備について、新型コロナウイルス感染症対応マニュアル(都立大版)を新たに作成し、法人内ポータルサイト及び都立大のホームページの学内専用ページに掲載して情報共有を行った点が評価できる。実際に学生や教職員に感染の疑いがある場合又は感染した場合に、迅速な対応ができています。</p> <p>◎ 研究コンプライアンス研修について、教員、職員とも100%の受講率であり、意識向上を図るための取組を徹底している。</p> <p>◇ 全教職員を対象に情報セキュリティ意識の向上を目的としたeラーニングを行うとともに、受講徹底のために周知の充実や厳しい措置を設ける等の工夫も行われている。都立大では、オンライン授業の実施により、アカウントを付与した非常勤教員が大幅に増えたことにより受講率が低下しているとのことだが、非常勤教員においても、情報セキュリティに関わるリスクのある層に対しては、同様にeラーニングの受講を推進する等の取組が期待される。</p>
3	◎ 研究倫理教育のeラーニング受講率が、教員は100%を達成し、院生や学部生においても、受講率が再び上向きになっている。
3	
2	<p>◎ 教職員のコンプライアンス研修受講率100%達成</p> <p>◎ コロナを含めた危機管理マニュアルの改訂</p> <p>◇ 都立大教員の「情報セキュリティ研修」受講率100%化</p> <p>◇ 大学院生の「研究コンプライアンス研修」受講率100%化(現状77.5%)</p>
3	<p>◎ コンプライアンス研修受講率は、教員、職員とも【100%】となった。</p> <p>◎ 都立大において、eラーニング受講の実効性を高めるため規定を改正し、利用資格の前提として研修受講が必須であることを明文化した。</p> <p>◇ コンプライアンス研修に際し、教員の受講意識が高いとは言えない状況(個別の受講督促が必要)の改善。</p>

【評定(見込評価)】 1…中期目標の達成状況が極めて良好である。 2…中期目標の達成状況が良好である。 3…中期目標の達成状況が概ね良好である。 4…中期目標の達成状況がやや不十分である。 5…中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である。
 【評価素案・評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

【大項目 35】 見込評価

評価素案	
評定	評定説明
(3)	◎優れた点・特色ある点 ・ 過去に発生した情報セキュリティ事故を踏まえ、事故防止を強化するための取組を着実に進めている。 ・ 危機管理マニュアルについて、地震と地震以外の事象とに再編・整備したり、新型コロナウイルス感染症に関するマニュアルを別途作成する等、危機管理の充実が図られている。
	◇更なる充実が期待される点 ・ コロナ禍での対応で得た経験やノウハウをマニュアルに反映する等して、今後起こり得る危機事象に備えていくことが望まれる。 ・ 研究コンプライアンスや情報セキュリティに関する各種研修受講率100%を目指して取り組まれない。 ・ オンライン授業やテレワークの普及等により、情報セキュリティの重要性が高まっている。コロナ禍の収束後も含め、情報セキュリティ対策の更なる充実を期待する。
参考意見	

委員別評定等	
評定	評定説明（コメント）
3	◎ 平成 29 年度情報セキュリティ事故後の対応策は十分に進行している点は評価できる。
3	
3	◎ 危機管理マニュアルの整備・見直しについて、地震と地震以外の事象とに再編整備したり、新型コロナウイルス感染症に関するマニュアルを別途作成する等、充実が図られている点が評価できる。引き続き、コロナ禍で対応してきたことをマニュアルに反映し、今後に備えていくことが期待される。
3	◇ コロナ禍が収束しても、オンライン授業、テレワーク等、情報セキュリティに注意を払う活動が、コロナ以前と比べて増えることは間違いないであろう。その対策の充実が必須となる。
3	
3	◎ コンプライアンス研修受講率100%化への取組みと達成 ◇ 各種研修受講率の100%化と受講結果の「見える化」
3	